

地域と共に21世紀的課題に 立ち向かう福島大学

福島大学は、福島県唯一の国立大学法人として、長きにわたり地域とともに歩みを進めてきた大学です。本学は、人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類、共生システム理工学類、そして令和元年度に新設した食農学類の5学類からなる総合大学で、各学類は、学問分野に沿って細分化されたコースで編成され、それぞれカリキュラムの下で学生が学び、専門性を深めています。

本学は学際性を重視しています。独自の「学類」制は、一般的な「学部」と比べてカリキュラムに柔軟性を持たせることができます。他学類の授業を受講するなどして、今日強く求められている幅広いものの見方や多視点的な学びを得ることを目指しています。教育理念を「問題解決を基盤とした教育」とし、「解のない問いにチャレンジできる人材」の育成を目標に掲げています。今から11年前の東日本大震災、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故で、本学は発災直後から、避難所の開設と運営、県内外での学生ボランティア活動、地域の放射線の測定、被災地の実態調査など、多面的に支援活動を行い、これによって大学はたくさんの学びを得ました。

「問題解決を基盤とした教育」という理念には、震

災復興の様々な活動で得た知見を教育課程に組み込んでいくと同時に、教科書の中に閉じ込められている体系的な知識を一方的に教えるだけではなく、学生自らが複雑な現実社会に飛び込み、一人ひとりが自分なりのアプローチで問題を発見し、仲間とともに探究し合い、自分自身の生き方や社会のあり方を熟考してもらいたいという願いがこめられています。この理念を体現するカリキュラムとして、一つに「地域実践特修プログラム」をあげることができます。これは、主として講義科目「ふくしま未来学入門Ⅰ/Ⅱ」とフィールドワーク科目「むらの大学」、並びに、問題探究科目で学んだ事柄を、自主学修プログラムや各学類の専門科目に広げていく科目群です。大学の教室で、また、浜通りの被災地で、様々な講師や現地の人々から学び、震災の様態や復興の歩みなどを立体的に学ぶことができ、これを通して被災地の復興に貢献するだけでなく、新しい社会のあり方を考えられるイノベーターの育成を目指しています。

もう一つの「グローバル特修プログラム」は、語学学習の強化、国際交流機会の提供、海外留学の支援などを通して、グローバル人材の育成を目指す科目群です。本学学生が、海外留学生の福島県内視察をサポート

トし、意見交換・交流を行う体験型被災地学習「Fukushima Ambassadors Program (F.A.P.)」なども行っており、福島の復興にも大きく貢献しています。

福島大学は、福島市南部の金谷川キャンパスに全ての学類がまとまって設置されており、主として1,2年生が受講する基盤教育科目は、学類を超えた多様な学生と学ぶこととなります。課外活動(部活動、サークル活動)も盛んで、様々な活動に取り組む学生たちが出会い、そこからまた新しい活動が日々生まれています。本学は、開学以来学生の自主性を尊重する伝統が貫かれ、加えて、学生と教職員が互いに権利を守り、協力して大学を発展させる自治の精神が生きており、キャンパスの中には社会の多様性や自律性を考える機会がたくさんあります。大震災を乗り越えてきた本学は、11年を経ても様々な困難や課題に寄り添う姿勢が息づいており、今なお活発なボランティア活動にその片鱗を見ることができます。

さて、2年程前から新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、人々の健康や社会生活のみならず、国際関係に至るあらゆる面で深刻な影響を与えました。本学では感染拡大を防止しつつ、大学の教育機能とを両立させるため、遠隔授業の活用や本学独自の経済支援や食

糧支援、さらには管理運営においても様々な工夫と対策を行ってきました。

今現在、ウクライナへの攻撃により、国際平和を維持してきた枠組みが大きく変わろうとしています。本学とウクライナは環境放射能に関わる共同研究を進めてきた関係にあり、大学としてウクライナのためにできることを模索しています。福島大学は大震災や新型コロナウイルス感染症という困難に直面して、大きな学びを得て成長してきた大学、言わば「レジリエンス(復元力・反発力)の大学」ともいえるでしょう。厳しい状況の中で、国の最高学府としての英知を結集し、現実の課題を創造的にのりこえていく人材を社会に送り出すことを目標に掲げています。

「福島大学でしか学べないこと」がたくさんあります。本学での学びや経験は、よりよい自分自身のあり方、よりよい社会のあり方を実現する基礎となります。共に福島大学で学びましょう。

福島大学学長 三浦 浩喜

INDEX

- 01 学長メッセージ
- 03 forR プロジェクト
- 07 「解のない問い」にチャレンジ
- 09 地域に学ぶ
- 13 世界で学ぶ(国際交流)
- 15 自分を知る・未来を考える
- 17 学類・コースINDEX
- 19 人間発達文化学類
- 21 カリキュラムの特長
- 22 学類長メッセージ・教員紹介
- 24 実習ビックアップ
- 25 コース紹介
- 29 行政政策学類
- 31 カリキュラムの特長
- 32 学類長メッセージ・教員紹介
- 33 1年次の学び
- 35 2年次の学び
 - 地域政策と法コース
 - 地域社会と文化コース
- 37 学びのかたち
- 38 3・4年次の学び
- 39 夜間主紹介
- 41 経済経営学類
- 43 カリキュラムの特長
- 44 学類長メッセージ・教員紹介
- 45 経済学コース
- 47 経営学コース
- 49 コース横断プログラム
- 51 共生システム理工学類
- 53 カリキュラムの特長
- 54 学類長メッセージ・教員紹介
- 56 1年次の学び
- 57 コース紹介
- 61 食農学類
- 63 カリキュラムの特長
- 64 学類長メッセージ・教員紹介
- 65 1年次の学び
- 66 2年次の学び
- 67 コース紹介
- 69 2年後期～3年次の学び
- 71 大学院
- 75 キャンパスマップ
- 77 施設紹介
- 79 めばえる福大生
- 81 STUDENT'S LIFE
- 83 サークル紹介
- 87 就職・進路支援
- 88 進路状況
- 89 入試データ
- 90 学費・奨学金制度
資料請求



福島県が抱える課題を解決へ foR プロジェクト



福島大学では「福島での課題解決」に結びつく研究を、重点研究分野「foR プロジェクト」に指定しました。震災や原発事故による深刻な地域課題の解決に向け、研究が加速することが期待されます。

※「R」は Research、「F」は Future、「A」は Area の頭文字です。

趣旨

「福島大学ミッション 2030」の遂行に資する研究について、学長のリーダーシップのもと福島大学の重点研究分野に指定します。

区分

(1) foR-F プロジェクト (3カ年度)

福島県の地域課題解決に必要な研究であるとともに、国策としても重要な研究など、特に地域・社会ニーズが高いと認知されている、将来的に大学の価値を高める(大学の特色となる)ことが見込まれる研究プロジェクト

(2) foR-A プロジェクト (単年度)

福島県の地域課題の解決に必要な研究を行うプロジェクト

令和4年度 foR プロジェクト採択事業

(1) foR-F プロジェクト(継続、3カ年計画の2年目)

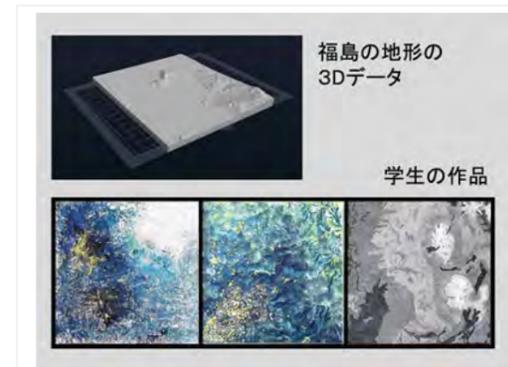
■福島型 STEAM 教育の開拓	人間発達文化学類: 中田 文恵(代表)、新井 浩、初澤 敏生、渡邊 晃一 共生システム理工学類: 岡田 努、馬場 一晴
■官学連携による「住民参加型行財政システム」の構築に向けた実証的研究-人材育成に向けた「公共政策プログラム」の開設を通して-	経済経営学類: 藤原 遥(代表)、村上 早紀子 行政政策学類: 岸見 太一 法政大学: 林 嶺那
■脱炭素型エネルギーシステムの構築:水素をつくる・つかう技術の多様化	共生システム理工学類: 大山 大(代表)、浅田 隆志、 客員准教授: 小井土 賢二
■ゲノム科学・技術を援用した栽培・発酵好適性イネ系統の開発基盤研究	食農学類: 松田 幹(代表)、松岡 信、小山 良太、藤井 力、高橋 秀和、 吉田 英樹、菅波 真央、客員教授: 北野 英己、吉田 晋弥

(2) foR-A プロジェクト(新規採択、単年度)

■多彩な専門家の協働によるローカルかつグローバルな福島生物研究	共生システム理工学類: 兼子 伸吾(代表)
■使用済廃棄プラスチックを分解する酵素研究	共生システム理工学類: 杉森 大助(代表)
■福島野菜の有利性を科学的に証明 ~多様な気象条件が栄養・機能に及ぼす影響を探る~	食農学類: 深山 陽子(代表)、平 修、牧 雅康
■農地や生活圏域での流路内浸透・貯留工法による ノンポイント汚濁削減技術の地域実装	食農学類: 原田 茂樹(代表)、石井 秀樹、窪田 陽介、林 薫平
■戦後日本社会科学エゴ・ドキュメント・アーカイブの構築と活用 -国際的研究拠点整備による福島県の歴史研究の活性化-	行政政策学類: 阪本 尚文(代表)、金井 光生、名誉教授: 菊池 社蔵



数学アートプロジェクト中間発表会



アート&サイエンスプロジェクト

[foR-F プロジェクト]

■福島型 STEAM 教育の開拓

人間発達文化学類: 中田 文恵(代表)、新井 浩、初澤 敏生、渡邊 晃一

研究目的、成果報告

STEAM教育とは、科学技術を牽引するSTEM科目群《Science(科学)・Technology(技術)・Engineering(工学)・Mathematics(数学)》にArt(芸術・人文科学)の発想を加えた分野横断的な学びを指します。AIに代替されない創造性を育み、「人間中心の社会」を築く人材を育てる、その鍵となるのがSTEAM教育です。本プロジェクトの目標は、地域の企業・教育機関と連携しながら、福島ならではのSTEAM教育を構築し、STEAM人材を持続的に育成する体制を実現することです。

令和3年度は具体的な取り組みとして、プログラミングで数学的なアート作品を制作する「数学アートプロジェクト」と、3Dプリンタで制作した福島の立体地図をもとにアート作品を制作する「アート&サイエンスプロジェクト」を、それぞれ20名の学生とともに実践しました。STEAM教育の拠点となる「STEAMラボ」準備室の設置や、STEAM教育に関する理論研究・先行事例の研究も進め、福島型STEAM教育構想の具体化を進めています。令和4年度以降、さらに活動を充実させていきます。

[foR-F プロジェクト]

■官学連携による「住民参加型行財政システム」の構築に向けた実証的研究-人材育成に向けた「公共政策プログラム」の開設を通して-

経済経営学類: 藤原 遥(代表)、村上 早紀子
行政政策学類: 岸見 太一
法政大学: 林 嶺那

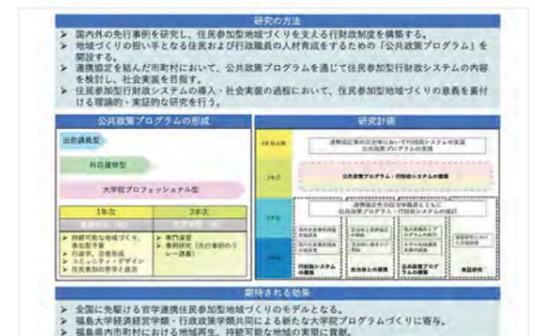
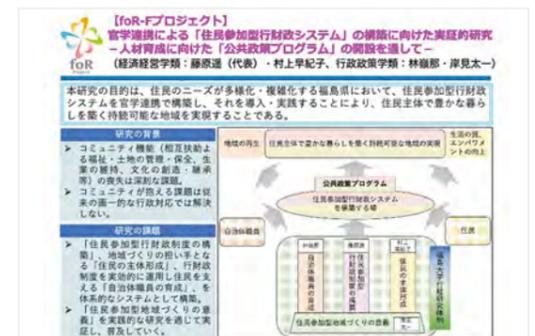
研究目的、成果報告

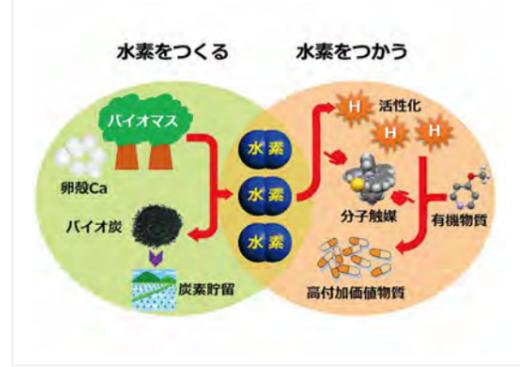
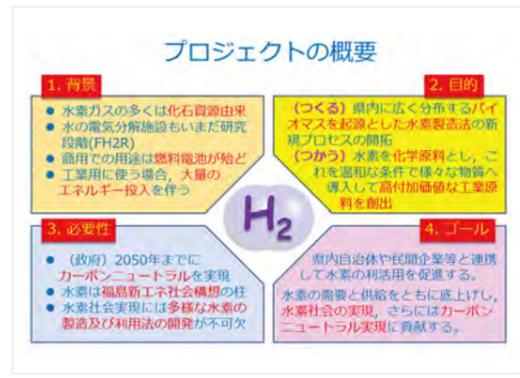
本研究の目的は、住民のニーズが多様化・複雑化する福島県において、住民参加型行財政システムを官学連携で構築し、それを導入・実践することにより、住民主体で豊かな暮らしを築く持続可能な地域を実現することです。

研究成果は3つあります。第一に、住民参加型地域づくりを支える行財政制度、および民主主義的な合意形成・決定プロセスについて、メンバーそれぞれが先進事例を調査したうえで、それらを持ち寄り、特徴やメリットデメリット、応用可能性などの検討を進めました。第二に、公共政策を専門とする他大学の大学院について文献調査やヒアリングなどを実施し、それを参考にして本学の地域デザイン科学研究科に設置する新たなプログラムの検討を行いました。第三に、特定の自治体と、連携協定締結に向けて協議を進めました。

福島大学研究シーズ集

福島大学では、これまで培ってきた研究成果や技術を生かし、企業や地域、自治体のみならずとの連携による様々な研究を行っています。 [詳細はこちら](#)





[foR-F プロジェクト]

■ ゲノム科学・技術を援用した栽培・発酵最適性イネ系統の開発基盤研究

食農学類: 松田 幹(代表)、松岡 信、小山 良太、藤井 力、高橋 秀和、吉田 英樹、菅波 真央、客員教授: 北野 英己、吉田 晋弥

研究目的、成果報告

研究対象とするイネ(米)は、麹カビ (*Aspergillus oryzae*) を生育させ酵素を作らせる(麹を製造する)ための優れた発酵素材作物であり、味噌と日本酒の醸造のみならず、飲料や漬物、調味料にも用いられています。本研究では、栽培農家にとって、また醸造家にとっても好適な発酵素材用米を開発するための学術基盤を構築することを目的としています。既存の酒造好適米系統を親株として作成された酒米変異株、および栽培特性が異なる酒造好適米系統をかけ合わせた酒米交配株について、総計40系統・全4000株を用いて地域の連携協力農業法人の水田で栽培し、苗の成長や出穂、開花などの生育特性を調べました。生育の良好な早生の性質を持つ系統を中心に選抜して次年度の栽培に用いる種籾を確保しました。また、発酵最適性の主要要素である製麹適性について、麹の生育や酵素生産性など米の製麹好適性をできるだけ少量で評価できるように製麹条件を改良して、これまでの最低必要量の1/10以下でも同等の評価が可能なる方法を確立しました。

[foR-F プロジェクト]

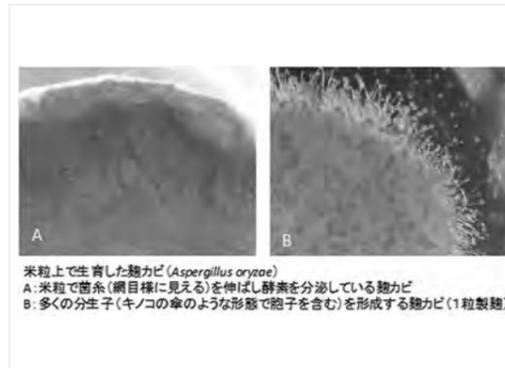
■ 脱炭素型エネルギーシステムの構築 水素をつくる・つかう技術の多様化

共生システム理工学類: 大山 大(代表)、浅田 隆志

研究目的、成果報告

世界中の国々はカーボン・ニュートラルへシフトしています。日本でも、特に福島県は利用時にCO₂を発生しない“水素”という新エネルギーに注目し、全国に先んじて水素社会の実現に挑戦しています。私たちは、木材等の生物資源(バイオマス)から水素を製造する手法、製造した水素を化学原料として様々な物質へ導入する手法を研究しています。これらの研究を通して、水素の普及拡大に貢献したいと考えています。

木炭を製造(炭化)する際には水素などの有用ガスが生成します。スギの炭化プロセスでは、炭化温度の上昇に伴い水素と一酸化炭素の生成量が増加することが分かりました。また、卵殻と一緒に炭化すると一酸化炭素の生成量が増加しました。一方で水素は安定な物質なので、化学反応に直接使うとハーバー法のように多大なエネルギーを要します。そこで、生体補酵素の分子構造を模倣した化合物を合成し、それを用いることにより温和な条件で水素が様々な物質に導入できることを見出しました。



[foR-A プロジェクト]

■ SDGsを見据えた福島農産物のブランド化と健康寿命延伸~美味しさと健康を一つに~

食農学類: 平修(代表)、深山 陽子、牧 雅康

研究目的、成果報告

世界的な気候変動は始まっています。私達は、気象予測から今の農地で、未来に、何が採れるのかを提案しました。福島県産農産物の品質・美味しさ・機能性成分を見える化しました。

〈福島産お米〉アルギニン、ビタミンE、オリザノール、フィチン酸といった機能性成分の他、グリシンが米糠層および胚芽に多いことが発見となる。グリシンは甘味アミノ酸として知られている他、近年、睡眠の質を改善する物質として注目されている。(福島県産ブロッコリー)収穫時期で機能性成分のコエンザイムQ10やビタミンKの含有量に違いがあることを発見しました。

大学の応援以外にクラウドファンディングで研究の応援・ご支援いただいたことに感謝いたします。



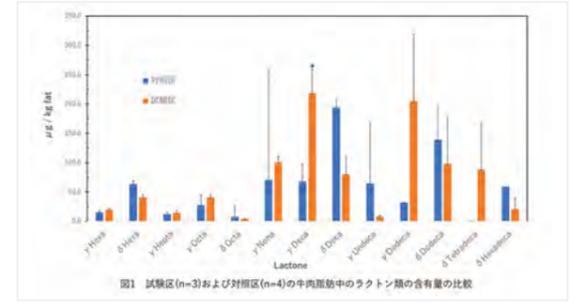
[foR-A プロジェクト]

■ 風評被害に苦しむ中山間地肥育牛の再ブランド化プロジェクト

食農学類: 石川 尚人(代表)、平修、吉永 和明、原田 英美

研究目的、成果報告

飯館牛復活のための新たなブランド指標の検索を目的として、飯館村の和牛に給与濃厚飼料の約40%を高オレイン酸含有脂肪酸Caおよび米に置き換えた資料を4か月与え(試験区:3頭)、筋肉内脂肪中のオレイン酸およびラクトン類含有率を通常肥育牛(対照区:4頭)の値と比較しました。オレイン酸を含めた脂肪酸の含有率には両区の間には差は認められなかったものの、試験区においてはγ-Decalactoneおよびγ-Dodecalactone含有率が高く、γ-Decalactone含有率では有意差が認められた(図1)ことから、新たなブランド指標として香り成分のラクトン類が有力である可能性が示されました。



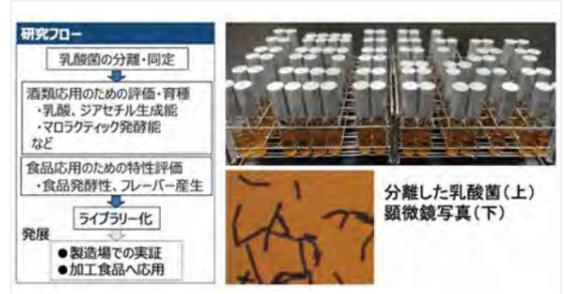
[foR-A プロジェクト]

■ 福島の酒類産業等の活性化のための酒類醸造・食品発酵に適した乳酸菌の開発研究

食農学類: 藤井 力(代表)、熊谷 武久

研究目的、成果報告

新型コロナ感染症防止の観点から飲食店の自粛や酒類提供の禁止等により、小規模製造場の多い福島県の酒類産業は大きな打撃を受けました。本課題では、福島の酒類産業等の活性化のため、県内酒蔵の酒粕等から単離したオリジナル乳酸菌活用によるブランド化を目指します。清酒の生もと酒母における乳酸生成への利用やワインの味を丸くするマロラクティック発酵等食品産業への利用を目指し、菌株の単離や特徴把握、適性試験などを進めています。



[foR-A プロジェクト]

■ 原発周辺の沿岸生態系におけるトリチウムモニタリング基盤の構築と動態解明

環境放射能研究所: 和田 敏裕(代表)、高田 兵衛

研究目的、成果報告

福島第一原子力発電所事故から10年以上が経過し、福島の海の放射能レベルは落ち着き、漁業復興に向けた動きが更に加速する一方、トリチウム等を含むALPS処理水の海洋への放出が2023年に予定されています。本研究は、福島沿岸海域でのトリチウムモニタリング基盤を構築し、ALPS処理水の沿岸生態系への影響評価や将来予測に資することを目的としています。船で採取した海水と魚類のトリチウム濃度は約0.1 Bq/Lと他の海域と同じであることがわかりました。今後とも客観的データの公表を継続し、社会に対するトリチウムの科学的理解の向上に貢献します。



福島大学の教育 「解のない 問い」に チャレンジ

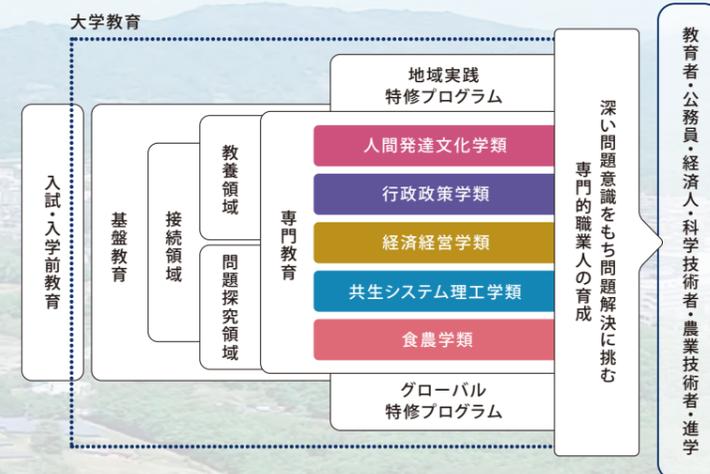
福島大学でしか 学べないことを学ぶ！

■福島県は、2011年3月東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われ、甚大な被害を被り、「Fukushima」は世界に知れ渡ることとなりました。

■福島大学は東日本大震災以降、被災地のフィールドワークや地域おこし、自然再生エネルギー人材育成などに取り組み、ユニークな教育を進めてきました。

■世界も、日本も、地域も、大きな変化の中にあり、たくさんの課題を抱え、容易に「答え」を導き出せない問題に満ちあふれています。福島大学は「解のない問い」にチャレンジする学生を育てる教育を創造します。

福島大学における教育体系のイメージ



入学から卒業まで、 手厚く教職員がサポートします。

入学前教育—入学後のサポート—授業・学習—サークルやボランティア—留学などの各種活動—就職支援—卒業研究、などの4年間の学生生活を、一貫した体制でサポートしていきます。これによって、誰でも目標に向かって意欲的に大学生活を送ることができ、さまざまな活動にチャレンジできます。

情報教育を実践的に変えていきます。

現代の情報化社会にふさわしい教育体系に変えていきます。各自がパーソナルコンピュータを通して、学内外のさまざまな情報にアクセスし、情報の収集や分析、まとめ、プレゼンテーションを実践します。21世紀の読み・書き・算を身につけます。

初年次の基盤教育を充実させます。

1年次生が学ぶ初年次教育(教養教育)は、本学独自の教育体系です。高校までの学び(教科書に書かれた知識を学ぶ)を大学での学修(自ら主体的に学ぶ)につなげる教育体系として「基盤教育」を充実させました。入学後、大学での学びを身につけるためのスタートアップとしての「接続領域」、幅広い教養の基礎を形づくる「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループを通し、時には一人で、時には学生間で意見を交わし課題を深く掘り下げ、そして解きほぐしていく「問題探究領域」が設定されています。



地域に学ぶ活動を強化します。

地域は多様な課題を抱えています。「地域実践特修プログラム」の「ふくしま未来学」を中心として、本学で学べる地域学習を広げ、地域の現状に触れ地域で活動する学習を増やし、問題探究・問題解決の力を伸ばします。

グローバル教育を充実させます。

学類を超えて、語学教育をグレードアップし、欧米圏やアジア圏との国際交流の機会や、海外留学を希望する学生にさまざまな情報や機会を提供します。

身につけた力を「見える化」します。

科目や科目群の学習目標を明示して、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸ばしたのかを情報技術を使って「見える化」します。アクティブ・ラーニングや実践的な学習を取り入れ、学生の学びを活性化させます。

キャリア教育と就職支援を強化します。

本学で先進的に取り組んできたキャリア教育をさらに発展させます。自治体や企業との連携を強化し、インターンシップの機会や就職支援を充実させて、就職に強い人材、社会に出て魅力的な仕事ができる人材を育てていきます。

「解のない問い」にチャレンジ

地域に学ぶ

授業の動画を
配信中!



地域実践特修プログラム

ふくしま未来学

-福島だから学べること-

福島大学は「地域実践特修プログラム」を通じて、
未来を創造できる人材の育成と、原子力災害からの地域再生を目指します。
文系・理系の全ての学類が一つのキャンパスに集まる
福島大学ならではの特修プログラムです。

多様な視点で学ぶ福島の「いま」と「これから」

講義「ふくしま未来学入門」

5学類オムニバス講義で復興の最前線を知る

ふくしま未来学入門I

2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原発事故は、
人びとの暮らしに甚大な影響をおよぼし、今なお現在進行
形の課題として私たちの前に存在しています。「ふくしま未
来学入門I」は、地域とともに歩む総合大学・福島大学の特性
を活かした、全5学類の教員によるオムニバス講義。人類が
初めて経験する福島の諸課題に、それぞれの学問分野でど

のような取り組みがなされ、学問知が実践知としてどのよ
うに活用されているのかを学ぶことで、多角的な視点と課
題解決型の思考を養うことを目指します。そこで得られる
力は福島に限定されず、今後世界が直面する様々な課題に
応用可能なものとなるはずです。

地域で活躍するゲスト講師陣と考える課題解決

ふくしま未来学入門II

「ふくしま未来学入門II」では、復興の現場で活躍しておら
れる多彩なゲスト講師をお招きし、地域で実際に行われてい
る取り組みについて具体的に学びます。震災と原発事故は人
類の歴史に残る大きな出来事ですが、福島県内各地で多くの

人びとの手によって取り組まれている復興と地域再生の歩
みもまた、歴史に刻まれる力強いものです。その一端に触れ
ることで、課題解決型の思考を養うとともに、自らの進路に
ついて考える契機となります。

学生が身につける5つの力

「地域実践特修プログラム」では
次の5つの力の養成を目指し、
学習効果のデータ収集と、
エビデンスに基づいた
教育プログラムの改善を行っています。

※対象となる科目群の単位を取得することで修了と認定さ
れる本学独自のプログラムです。科目群の詳細などは、入学
後にシラバスや学修案内を参照してください。

1. 地域課題を発見する力

地域にあらわれる多様な課題を発見する力

2. 地域を分析する力

科学的にかつ総合的に地域課題を理解する力

3. 地域を興す力

地域課題のミッションを明らかにし、自ら主体的に解決
するために行動する力

4. 地域をつなげる力

地域課題を解決するために、多様なセクターと協働する力

5. 地域を伝える力

地域課題の社会的解決に向けて、現状や地域の主体的な
取り組みを外部に発信する力



1年 復興の現場を繰り返し訪れ
 学ぶフィールドワーク

地域実践学習 「むらの大学」

原発事故により避難を余儀なくされ、現在、復興と地域再生に取り組む地域(双葉郡川内村・大熊町、南相馬市小高区)を繰り返し訪れ、地域住民の方々との交流・調査(フィールドワーク)、そして地域の課題解決に向けた活動(サービス・ラーニング)を行う授業です。5月のガイダンスから1月の現地報告会まで、年間を通して学びを深めます。



3・4年 学類の枠を超え、活動を通して学ぶ

協働プロジェクト 学修

文系・理系の5つの学類が、一つのキャンパスで学ぶ福島大学。その特性を活かし、3年生以上を対象に「協働プロジェクト学修(学類を超えたプロジェクト学修)」を実施しています。被災地域の復興や地域再生に関わるプロジェクトを、学類の垣根を超えて実施することで、学生の専門性や地域問題の解決能力、他の専門性を有するメンバーとの協働力・学際性などを伸ばすことを目標としています。

プロジェクトの例

- 農村地域居住における若者の選好の調査解析(飯館村)
- 除染後農地の肥沃度低下調査と回復を考える(飯館村)
- 大熊町の営農再開に向けて考える(大熊町)
- 農スポ@南相馬(南相馬市)…など



2年 「むらの大学」で学んだ後は、自分たちで実践!

自主学修プログラム

1年次に「むらの大学」を履修した学生の多くは、2年次に「自主学修プログラム」として地域(双葉郡川内村・大熊町、南相馬市小高区)での活動を継続しています。自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。多くの学生たちが、1年次に発見した地域の魅力や課題について「自分たちに何ができるか」を考え、自主的なプロジェクトを継続しています。

学生のプロジェクト例

- 地域の特産品を使った六次化商品の開発
- 菜の花キャンドルの製造とイベントでの活用
- 災害公営住宅への定期的な訪問と交流
- 子どもたちとのふれあいを通じた地域活性化
- 祭礼やイベントの支援活動とアンケート分析
- 働く女性へのインタビュー冊子編集…など



全学年 地域を学ぶ、授業外のスタディツアー

みらいバス

地域と大学をつなぐ「みらいバス」は、学生・教職員を対象とした日帰りのスタディツアー。授業以外で地域を訪問するきっかけをつくるため、年間10回程度実施しています。被災地域の訪問・見学やボランティア活動を通じ、それぞれの地域の現状を学びます。

過去の「みらいバス」

- 東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉郡双葉町)
- 震災遺構請戸小学校(双葉郡浪江町)
- JR大野駅および周辺市街地(双葉郡大熊町)
- 中間貯蔵施設(双葉郡大熊町)
- 川内村「かえるマラソン」ボランティア
- 浪江町 田植え体験と住民協働ワークショップ…など



「解のない問い」にチャレンジ

世界で学ぶ

国際交流

福島大学には、多彩な国際交流の機会が用意されています。多くの留学生が在籍しているのも本学の特徴。国際交流は、キャンパスの中からはじまっています。

今の自分から、一歩前へ バディ制度

活動期間：数日～6ヶ月程度

海外に留学してみたいけど不安がある。身近な場所ですぐに語学力を試したい。そんな皆さんに対応できるよう、福島大学には学生交流協定校から来る交換留学生・短期留学生のサポートをする「バディ」制度があります。バディとして留学生と関わることで、彼らの文化を直接感じ、福島にいらながら国際交流ができます。グローバル人材へのファーストステップとして貴重な機会となります。



多彩なプログラムで世界を学ぶ 短期研修・演習

開催期間：10日～3ヶ月

長期休暇を利用して行う短期研修・演習では、海外の協定締結大学で語学を学んだり、フィールドワークを体験することができます。例えば、コロラド州立大学ではアメリカの放射線研究について学ぶことができます。このほか韓国、中国、台湾、カナダ、ドイツでの語学研修など、多彩なプログラムが用意されています。2020年度以降は、オンラインで受講することができるプログラムも提供されています。



協定締結校への長期留学 交換留学

開催期間：半年～1年

本学は、大学間交流協定に基づき、海外の35大学と学生交流協定を締結し、「交換留学」を実施しています。「交換留学」とは学生交流協定校への長期留学で、福島大学のみに学費を納める必要がある留学を指します。国際交流センターが留学先との調整役を務めるので、留学の準備から留学中の相談、帰国後の単位の互換まで、さまざまな手続きも安心して行うことができます。



Profile

経済経営学類
2022年卒業 経済学専攻1年 古川 絵梨さん
ハンガリー カーロリ・ゲーシュバル・カルビン派大学
(2019年9月～2020年3月)
[福島県立郡山高等学校出身]

留

学目的の1つは英語力の向上です。日常的に英語を話す環境に身を置き、実践的な英語力を身につけたいと考えました。もう1つは、ハンガリーの歴史や文化を学ぶためです。モニュメント「ドナウ川遊歩道の靴」が語る歴史や、食文化、温泉文化などにも興味があり、現地を訪れることで多くを学びたいと思ったのです。

留学先では、英語学科の授業やハンガリー語を履修。ハンガリー語の授業は英語で行われるので、想像以上に苦戦しました。しかし、現地の友人たちと授業の復習や会話の練習をすることで乗り切ることができ、楽しい学校生活でした。学業以外では、現地のフェスに参加したり、欧州を旅行したり、今を存分に楽しもうと行動していました。日本でも行われるクリスマスや年越しのイベントも、現地ではお祝いの仕方が異なり、新鮮で楽しかったです。

このような留学生活で学んだのは、「自分をもつこと」の大切さです。授業中はもちろん、日常生活の中でも意見を求められる場面が多くありました。日本では、その場の空気を読むことが重視されることも多々あると思います。しかし、留学中は私自身がどう感じているのか、どうしたいのかといった答えを求められました。この学びは、今後このグローバル社会の中で、さまざまなバックグラウンドをもつ人々と関わる上で、意識しなければならないことだと思っています。今回こうした経験ができたのも、留学していた先輩方や、国際交流センターの方々のサポートのおかげであると感謝しています。



ルームメイトとイタリア旅行をした時の写真です。



後ろの建物はハンガリーの国会議事堂です。ライトアップされ、昼間とは違った美しさがありました。

海外で働くために必要なことを学ぶ 海外インターンシップ

開催期間：約2ヶ月

2016年度からスタートした海外インターンシップ講座「WEA」は、「実際の現場で英語を使うことにより実用的な英語を身につける」がテーマです。海外で仕事をするには何が必要なのかを考えながら、海外で働くためのスキルや知識を学びます。その後、夏休みに渡米して、現地でインターンシップを行います。
例：Real English Business Internshipプログラム(テキサス・ヒューストンでの8週間のインターン)など



専門家の指導も受けられる 語学力強化

開催期間：毎日(月曜～金曜)

英語圏への交換留学などをを目指す学生に求められるのが、IELTS™やTOEFL™などの語学試験で目標スコアをクリアすることです。福島大学では、少人数制の語学力強化プログラムや、語学試験のコーチングで語学力アップをサポートしています。中でも国際交流センターが提供する「IT」は、語学試験対策の専門家によるきめ細やかな受験指導に人気が集まっています。



奨学金制度 について

「留学の費用に不安がある」という方も安心してください。福島大学には経済的な負担軽減を目的とした給付型の奨学金制度が準備されています。2019年度は121名の学生が奨学金を受給、留学を体験しました。

詳しくは、国際交流センターにお問い合わせください!

Fukushima University International Center

国際交流センター

平日9:00-12:30 / 13:30-17:00



福島大学国際交流センターは、国際交流の窓口として学生の皆さんのサポートや、情報発信を行っています。ここでは、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書なども閲覧することができます。また留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策学習指導も提供しています。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなどもここで確認することができます。



Fukushima Ambassadors Program

Fukushima Ambassadors Program(通称F.A.P.)とは、アメリカ、ドイツなどの海外の協定大学から福島に関心を持った留学生(これまで延べ209名)を約2週間のプログラムに招き、福島大学の学生とともに被災地をまわる短期留学プログラムです。2022年4月現在、福島大学を中心に600名以上の県内の大学生がプログラムアシスタントとして参加してきました。さまざまな背景を持つ学生たち同士が、ともに英語で福島の「過去」、「現在」、そして「未来」の課題について学び、理解を深めています。



「解のない問い」にチャレンジ🔗

自分 を 知る

自分自身のことを知る

福島大学が大切にしているものの一つに「自己の振り返り」があります。自分自身の長所や特徴を知ることが、学びと自立の第一歩だと考えるからです。自分は何が得意なのか、特に何に関心があるのかを客観的に見つめることは、自分がどんな社会を創造したいのか、その未来にどんな方法で関わっていききたいのかに気づききっかけにもなります。

在学中は Semesterごとに学修目標を自分で設定し、どのような能力を伸ばすのか、どのように伸びたかを「見える化」し、自己評価（振り返り）を行います。この一連のサイクルを4年間繰り返すことで、学びと自己研鑽を深化させ、自身の取り組むべき課題を発見することができます。



自分の、地域の、 世界の未来を 想像してみよう

「解のない問い」にチャレンジ🔗

未来 を 考える

皆さんが「未来」を考える土台を形成するために、本学では高校までの学びと大学での学修をつなげる教育体系として、「基盤教育」を充実させています。大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身につけるための「接続領域」、幅広い教養の基礎を形成する「教養領域」、現実の問題をフィールドワークやグループ学修を通して解きほぐしていく「問題探究領域」を設定し、現状を分析する力や問題解決のための能力を丁寧に育みます。そして文系・理系を問わず、分析や問題解決のツールとしての基礎的な数学や理工学を理解し、社会に有益な知見を引き出すデータサイエンス教育にも力を入れています。

未来をつくるのは、皆さん一人ひとりの力です。自分が何をしたいのか、何ができるのか。地域や世界で、どんな未来を創造していくのか。福島大学でともに考え、学んでいきましょう。

未来の「暮らし」を 創造する福島大学

地域とともに21世紀的課題に立ち向かう福島大学だからこそ、

これからの「地域で生きること」「社会で生きること」を学び、考えます。

学類	コース	学びのキーワード	学士号と取得可能な資格
<p>Faculty of Human Development and Culture</p> <h2>人間発達文化学類</h2> <p>生涯を通じた学びや人の成長を支える人材を育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育実践コース ■ 心理学・幼児教育コース ■ 特別支援・生活科学コース ■ 芸術・表現コース ■ 人文科学コース ■ 数理自然科学コース ■ スポーツ健康科学コース 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学校教員 ▶ 心理学 ▶ 発達支援 ▶ 音楽 ▶ 言語・歴史・文化 ▶ 自然科学 ▶ 健康 ▶ 教育 ▶ 幼児教育 ▶ 生活科学 ▶ 美術 ▶ 学校教員 ▶ 数学 ▶ 地域貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士(発達文化) ● 幼稚園教諭一種免許状 ● 小学校教諭一種免許状 ● 中学校教諭一種免許状 国語/社会/数学/音楽/美術/ 保健体育/家庭/英語/理科※1 ● 高等学校教諭一種免許状 国語/地理歴史/公民/数学/音楽/ 美術/保健体育/家庭/英語/理科※1 ● 特別支援学校教諭一種免許状※2
<p>Faculty of Administration and Social Sciences</p> <h2>行政政策学類</h2> <p>「地域・自治の時代」のニーズへ学際的に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域政策と法コース ■ 地域社会と文化コース ■ 夜間主(社会人教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自治 ▶ 地域問題 ▶ 地域社会 ▶ 考古学 ▶ まちづくり ▶ 地域活性化 ▶ 社会福祉 ▶ 法律 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士(法学)、学士(社会学) ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民) ● 社会教育主事(基礎資格)※3・社会教育士 ● 学芸員※4 ● 社会福祉主事(任用資格)※5 <p>※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。</p>
<p>Faculty of Economics and Business Administration</p> <h2>経済経営学類</h2> <p>グローバルな視野で経済社会をリードする人材を創出する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経済学コース ・経済理論モデル ・グローバル経済モデル ■ 経営学コース ・地域経営モデル ・会計ファイナンスモデル 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 経済理論 ▶ 地域経営 ▶ 地域経済 ▶ ファイナンス ▶ グローバルEP 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士(経済学) ● 高等学校教諭一種免許状(商業)
<p>Faculty of Symbiotic Systems Science</p> <h2>共生システム理工学類</h2> <p>21世紀の課題を「共生の科学・技術」で解決する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 数理・情報科学コース ■ 経営システムコース ■ 物理・システム工学コース ■ 物質科学コース ■ エネルギーコース ■ 生物環境コース ■ 地球環境コース ■ 社会計画コース ■ 心理・生理コース 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 数理学 ▶ 経営工学 ▶ 物理・機械・電気 ▶ 化学 ▶ 再生可能エネルギー ▶ 生態学 ▶ 地球科学 ▶ 持続可能性 ▶ 心理学 ▶ 数学 ▶ マネジメント ▶ 生体・メカトロニクス ▶ 先端材料 ▶ 地球温暖化対策 ▶ 進化・系統 ▶ 自然災害の予測・防災 ▶ 文理融合 ▶ 生理学 ▶ ソフトウェア ▶ 企業等の経営 ▶ ものづくり ▶ 新素材開発 ▶ 省エネ・創エネ・蓄エネ ▶ 生物保全 ▶ 地球温暖化 ▶ 計画 ▶ 心と脳 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士(理工学) ● 中学校教諭一種免許状(理科/技術/数学※6) ● 高等学校教諭一種免許状(理科/工業/情報/数学※6) ● 学芸員資格
<p>Faculty of Food and Agricultural Sciences</p> <h2>食農学類</h2> <p>主体的・創造的に対応する地域リーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食品科学コース ■ 農業生産学コース ■ 農業経営学コース ■ 生産環境学コース 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 食品加工学 ▶ 作物栽培 ▶ 農業経営 ▶ 生産資源 ▶ 栄養 ▶ 農業生産 ▶ 地域農村社会 ▶ 森林・農地・水環境 ▶ 発酵・醸造 ▶ 農業被害管理 ▶ 農業経済 ▶ 里山管理 ▶ 地域の食の伝統 ▶ 稲作学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学士(農学) ● 高等学校教諭一種免許状(農業、理科※7) ● 食品衛生管理者(任用資格) ● 食品衛生監視員(任用資格) ● 食の6次産業化プロデューサー ● 測量士補 ● 危険物取扱者(受験資格) ● フードスペシャリスト(受験資格)

■ 資格の注釈 ※1 理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。※2 特別支援学校教諭の免許状は単独では取得できず、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園教諭免許状のいずれかを併せて取得しなければなりません。
※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。※4 博物館に関する科目の単位を修得する必要があります。
※5 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。※6 数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。※7 理科については他学類で

※1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事する必要があります。※2 「博物館に関する科目の単位」を修得する必要があります。
開講されている授業の単位を取得する必要があります。

人間発達文化学類



子どもたちに寄り添い、成長を支える学校教員や、
文化を通じて、地域の人々を支える人を養成します。

- 教育実践コース
- 心理学・幼児教育コース
- 特別支援・生活科学コース
- 芸術・表現コース
- 人文科学コース
- 数理自然科学コース
- スポーツ健康科学コース

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

- 保育士・幼稚園や小学校・中学校・高校・特別支援学校の先生になりたい人
- わかりやすく教えられる先生になりたい人
- 人間の心理や行動の不思議について学びたい人
- 現代生活に関わる衣食住や生活経営について学びたい人
- 音楽や美術について学びたい人
- 日本・アジア・欧米の言語や文学について学びたい人
- 地域や世界の地理・歴史・経済・社会・思想について学びたい人
- 数理科学や自然科学について学びたい人
- スポーツ科学や健康科学について学びたい人

取得できる教員免許・資格

- 幼稚園教諭一種免許状
- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状
(国語/社会/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科※1)
- 高等学校教諭一種免許状
(国語/地理歴史/公民/数学/音楽/美術/保健体育/家庭/英語/理科※1)
- 特別支援学校教諭一種免許状※2
- 社会教育主事(基礎資格)※3・社会教育士
- 保育士※4
- (公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者※5
- 社会福祉主事(任用資格)※6
- 公認心理師※7

※1 理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。
 ※2 特別支援学校教諭の免許状は単独では取得できず、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園教諭免許状のいずれかを併せて取得しなければなりません。
 ※3 必要単位を修得し、卒業後1年以上の社会教育主事権あるいは5年以上の学校教員などの教育関係職に従事することが必要です。
 ※4 15名の定員があります。心理学・幼児教育コースに所属する学生のみ取得可能です。他のコースに所属する学生は取得できません。同時に取得可能な免許は幼稚園と小学校の教員免許のみです。
 ※5 指定する科目を修得することにより「スポーツリーダー」資格を取得できます。また各種スポーツ指導者資格の取得に必要な講習の免除資格が、指定された科目を修得することにより取得できます。この制度は、スポーツ健康科学コースに所属する学生が対象となります。
 ※6 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
 ※7 国家資格「公認心理師」の受験資格取得に必要な科目を開講します。公認心理師の受験資格取得に必要な学類の科目を全て履修するためには、心理学・幼児教育コースに所属する必要があります。また保育士資格や教員免許を同時取得することはできません。実習先の受け入れ可能数を超える場合には選考があります。最終的な受験資格取得のためには、大学卒業後に大学院への進学または認定施設での実務経験が必要となります。なお、編入学・学士入学で入学された方は、公認心理師の資格取得は出来ません。

卒業後の進路

- 保育士
- 幼稚園教員
- 小・中・高校教員
- 特別支援学校(盲学校・聾学校・養護学校)教員
- 社会教育主事
- 児童館専門員
- 学童保育指導員
- 塾講師
- 国家公務員
- 地方公務員
- 専門コンサルタント
- 医療・福祉関連
- 一般企業
- 英会話講師
- NGO職員
- 銀行員
- SE、マスコミ・出版業
- 旅行・サービス業
- 不動産業
- 商社・企業(国際交流・海外事業担当)
- 社会人教育サービス
- 大学院進学 など
- 音楽教室講師
- 音楽サークル指導者
- イベント企画者
- 劇伴・コマージュ音楽制作者
- 印刷・広告業
- イラストレーター
- インテリア用品デザイナー
- スポーツ選手
- スポーツ指導者
- フィットネスクラブ
- マスコミ・出版業(スポーツ分野)
- スポーツマネジメント業
- 健康増進産業 など



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

コース専門プログラム制による確かな学力と実践的な応用力の形成

人間発達文化学類では、生涯にわたる人間の発達を個人・社会・文化との関わりにおいて支援していく人材の養成を目指しています。学類生は、自らの興味・関心や目指す進路に応じて、1年次からいずれかのコースに所属し、各コースの用意するプログラムを選択して学んでいきます。それにより、専門に関する確かな知識・技術と実践的な応用力を身につけることができます。公認心理師および保育士・幼稚園教員は心理学・幼児教育コースで、特別支援学校教員は特別支援・生活科学コースで、小学校・中学校・高等学校教員は全コースで養成しています。

学びの目標	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester
学びの目標	発達・文化のリテラシー（基礎・基本）を学ぶ 学びのプログラムを選択する		発達・文化の専門的な知識・技術を学ぶ 問題解決型学習の基礎を学ぶ		自ら課題を立て、専門的知識・ なかで、専門的知識・技術の		技術を活用して課題を解決す 実践力を身につける	
専門教育	小・中・高教員は全コースで 養成		学類・教養科目 コース専門科目以外の学類科目を履修することで、発達・文化に		関する学びの幅を広げる		卒業研究科目 ■卒業研究基礎演習 ■卒業研究演習 ■プレゼンテーション演習 ■卒業論文	
コース専門科目	教育実践コース	■日本教育史 ■教育課程論	■社会科学習指導論 ■子どもと特別活動	■教育と社会 ■数学科教育法Ⅰ・Ⅱ	■国語科教育法Ⅳ ■生活科学習指導論	■生涯学習社会と学校・家庭・地域 ■外国の教育		
	心理学・ 幼児教育コース	■知覚・認知心理学 ■社会・集団・家族心理学	■障害者・障害児心理学 ■保育内容（人間関係）	■保育内容（環境） ■司法・犯罪心理学	■公認心理師の職責 ■保育カリキュラム論	■総合表現（劇） ■幼児理解・教育相談の理論と方法		
	特別支援・ 生活科学コース	■知的障害者教育課程論 ■知的障害者の行動観察とアセスメント	■重複障害・軽度発達障害教育総論 ■食物学	■生活経営学 ■知的障害者学級経営論	■知的障害者の心理・生理・病理 ■人間と衣服	■住生活学 ■食品加工学概論及び実習		
	芸術・表現コース	■器楽演奏研究 ■指揮法研究 ■彫刻 ■絵画	■音楽史 ■映像メディア論	■声楽アンサンブル ■美術史	■ピアノアンサンブル ■芸術学	■音楽科教育法 ■美術科教育法		
	人文学コース	■日本古典文学演習 ■日本語の変異	■自然災害と人間 ■日本史史料講読	■英語学概論 ■初期近代英米文学	■英語学演習 ■英米文学演習	■現代日本経済論 ■ヨーロッパ古代・中世史	■書道	
	数理 自然科学コース	■代数学Ⅱ ■幾何学Ⅱ	■確率論・統計学 ■理科学習指導論	■理科の実験指導 ■代数学続論	■幾何学続論 ■物質化学	■生命環境の科学 ■地球惑星の科学		
	スポーツ 健康科学コース	■スポーツ運動学 ■スポーツと文化	■体カトレーニング ■スポーツ政策論	■運動処方 ■健康科学演習	■野外活動 ■生理学	■コーチング論 ■スポーツ医学		
接続領域	■スタートアップ科目 ■ライフマネジメント科目							
教養領域	■外国語コミュニケーション科目							
	■学術基礎科目 ■健康・運動科目 ■情報科目							
問題探究領域	■外国語科目							
	■問題探究セミナーⅠ ■問題探究セミナーⅡ							
自由選択	自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する							
基盤教育			■キャリアモデル学習 ■インターンシップ ■教職入門		アドバイザー教員 学習や進路など大学生活全般のアドバイスを行います。 下記の担当教員をアドバイザーとする小集団教育を行います。 1年次前期 : スタートアップセミナー教員 1年次後期～3年次前期 : 問題探究セミナー教員 3年次後期～4年次 : 卒業研究指導教員			



学類長メッセージ

人間に関する学びを深め、 自分を実現する学修を

本学類が研究対象とする「人間発達」とは、人間の誕生から死までのすべての期間を表します。また、「文化」は人間社会の基盤を形成するものです。つまり、人間発達文化学類は人間とそれが形成する社会そのものを研究対象とし、そのために役立つことのできる人間の育成を目指しているのです。この目的を達成するためには、非常に幅広い分野の学修が不可欠です。本学類では人文・社会・自然の諸分野を網羅する、幅広いカリキュラムが構成されています。皆さんは自分の学修したい分野、進みたい進路に合わせてコースを選択し、その中でさらにある分野に特化したプログラムを選択して専門性を深めることができます。自分を実現するための学びを深める、積極的な学修を期待します。

人間発達文化学類長 初澤 敏生 教授

教員紹介 ※2022年4月1日現在

教育実践コース

- 植田 啓嗣 (教育学、比較教育学)
- 太田 孝 (国語科教育学)
- 大橋 淳子 (学校経営)
- 小川 裕 (音楽科教育における指導法の追究)
- 菅家 礼子 (質の高い身体教育の探究)
- 坂本 篤史 (授業研究、教師論)
- 秩田 悠男 (社会科教育の実践的研究)
- 鈴木 昭夫 (理科教育)
- 谷 雅泰 (日本教育史、近代学校の起源)
- 中田 スウラ (社会教育学・教育社会学)
- 鳴川 哲也 (学習指導法の研究と教材開発/理科教育)
- 松下 行則 (道徳科授業論)
- 森本 明 (算数・数学の授業とカリキュラムの構成に関する研究)

人文学コース

- 朝賀 俊彦 (言語の仕組みについての研究)
- 飯嶋 良太 (言語芸術、特に英語・北米のもの)
- 井美 充史 (日本古典文学、古典教育)
- 小野原 雅夫 (戦争と平和の倫理学、科学技術と環境の倫理学)
- 鎌田 賢 (ドイツ近世史、ヨーロッパ宗教社会学)
- 川田 潤 (主に英語圏の文化の研究)
- 小松 賢司 (日本近世史)
- 佐久間 康之 (外国語活動・英語教育と心のメカニズム)
- 佐藤 佐敏 (国語科教育学、学習指導論)
- 佐藤 尚樹 (理論言語学、統語論、意味論)
- 造澤 尚 (漢文学、漢学文化、古代文学・思想・神話、本邦学)
- 高木 修一 (英訳・ドイツ語のメカニズムを探る英語学・言語学)
- 高田 英和 (イギリス文学、文化研究)
- 高橋 優 (ドイツ・ロマン主義の文学と思想)
- 高橋 由貴 (日本近代文学・比較文学)
- 中村 洋介 (自然災害科学・防災教育)
- 野木 勝弘 (社会科教育学)
- 初澤 敏生 (地域文化構造の調査と分析)
- 半沢 康 (日本の方言の研究)
- 牧田 実 (コミュニティとまちづくり)

心理学・幼児教育コース

- 安部 郁子 (児童虐待やDV被害者等、様々な困難を抱える人たちの支援)
- 市川 英雄 (福祉領域における心理支援)
- 斎藤 美智子 (保護者支援・保育内容)
- 生島 浩 (少年非行・犯罪に関わる家族への援助実践)
- 住吉 チカ (認知心理学、認知機能障害、及び認知機能の発達)
- 高谷 理恵子 (乳幼児の身体制御に関する発達)
- 富永 美佐子 (青年期の進路発達とその支援)
- 原野 明子 (幼児の仲間関係の発達)
- 飛田 操 (人間関係と集団についての心理学)
- 保木 啓史 (集まりの場面での子どもと保育者の相互作用、保育者の専門性)

特別支援・生活科学コース

- 小川 宏 (体育・スポーツの意義と目的)
- 川本 和久 (陸上競技、トレーニング構成論)
- 杉浦 弘一 (スポーツと健康の医科学)
- 竹田 隆一 (武道の独自性と国際化)
- 高橋 純一 (スポーツ社会学)
- 運沼 哲哉 (スポーツ教育学)
- 松本 健太 (体育科教育学・スポーツ教育学)
- 本嶋 良恵 (スポーツバイオメカニクス)
- 安田 俊広 (骨格筋の疲労と損傷のメカニズム)

学類附属 学校臨床支援センター 学校連携部門

教育相談部門

- 新井 浩 (彫刻制作、彫刻教材の研究)
- 今尾 滋 (声楽・オペラ)
- 加藤 奈保子 (西洋美術史・美学)
- 杉田 政夫 (音楽科教育の理論的、実践的研究)
- 中畑 淳 (器楽、ピアノ演奏法、作品解釈研究)
- 横島 浩 (作曲、楽曲分析研究)
- 渡邊 晃一 (絵画、現代美術、制作学)
- 渡部 憲生 (図画工作科・美術科教育)
- 青木 真理 (臨床倫理学、教育臨床学)
- 岸 龍馬 (精神分析的な心理療法、精神病理)
- 現職研修部門
- 宗形 潤子 (生活科における実践的研究)
- 高野 孝男 (特別活動と学級経営の研究)

専門知識・技術と実践的な応用力を身につける 7つのコース



主体的で実践的な学びを通して、 「成長を支えられる人」を目指します

「人の成長を支える専門家を育てる」ことを目標に、人間の発達を支援する教育や文化に関する基礎的・専門的知識、技術を学びます。それらを基盤に、社会における現代的、地域的課題解決に、実践的に取り組むことのできる人を養成します。学類生は、1年次から7つのコースに所属し、学類基礎、学類専門、学際・教養、卒業研究のカリキュラムを通じて学んでいきます。また、より深い学びと経験ができるコース専門プログラムを設置しています。

Pick Up!



1年前期 自然体験実習

伝える力、聴く力、そして企画力が身につく。

小中学生が参加する「自然体験学校」を企画運営します。8月の本番に向けて、仲間とともに企画を考え、話し合い、準備する中で、考えを伝える力や聴く力、企画力が身につく、子どもとの関わりのイメージがつかめるとともに、多くの仲間を得られます。



2年前期～ 学校教育支援実習

教員としての資質能力を高める。

学校現場で教員の実務の補助にあたり、実践的指導力を養い、学校理解を深めます。2年次では3年次の教育実習への準備、3・4年次では教育実習で身につけた知識や技能を活かし、教員としての資質能力を高めます。教職登録をした2年生以上が対象です。



3年前期～ 教育実習

培った理論を実践力につなげる。

教師を目指す人にとって必修の科目。理論を知っているだけでは教師は務まりません。理論を実践力として働かせる必要があります。理論を実践力につなげていく最初の学びの場が「教育実習」です。4週間、幼稚園や学校に通って学びます。

教育実践コース

教育実践コースは、学校教員になることを目指す学生が中心になるコースです。学校現場は社会・地域の変化など複雑な環境に晒されています。その中で子どもの学びを支え、確実な成長を助ける教員が求められています。本コースでは学校教員として求められる実践力をつけることを目指します。

主な科目

- カリキュラム・教育方法論
- 社会科教育法
- 生涯学習論
- 理科学習指導論
- 学校と教育の歴史
- 家庭科学習指導論
- 子どもと道徳
- 子どもと生活と遊び
- 教育の方法・課程論A
- 子どもと自然
- 国語科教育法
- 数学科教育法



特徴的な学び 教育の方法・課程論A

これからの学校教育に向け、何をどのように教えるかについて広くかつ深く学びます。授業では、今まで受けてきた学校教育を教師側の視点に立って振り返りつつ、具体的な事例や文献資料を基にした学生同士での意見交流や話し合いを通して、自身の授業観を磨いていきます。



特徴的な学び 算数科学習指導論

算数科の学習指導に必要な基礎的・基本的な資質・能力を身につけます。小学校算数科の目的・目標、育成すべき資質・能力、学習指導の内容及び学習指導の方法について理解するとともに、指導案作成や模擬授業を通して、算数科授業を構成・実践できるようにします。

心理学・幼児教育コース

本コースは、人の行動・心理についての知見を得るとともに、実験・調査・観察などの科学的手法によって研究を行う心理学の分野と、乳幼児の発達を学びつつ、幼児期に相応しい経験とは何かを探る幼児教育分野で成り立っています。小学校教員や心理専門職（公認心理師・公務員心理職）、幼稚園教諭や保育士を目指す人に向いています。

主な科目

- 発達心理学
- 保育原理
- 公認心理師の職責
- 幼児発達心理学
- 産業・組織心理学
- 保育カリキュラム論
- 心理学演習・実習
- 保育内容(表現Ⅰ)
- 教育・学校心理学
- 幼児と音楽
- 心理学統計法
- 保育方法実践論
- 社会・集団・家族心理学
- 総合表現(劇)



特徴的な学び 心理学に関する学び

実験、観察、調査など各研究手法、及びデータを分析するための統計手法を学びます。これらの知識を活かして、人の行動や発達、集団行動などについて研究を進めていきます。さらに、公認心理師を目指す人は実習を通して、臨床的な技能も学んでいきます。



特徴的な学び 幼児教育に関する学び

幼児教育分野では、保育・幼児教育についてのこれまでの歴史や思想、制度等の幼児教育、子どもの発達等に関する理論を学びます。これら知識を活かして、保育現場で必要となる技術・技能を身につけ、実習や卒業研究等を通して、さらに研鑽を積んでいきます。

特別支援・生活科学コース

知的障害・肢体不自由・病弱などサポートを必要とする子どもの発達支援に関する理論や、家庭や地域に関わる生活科学の基礎について広く学び、実践を通して理解し身につけ、探究していきます。子どもたちの発達を支援し特別支援学校教諭を目指す人や、生活の基礎を学びたい人、家庭科教諭(小・中・高)を目指す人に向いています。

主な科目

- 特別支援教育概論
- 衣服のデザインと機能
- 知的障害者の行動分析
- 住生活学
- 病弱者の生理・病理・心理
- 家庭科教育法
- 知的障害者教育指導法
- 知的障害者教育課程論
- 食と健康
- 食生活論



特徴的な学び 特別支援教育概論

大学の学びを始めた主に1年生を受講対象として、「障害」に関する基礎的なことを広く学びます。障害特性や支援方法だけでなく、障害者政策など広い分野から「障害」に対してアプローチします。障害児・者に対する支援方法を学ぶだけでなく、受講生自身の障害理解も促したいと思っています。



特徴的な学び 生活経営学

「生活資源」の視点から、生活の質を生産にわたって追求していくための知識とスキルを学びます。生活資源を活用して、個人の生活や地域・社会の問題解決を図るなど、生活経営力を高めるさまざまなアクティビティを取り入れながら、受講生が主体的・協働的に学びを深める実践的な授業を行います。

芸術・表現コース

芸術や表現の意義、本質を理解し、音楽や美術に関わる力量を理論的・実践的に身につけるための、芸術の薫り高いコースです。芸術表現者の育成とともに、芸術領域(音楽・美術)を活用できる学校教員(小・中・高)、さらにはアートコーディネーターといった芸術の力を地域で活かせる人材を育成します。

主な科目

- 子どもの音楽表現
- 子どもの造形活動
- 作曲基礎
- 絵画
- 声楽演奏研究
- 彫刻
- ピアノ演奏研究
- 工芸デザイン
- 音楽科教育法
- 美術史
- 器楽演奏研究
- 芸術学
- 指揮法研究
- 映像メディア論



特徴的な学び 素描

この授業では諸道形科目の基礎となる見方・考え方を学びます。現代のさまざまなメディアから発信される現代的イメージも押さえながら、優れた表現者・教育者に必要な事の本質的把握、ならびに興味を持って事柄に迫る探究心を養います。

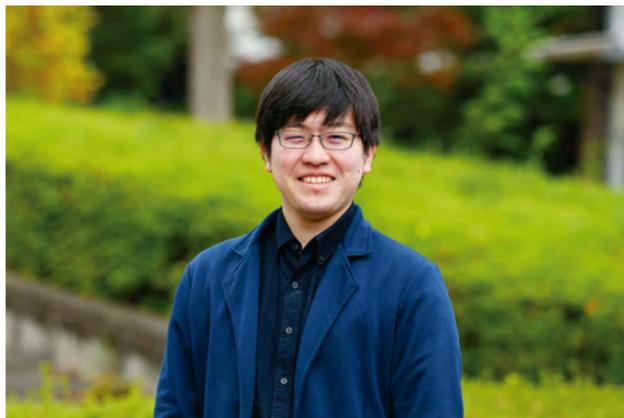


特徴的な学び ピアノ基礎Ⅱ

この授業では、ピアノ演奏のための基本的な技術を学びながら、楽曲を仕上げていきます。また、伴奏法や鍵盤楽器の歴史もとりあげながら、楽曲の解釈研究やピアノによる演奏表現を深めていきます。

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



障がいを個性として捉えることを伝えられる教師に

所属コースの専門科目である特別支援教育を学んでいます。小学生のころから、障がいのある方とふれあう機会はありましたが、まったく理解できていなかったと今は感じています。大学で障がいを個性として捉えることで、すべての人がともに生活できることを学び、学校という環境の中で障がいに対する理解を深めることで、社会の中の見方が変わっていくと思うようになりました。このことを伝えられる教師を目指し、今は仲間と切磋琢磨する毎日です。福島大学は、地域に根ざした教育も学べるので、1つでも多く吸収したいと思っています。

特別支援・生活科学コース 4年
[福島県立安積高等学校出身] | 井上 孝太郎さん

保育の奥深さを実感する毎日です

福島大学では保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の免許が取得できるので、幼小連携に強い教員を目指せると思い、入学を決めました。現在は、乳幼児の人間関係について特に興味を持って学んでいます。子どもの発達段階、保育の本質に触れ、保育の奥深さを実感する毎日です。実習で子どもと触れ合い、保育者の方々から多くのことを学び、より子どもについて理解を深めたいという思いや保育者としての意識を強く持つようになりました。地域に根ざしたこの大学で学び、教育分野で地域社会に貢献できる人間になりたいと思っています。

心理学・幼児教育コース 4年
[福島県立須賀川桐陽高等学校出身] | 五十嵐 のどかさん



人文科学コース

言語や文学、地域や社会のあり方、その歴史や思想など、文化について深く学ぶことができます。そのような学びを踏まえて、地域の文化を継承し、発展させていく力を養います。人文学諸分野の知識を活用した仕事に就きたい人、国語・英語・社会に強い小学校教員や、中学・高校の国語・英語・社会の教員を目指す人に向けています。

主な科目

- 漢字・漢文学概論
- 現代社会と文化
- 日本文学特講
- 国語科・英語科・社会科教育法
- 英語学概論
- 英米文学史
- ヨーロッパ言語文化論
- 日本近代社会史
- 都市とまちづくりの地理学



特徴的な学び

言語文化や国語教育に関する学び

日本語学、日本文学(古典・近代)、漢文学、国語科教育学といった言語文化・言語教育(国語教育)について、文献を収集したり、実地調査をしたり、模擬授業をしたりして、その専門性を学びます。

特徴的な学び

外国語の言語文化や教育に関する学び

英語学、英語教育学、英米文学・文化、ドイツ文学・文化、異文化理解、英語コミュニケーション等について、文献調査やグループワークなどを通じて、その専門性を学びます。

特徴的な学び

歴史や地理や公民に関する学び

古文書や外国語文献から直接歴史を学んだり、現地ですべてに調査することによって地理や経済や社会を学んだり、グループワークを通じて倫理について考えを深めたりしていきます。

数理自然科学コース

身近な自然や先端的課題の中から数学や自然科学に関わる諸問題を見だし、それらを探究的に解決する学びを重ねていくことで専門性を高めていきます。社会において数学や自然科学に深く関わっていききたい人、算数や理科に強い小学校教員、中学・高校の数学教員を目指す人に向けています。

主な科目

- 行列とベクトル
- 理科学習指導論
- 基礎解析学
- 子どもと自然
- 代数学
- 物理学
- 幾何学
- 物質化学
- 確率論・統計学
- 生命環境の科学
- コンピュータ
- 地球惑星の科学
- 数学科教育法
- 地域理科実践演習Ⅰ・Ⅱ



特徴的な学び

解析学統論

高校で学んだ数列の極限や関数の連続性について厳密な定義を学びます。それにまつわる証明の方法や、関数列の極限などの新しい概念、それを踏まえた高度な計算の技術について学びます。

特徴的な学び

地域理科実践演習Ⅱ

小学校・中学校での理科教育を支えるため、地域にある身近な自然を活かした教材の開発手法を学び、学校や科学館等で実践する経験を通じて、子どもとともに理科の学びを創っていく資質・能力を身につけます。

スポーツ健康科学コース

最新のスポーツ理論と実践を通して、スポーツ技能の向上と指導力を高めるとともに、生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを送るための技能や専門知識を学ぶことができます。体育教員になりたい人、一流のアスリート、コーチを目指す人、さらにスポーツを通して地域に活力を与える仕事に就きたい人に最適なコースです。

主な科目

- 生理学
- 保健体育科教育法
- 解剖学
- コーチング論
- 生涯スポーツ論
- スポーツ医学
- 運動処方
- 生涯スポーツ実習
- スポーツと文化
- 健康科学演習
- スポーツ政策論
- コーチング演習
- スポーツ運動学
- スポーツ実技各種



特徴的な学び

体力トレーニング

体力を構成する3つの力:行動をおこす力(筋力・パワー)、行動を持続させる力(筋持久力・全身持久力)、行動を調整する力(バランス・巧緻性・敏捷性・柔軟性)について具体的なトレーニング方法を実践的に学びます。

特徴的な学び

スポーツ企画演習

受講生が地域の課題やニーズを調査したうえで、スポーツイベントを企画し、準備から当日の運営まで行う授業です。学外の団体や地域と連携しながら準備を進めていくことで、社会に必要な実践力を身につけていきます。

Q. 10年後の目標は何ですか?

どんなことにも
全力で向き合いたい

高等学校の国語科教員として、日々、生徒と一緒に学び、成長しています。大学ではたくさんの方の事を学びましたが、今は目の前にいる生徒と向き合うことに精一杯で、その学びを十分に活かすことができているという実感は、正直まだありません。それでも、いつかは「私は福島大学で学んだので」と、自信を持って答えられるよう、これからもがんばっていききたいと思います。ですから、現時点では今後の目標を掲げるよりも、一日一日、笑顔を忘れずに、楽しいことも大変なことにも全力で向き合っていきたい。そんな心境です。

公立高等学校教諭
人間発達文化学類
文化探究専攻言語文化クラス 2019年卒業
| 依藤 梨紗子さん



Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

10年後も、スポーツが
感動と活力を与える存在であるために

「テレサ」という体温記録活用アプリを開発し、スポーツの大会などを安全に開催いただけるよう、導入のご提案などを担当。日本で唯一の陸上チーム運営会社のフロントスタッフとして働いています。在学中は、地域活性化を目的としたイベントの運営に多く携わりました。この経験が、コロナ禍でもイベントを運営する力に繋がっていると感じます。10年後も、スポーツは人々に感動と活力を与える存在であるべきだと思っています。そのためにも、人々の生活を豊かにするしくみや企画を、地域とともに創り上げていきたいと思っています。

株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ 勤務
人間発達文化学類スポーツ・芸術創造コース 2019年3月卒業
| 柳生 京佑さん



行政政策学類



震災からの復興、コミュニティの再生といった
地域が抱えるさまざまな課題に取り組み、
持続可能な地域づくりに貢献できる人を育てます。

- 地域政策と法コース
 - 地域社会と文化コース
 - 行政政策学類夜間主(社会人教育)
- 地域政策と法コース / 地域社会と文化コース

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

行政政策学類では、現代の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、さまざまな社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

- 法・政治・行政・社会・文化などの研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- 国・地域・社会における諸課題を自ら発見し、調査・分析する能力
- 発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- 学際的な創造力で社会に貢献する応用的な能力
- 修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会) ※1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民) ※2 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。
- 社会教育主事(基礎資格) ※1・社会教育士 ※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
- 学芸員 ※2
- 社会福祉主事(任用資格) ※3 ※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。

卒業後の進路

- 国家公務員(一般職、裁判所職員、国税専門官など)
- 地方公務員(都道府県庁、市町村職員、警察官など)
- 教員(公立学校、私立学校)
- 司法書士・行政書士などの法律専門職(法科大学院進学者を含む)
- 民間企業(建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、専門サービスなど)
- 法人職員(社会福祉法人、商工会議所など)
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学(福島大学、東北大学など)
- 民間プランナー
- 各種協同組合の職員
- 学芸員(博物館・埋蔵文化財)
- 社会教育関係(公民館)職員
- マスコミ



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

地域課題に取り組む「知と活動の拠点」、行政政策学類。 多様な「学びのかたち」で道を切り拓く！

行政政策学類では、理論研究からフィールドワークまで、さまざまな「学びのかたち」を使って、現代社会の課題や、地域が抱える問題の核心に迫ります。1年次には、幅広い教養を学びながら、「大学での学びの基礎(大学生としての基礎力)」を修得します。2年次進学時には、それぞれの関心にしたがってコースを選択します。3、4年次には、教員+少人数の学生で運営する「専門演習」を基盤に、自分が「解き明かしたい!」「解決策を提案したい!」と思う課題に、より専門的に迫ります。「卒業研究」は4年間の学生生活の総まとめ。斬新で個性あふれる研究成果が期待されています。

アドバイザー教員

研究の方法や進路など大学生活全般のアドバイスをを行います。下記の担当教員をアドバイザーとする少人数教育(最大で20名程度)を行います。

- 1年次 : スタートアップセミナー/問題探究セミナーI担当教員
- 2年次 : 問題探究セミナーII・III担当教員
- 3年次~4年次: 専門演習担当教員



学類長メッセージ

学際的に、アクティブに、 地域社会に貢献する人材を

行政政策学類は、法・政治行政・社会・文化について有機的かつ総合的に学び、探求し、地域社会の課題に迫ることを目指しています。コースは法・政治行政などを中心に学ぶ「地域政策と法コース」と、地域社会・地域文化・言語文化などを中心に学ぶ「地域社会と文化コース」の2つ。これらを学際的に学ぶことにより、「自治体政策」、「人権」、「地域振興」、「福祉」、「歴史」、「多文化共生」など、多様なテーマを深めていきます。また、行政機関や地域の人びと・団体と協働してフィールドワークを行うなどアクティブ・ラーニングを重視しています。夜間主の社会人学生とともに学び合うのも魅力の1つです。

少子・高齢化、地球環境の変動、ICT技術の進化など、私たちを取り巻く環境が激変していく中、人文・社会科学に求められる役割も、より大きくなっていくことが想定されます。行政政策学類で学ぶことを通して、社会や地域のさまざまな人々に貢献できる人として育てていってほしいと思います。学友も含めた多くの人びとと接しながら、自らの興味関心を伸ばし、自分らしい学びを進めて下さい。

行政政策学類長 垣見 隆禎 教授

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
学びの目標	行政政策学類における学びの基礎を学ぶ		専門教育の本格的開始 アクティブ・ラーニングの実践		専門知識の応用力・ 実践力を身につける		専門知識を深めるとともに、 大学における研究の成果を示す	
専門教育	学類共通科目 ■現代法学論 ■社会学原論 ■民法総則 ■社会と文化の理論 ■現代政治論 問題探究セミナー 第2セメスターの「問題探究セミナーI」から専門的な教育が始まります。問題探究セミナーは、少人数で行う演習形式の授業で、文献講読、討論、実地調査(フィールドワーク)などさまざまな手法で、テーマや課題に迫ります。		学類基礎科目 (2コースとも共通の科目群です) ■憲法 ■行政学 ■社会計画論 ■社会福祉論 ■比較地域文化論 ■文化史 ほか ■法社会学 ■地方行政論 ■地域社会学 ■社会調査論 ■考古学		コース専門科目 ■地方自治法 ■国際政治論 ■社会保障法 ■労働法 ■地方政治論 ■民事裁判法 ほか 卒業研究の提出 学士(法学)		卒業研究の提出 学士(社会学)	
接続領域	■スタートアップ科目(スタートアップセミナー) ■ライフマネジメント科目 ■外国語コミュニケーション科目		コースの選択 地域政策と法コース 地域社会と文化コース 問題探究 セミナーII・III ■地域政策と法コース型 ■コース横断型 ■地域社会と文化コース型		専門演習の選択 専門演習の実施		専門演習の実施	
基盤教育	教養領域 ■学術基礎科目 ■キャリア設計科目 ■健康・運動科目 ■外国語科目 ■情報科目		■キャリアモデル学習 ■インターンシップ		専門演習 専門演習では、より高度で専門的な手法を用いてテーマや課題に迫ります。参加者はより少人数となり、教員も含めそれぞれの学生が、自らの研究テーマをもって演習に参加することが求められます。専門演習での学びを通じて、4年間の学生生活の集大成としての卒業研究をまとめていきます。			
問題探究領域	■問題探究科目 ■自主学修プログラム		■問題探究セミナーI					
自由選択領域	自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する							

教員紹介 ※2022年4月1日現在

地域政策と法コース

- 荒木田 岳 (地方制度史、地方行政論)
- 上床 悠 (行政法、公法学、法政策)
- 垣見 隆禎 (行政法、地方自治法)
- 金井 光生 (憲法、憲法哲学)
- 岸見 太一 (現代政治論、政治理論・政治哲学)
- 金 翔学 (民事手続法)
- 黒崎 輝 (国際政治学、国際政治史)
- 阪本 尚文 (憲法史)
- 堀谷 弘康 (法社会学)
- 鈴木 めぐみ (国際法)
- 大黒 太郎 (政治過程論、先進産業社会の比較政治(ドイツ))
- 高橋 有紀 (刑事法・刑事政策・司法福祉)
- 中里 真 (民法(特に契約法)・消費者法)
- 西田 奈保子 (行政学、都市行政、都市・地域政策)
- 長谷川 珠子 (労働法・社会保障法)
- 福島 雄一 (商法(特に保険法))
- 山崎 研彦 (民法、方法論)

地域社会と文化コース

- 浅野 かおる (社会教育論、職業教育・訓練論、教育学)
- 阿部 浩一 (日本中世史)
- 板倉 有紀 (地域社会学、災害研究、ジェンダー論)
- 今西 一男 (都市計画論、都市社会学、社会調査論)
- 岩崎 由美子 (社会計画論、農村生活論)
- 加藤 興義 (理論社会学、社会学史、農村社会学)
- 菊地 芳朗 (考古学による古墳時代社会の復元)
- 金 敬雄 (言語文化交流論)
- 久我 和巳 (文芸社会学)
- 後藤 史子 (アメリカ文化・アメリカ文学)
- 坂本 恵 (スコットランド・イギリス文学、現代思想)
- 佐々木 康文 (情報社会学、情報経済論、災害情報論)
- 新藤 雄介 (メディア論)
- 鈴木 典夫 (地域福祉、地域援助技術(コミュニティワーク))
- 高橋 準 (社会学(現代社会論、社会運動論、ジェンダー論))
- 田村 奈保子 (フランス文化、フランス文学)
- 照沼 かほる (アメリカ文化・文学と映画を中心に)
- 徳竹 剛 (日本近代史、地域史)
- 廣本 由香 (環境社会学、地域環境論、沖縄研究)
- 真歩にしよう (第二言語習得、英語教育、文学)
- 村上 雄一 (日豪関係史)

詳しい経歴はこちら



1年次 新たな科目に心躍る1年 基礎を固めつつ、興味を広げる

行政政策学類生のはじめの1年は、学びの基礎をしっかりと築くもっとも重要な期間といえます。英語に加えて、第2外国語の授業もはじまります。高校では出会うことのなかった新たな科目に心を躍らせながら、1年次から卒業後の進路や生活を考える時間もしっかり用意されています。特に1年次に意識しておきたいのは、2年次以降、どの

ような専門領域に進んでも必ず必要とされる基礎知識を、しっかりと自分の中に定着させるということです。重要な指定科目をはじめ、これまであまり関心を持っていなかった科目も含めて、幅広く学んで視野を広げることが大切です。

学生生活は自分たちでつくる!

学生会と学生自治

学友会学生会は、行政政策学類で開催されるイベントの企画・運営およびオープンキャンパスのサポートをする学生スタッフとしての活動などを行っています。行政政策の自治組織として、学生大会など学類の重要な機構に直接参加し、先生方とも関わりながら学生全体のために活動できることが最大の魅力。また、自分たちで計画した企画で、学類生が楽しむ姿を見られることがやりに繋がっています。皆さんも、私たちと一緒に楽しい学生生活をつくってみませんか。

地域社会と文化コース3年 有我 大輝さん
[福島県立清陵情報高等学校出身]



学生の自主的な活動

ウェブサイトはこちらから▶



合宿ガイダンスとシニター制度

シニターとは、行政政策学類に存在する新入生サポート団体です。主に新入生の履修指導や、新入生同士の仲を深めるためのイベントを企画・運営しています。1泊2日の「合宿ガイダンス」では、ゼミ討論会やウォークラリーなどを行っていましたが、現在は新型コロナウイルスの影響で中止となっているため、学内ウォークラリーやゼミ交流会などを行っています。ぜひ、行政政策学類へお越しください。新入生の大学生活は、シニターが全力でサポートします。

地域社会と文化コース3年 本田 君弥さん
[福島県立好間高等学校出身]



新入生合宿ガイダンス

ウェブサイトはこちらから▶



Pick Up!

大学で学ぶ方法の修得を目指す スタートアップセミナー

新書読解を通じてアカデミックスキルを習得する

金井ゼミは「大学での学問」を学修する際に基礎となるアカデミックスキルを丁寧に学ぶことができるゼミです。具体的には様々な新書の読解やレジュメ作成、学生同士でのディスカッションを通してアカデミックスキルを養っていきます。またゼミでは多くの考えをふまえて自身なりの意見をまとめ、疑問や問題の解決を進めていきます。このような「thoughtful」な学びはこの先の学習において大きな財産になるでしょう。

[山形県立長井高等学校出身]
高橋 鴻樹さん



「Z世代」を「Z世代」の視点から考える

本セミナーでは、「若者世代論を読む-Z世代とZ世代論を批判的に読む-」をテーマに学んできました。原田曜平氏の文献を読みながら、実際に「Z世代」である私たちの視点から「Z世代」について議論しました。

[福島県立会津高等学校出身]
野野 菜々美さん



コースを選択し専門的に学ぶ 問題探究セミナー II・III

地域政策と法コース

物事の本質捉えて発表する力の習得を目指す

法学系のクラス対抗法律討論会のための準備や、市主催の「福島市民のくらし展2021」でのパネル展示活動などを通して、各々の知識や新たに調べて得た知見を出し合っ、発表すべき本質を探る学習を重ねてきました。

中里ゼミ



地域社会と文化コース

東日本大震災発生から10年を機に学びなおす

新藤ゼミでは、2011年3月と2012年3月の福島民報、福島民友、河北新報の朝刊に掲載されている震災関連記事の比較を行いました。震災当時の出来事や各社の報道の違いを捉え、全体で活発な議論をもとにそれぞれが多様な視点での学びを深めていきました。

[福島県立原町高等学校出身]
安藤 禎基さん



古文書学実習

古文書類の記録保全の手法を実践的に学ぶ

古文書学実習では、古文書類のデジタル撮影や記録保全の手法を実践的に学びます。東日本大震災を機に、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」や協定を結んでいる富岡町などと連携し、被災家屋から救出された古文書などの歴史資料の記録・整理に取り組んでいます。毎年夏には、2日間にわたる夏季集中作業を行っています。



行政政策学類 あぶくま学生支援事業

行政政策学類の学生および院生の取り組みを支援します

あぶくま学生支援事業は、行政政策学類の学生および院生が、自主的に計画・実行する、学びと地域活動等に関わる取り組みを支援するものです。これまでに伊達市梁川をフィールドとした「地域まるごと博物館」等の活動を助成しました。行政政策学類の発展と地域課題の解決等のために、学生および院生の皆さんの豊かな発想を活かした企画を募集しています。



2年次 コース選択とアクティブ・ラーニング

行政政策学類には、「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つのコースがあります。これらは「地域社会の課題に取り組み、よりよい地域社会に向けた新しい道を切り開く」といった目的に沿って設置されました。学生は、自らの関心に従ってコースを選択し、2年次(3セメスター)から研究に取り組みます。現代の地域社会が

抱える課題は計り知れず、学生が興味を持つ研究テーマも無限にあります。そのため本学類では、学生一人ひとりの研究テーマに必要な講義を、コースの枠を超えて自由に受講することができる環境を整備しています。関連文献の検索、フィールドワークの計画と実施など、主体的に研究が進められるようになっています。

地域政策と法コース

地域政策と法コースにおいては、法学、政治学及び行政学を中心とした科目を履修していきます。その教育目標は、「新しい地域づくり」を目指し、①「法政治」及び「地域行政」にかかわる知識を総合的、多角的に身につけ、②国及び地域の課題を自ら発見し、必要な法令・判例や文献を紐解き、地域の調査に行ったり

することにより実情を十分に把握し、基本的なリテラシーを活用し、③市民としての政治参加、企業法務及び公務員としての政策形成などにあたり、国及び地域のさまざまな社会現象に対応する問題解決を、地域の諸主体とともに考え、社会貢献ができる、というような人材を養成することにあります。

- 主な専門科目**
- 「現代政治論Ⅰ・Ⅱ」 (現代の政治の諸現象を考える際の基本的視点や方法を学ぶ)
 - 「政治過程論Ⅰ・Ⅱ」 (政治・行政を動的に学ぶ)
 - 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方行政論」 (国と地方の行政について、歴史的・構造的な捉え方を学ぶ)
 - 「国際政治論Ⅰ・Ⅱ」 (政治行政を国際的視点から学ぶ)
 - 「憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ」 (全世界の国民の平和的生存権に基づく人権について学ぶ)
 - 「民法(不法行為法)」 (私人間における損害賠償のルールと判例について学ぶ)
 - 「刑法Ⅰ・Ⅱ」 (罪刑法定主義に基づき犯罪と刑罰について学ぶ)

- 「問題探究セミナーⅡ・Ⅲ」テーマ例**
- 原発訴訟
 - 医療問題を通して紛争解決と法の役割・機能を考える
 - 交通事故の法律問題
 - 災害と平時一住まいの観点から
 - 世界からみた日本の人権問題

- 「専門演習」テーマ例**
- 憲法学の名著を読む
 - 民法を使いこなす
 - 労働問題・社会保障問題の法的な解決
 - 高齢・障がい犯罪者の社会的包摂と権利擁護
 - 原発事故からの避難と自己責任
 - 復興行政の課題を探る
 - 比較の視点で捉える日本の政策課題とその対策



地域社会と文化コース

地域社会と文化コースには、社会計画系の科目、社会学系の科目と、多様な文化研究系の科目(教育、歴史、ジェンダー、比較文化など)が置かれています。

このコースの大きな特長は、「新しい地域づくり」という課題に応えるために、社会学系の科目を基礎にすえつつ、社会や文化が直面している諸問題を地域に即して、歴史的あるいはグローバルな視野から考えていく力をつけるために各科目が配置されていることです。こうした力を獲得すること——それは公務員/民間企業を問わず、これからの日本社会の担い手にとって必要不可欠

なものです。また、このコースが提供する多様な学問領域や問題領域にわたる科目群は、皆さんの幅広い問題関心を受けとめる懐の深さがあります。自分の問題関心や将来の進路に合わせて時間割を組み、学修を主体的に進めていけるという魅力があります。1年次の学類基礎科目である「社会と文化の理論」と「社会学原論Ⅰ」が、「地域社会と文化」コースの導入的な科目です。2~4年次ではどのような科目を履修していけばいいのでしょうか?参考のために4つの分野を示し、説明します。

①「社会計画」分野を中心に学ぶ

まちづくりやコミュニティづくり、より良い地域環境の形成など新しい地域づくりに関連した科目や、高齢社会に対応した人々の基礎的なライフスタイルや社会福祉のあり方に関連する科目を配置しています。

- 主な専門科目**
- 「社会計画論」(社会計画的思考やその歴史と方法、望ましい計画のあり方などを学ぶ)
 - 「社会調査論」(計画づくりに不可欠な地域社会や住民生活の現状を、現地調査を通じて科学的に把握する方法を学ぶ)
 - 「社会福祉論」(高齢社会に対応した福祉社会・福祉政策のあり方、社会福祉の技術と方法について学ぶ)

②「社会学」分野を中心に学ぶ

激動する地域社会の動きや社会的な諸問題を総合的にとらえること、そしてそれらをよりよい方向に導いていくにはどうすればいいかを追究することです。

- 主な専門科目**
- 「社会と文化の理論」 ●「社会学原論Ⅱ」 ●「メディア論」
 - 「社会学原論Ⅰ」 ●「地域社会学」

③「地域文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の歴史や社会教育、ジェンダーといった問題を中心に学ぶことになります。

- 主な専門科目**
- 「考古学」 ●「社会教育論(生涯学習論を含む)」 ●「古文書講読」
 - 「文化史」 ●「ジェンダー論」 ●「古文書学実習」

④「比較文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の国際化にともなってきた諸問題を解決するために、多文化を理解するとはどういうことか、多文化受容とはどうあるべきかを追究することです。

- 主な専門科目**
- 「比較地域文化論」 ●「国際文化交流論」 ●「English Presentations」
 - 「言語文化論」 ●「英語コミュニケーション」 ●「中国語コミュニケーション」
 - 「欧米文化論」

「問題探究セミナーⅡ・Ⅲ」テーマ例

- 地域再生と関係人口
- 映画館とまちづくり
- 孤立を防ぐ
- 他者のジェンダーに関する経験を聴く
- 雑誌から見える社会の一面とその変化

「専門演習」テーマ例

- “食”と“エネルギー”から生産と消費のあり方と地域の自立を考える
- 都市の再生と住民による「まちづくり」—コミュニティ・空間・計画—
- 「吾妻鏡」を輪読する
- 社会教育と生涯学習をめぐる諸問題
- 多文化主義の過去・現在・未来—オーストラリアと日本、そして、世界—
- 物語から文化&社会を知る—フィクションと社会の影響関係の考察
- 支援・ケアの社会学

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



「むらの大学」とゼミでの学びが刺激に

ゼミにおいて、憲法の勉強をしています。先生や先輩方との意見交換では、自分にはない発想や別の角度からの意見に刺激を受けています。また印象深いのは、1年生の時に履修した「むらの大学」で南相馬市小高区の住民の方に何度もお話を聞いたり、イベントで交流をしたことです。このような経験を通じて、私が目指す理想の公務員像ができあがったように感じます。講義でインプットしたことを地域で実践的に活かすことで、意味のあるアウトプットができていると思います。

地域政策と法コース4年
[宮城県石巻高等学校出身] | 三浦 夢叶さん

知識欲を満たし、刺激をくれる学び

私は元々歴史を中心に社会学などいろいろなことに興味がありました。この学類は人間社会に関する幅広い勉強ができるので私の知識欲を満たし、刺激してくれています。また、ゼミ学習でテーマに応じて調査や思考を深めることで難しさや楽しさを知り、視野が広がっていく実感をられました。こうやって、刺激と発見を繰り返し学んでいくことは素敵だと思いませんか?

地域社会と文化コース4年
[栃木県立石橋高等学校出身] | 楠田 かぐらさん



講義だけじゃない！ 行政政策学類 まなびのかたち

法律討論会

行政政策学類「地域政策と法コース」では、法律系ゼミによって法律討論会を開催する年度があります。専門的な知識と論理が必要とされる法律に関する問題を学生が中心となって立論を作成し発表・討論していきます。難題をゼミの議論を通じてみんなで考え、立論を作成して、上手く伝えて討論することなど、生きた学びを体験できます。



海外フィールドワーク実習

ドイツの農村地域で進む「再生可能エネルギーによる村づくり」。その取り組みは、人口数百～数千人規模の小さな自治体が担っています。住民800人の村にホームステイしながら、住民とのサッカー交流や農家訪問などを通じて、日本における持続可能な地域づくりに何が必要かを学びました。



学生論文集「嶺風(れいふう)」

嶺風編集委員会では、学生が中心となり、行政政策学類の学生論文集『嶺風』を編集・発行しています。『嶺風』には、学生が執筆した論文をはじめとして、エッセイ・小説なども掲載されています。大学での学びの場のひとつに『嶺風』はなっています。ぜひ、『嶺風』を手にとってみてください。

Twitterはこちらから▶



地域は大学生のフィールドだ

政治過程論演習

復興の基礎はコミュニティの復活からという考えのもと、私たちは相馬郡飯館村の廃校を舞台に「1日だけの佐須小学校」復活イベントを企画しました。校歌を歌ったり、蕎麦打ちをしたりと久しぶりに集まった住民の皆さんと賑やかな1日を過ごしました。



社会福祉課題研究

現場で福祉を学ぶ科目です。私は介護老人保健施設で5日間の実習を体験し、介護の役割の広さを知りました。また利用者さんとの接し方など自らの課題を見つける力も身につけることができました。



考古学実習

実測図や拓本などの基本的技術を学んだ後、夏休み中に福島県内外の遺跡の発掘調査を行います。後期には発掘調査成果を報告書にまとめます。これらを通じ、考古学の専門職に就けるだけの知識・技術の習得を目指します。



3年次・4年次 4年間の学びと経験の集大成 個性あふれる「卒業研究」を完成

すべての行政政策学類生は、卒業時に「卒業研究」を提出します。「卒業研究」は、4年間の学びと経験、学生生活の集大成ともいべき大切なものです。その作成に向けて、どのような講義を受講するのか、また専門演習を履修して、どのような調査やインターンシップを実施するかなど、学

びのプロセスを自分の手で計画し、作りあげていくこととなります。たくさんの先輩たちもそうであったように、途中で困難な状況に遭遇した場合は、アドバイザー教員がサポートします。個々の問題意識やテーマに従い、個性あふれる卒業研究をまとめることが求められます。

センパイの学び

「全世界の国民の
平和的生存権」から
3.11以後の
人権保障を考える

金井ゼミ(憲法)に所属。
学生サークル「災害ボランティア」
での活動などに取り組んできました。

3年次に選択した科目

- 憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ
- 刑法Ⅰ・Ⅱ
- 憲法(統治)Ⅰ・Ⅱ
- 民法(不法行為)
- 行政法総論Ⅰ・Ⅱ
- 債権総論

4年次に選択した科目

- 行政法Ⅰ・Ⅱ
- 地方自治Ⅰ・Ⅱ
- 民法(債権各論)
- 国際法Ⅰ・Ⅱ
- (家族)

卒研のテーマ

これからの震災に備えて一東日本大震災は何を残したのかー

メディアづくりを学び、
地方創生への
活かし方を考える

佐々木ゼミ(情報社会論)に所属。
映像制作やローカルメディア分析
を通して、自治体支援のあり方を
研究しました。

3年次に選択した科目

- 演習Ⅰ・Ⅱ
- 地域福祉論
- 国際政治論Ⅰ
- 福祉国家論
- 国際公共政策論
- 行政法Ⅰ
- 情報社会論
- 地方政治論Ⅰ
- 欧米文化論Ⅰ
- 地域史Ⅰ
- 言語文化論Ⅰ

4年次に選択した科目

- 演習Ⅲ・Ⅳ
- 卒業研究

卒研のテーマ

クリエイティブディレクターと挑む地方創生

Interview

卒業生に
聞いてみました！

Q.
10年後の目標は何ですか？

課題解決能力を磨きあげ、
必要とされる行政マンに

スポーツ施設の建設や維持管理、イベント運営の業務に携わっており、昨年度は東京2020オリンピック聖火リレーを担当しました。大学では、フィールドワークを通して社会問題や地域課題にふれ、課題発見能力を養いました。現在の基礎自治体は解決すべき課題が山積みで、私たち自治体職員は知恵を絞り、汗をかかなければなりません。そのうえで私は、最短距離での問題解決に挑みたいと思っています。そのため課題解決能力を磨きあげ、組織に必要とされる行政マンになりたいと考えています。

相馬市役所教育委員会生涯学習部生涯学習課
スポーツ振興係 主査
行政政策学類 地域と行政コース 2016年卒業

星 涼太さん

行政政策学類 夜間主 「学び」と「仕事」の両立をサポート 専門的に社会と向き合いたい人へ

夜間主は、「大学で専門的な知識を得て、キャリアアップを目指したい」、「仕事と学生生活を並行して、社会経験を豊かにしたい」など、「働きながら学びたい」という願いに応えるために開設されました。学ぶコースは「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。2年次(3セメスター)への進学時に、それぞれの関心と目標に合わ

せて、どちらかのコースに進みます。卒業時に得られる学位は、それぞれ「学士(法学)」(地域政策と法コース)と「学士(社会学)」(地域社会と文化コース)。長期履修制度や放送大学の活用、昼開講の授業の受講など、行政政策学類夜間主は、「学び」と「仕事」を両立させるための柔軟なカリキュラムを用意して、皆さんの大学生活を支えます。

Point!

1 夜間開講の授業の履修を基本としながら、柔軟な単位取得を可能にするカリキュラム

行政政策学類の昼開講授業の履修、放送大学や資格試験を利用した単位取得、長期履修制度などを組み合わせ(受講数に制限あり)、それぞれの就労状況に合わせて柔軟に学生生活を設計可能です。

2 入学科・授業料は半額

これまでの「現代教養コース」同様、入学科や授業料等は、半額となっています。

3 2つのコースから選んで地域課題に学際的にアプローチ

2年次進学時(3セメスター)から、それぞれの関心と目標にしたがって、「地域政策と法コース」もしくは「地域社会と文化コース」を選択します。

4 卒業時に得られる学位は「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」

卒業時には「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」が授与されます。

5 アルバイト・パートのみなさんもチャレンジ可能!

入学する年の3月31日時点で年齢が22歳に達している人、もしくは、年齢が22歳に達していなくても入試出願時に就職している人(主婦・主夫業も含みます)、就職が内定している者、または、入学後に就業しながら大学に通う意思がある人は、受験・入学することができます。

※就職・就業にはアルバイト、パート等を含み、「労働時間が週平均20時間以上のもの」に限ります。詳しくは募集要項をご確認ください。

地域政策と法コース

こんな人に学んでほしい

- 1- 公共部門の仕事に関心があり、法律の運用や政策形成について学びたい人
- 2- 職業で法律の専門知識を必要とする人や、地域や市民の合意形成に関心のある人
- 3- まちづくりや地域の活性化に興味があり、とくに法や政策の視点から学びを深めたい人

主な専門科目

- 日常生活と民法
- 裁判と法
- 行政と法I
- 地方自治と法
- 現代の地方行政
- 地域行政政策論
- 現代の国際政治
- ほか、指定された放送大学の科目など



卒業時に得られる学位 **学士(法学)**

地域社会と文化コース

こんな人に学んでほしい

- 1- 農山村や地方都市の生活実態を知り、地域の持続可能性を高める施策や計画に関心のある人
- 2- 地域社会や歴史・文化に関心があり、公共部門やNPOなどで専門的業務に携わりたい人
- 3- 法律の運用や政策形成に社会の実態や課題をよりリアルに反映させたいと考える人

主な専門科目

- 社会計画論
- 地域福祉論
- ジェンダー論
- 地域史
- 言語文化論
- 国際文化交流論
- メディア論
- ほか、指定された放送大学の科目など



卒業時に得られる学位 **学士(社会学)**

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



「関連性」を発見し、学びの楽しさを実感

「地元を支えられるような職業に就きたい」という漠然とした思いがあり、法律からみた行政、また地域社会に関わる事柄について学習できるこのコースを選択しました。今は法律をメインに学んでいます。法律とひと言でいっても、民法や刑法など種類があり、難しいことも多々ありますが、知らなかったことを知り、また各々の講義で学習したことに関連性を見いだした時は、学ぶことの楽しさを感じます。ここでは人生経験豊富な社会人の方々と出会ったことで、得られるものもたくさんあります。働きながら学ぶのは大変ではありますが、得るものも多いのではないかと考えています。

地域政策と法コース 4年
[岩手県立宮古高等学校出身]

佐々木 詩乃さん

「高齢者の健康づくり」が学びのテーマです

震災からの復興、少子高齢化、過疎化など、福島県が抱える問題を学び、福島県のためになることをしたいという思いからこの大学を選び、夜間主に通っています。そして今、「高齢者の健康づくり」をテーマに、地域福祉といった行政からの取り組みや、健康寿命の延伸には何が必要かなど、高齢社会に向けてできることを考えています。その過程で、中山間地域の問題などにも興味湧いてきました。福島大学は地域とのつながりを重視し、フィールドワークを行う環境も整っています。また、震災に関して実体験をもとに学ぶことができるなど、ここにしかない学びの環境は、とても魅力的だと思います。

地域社会と文化コース 4年
[福島県立須賀川桐陽高等学校出身]

小林 柊斗さん



経済経営学類



100年の伝統と実績をもとに次の学びへ
幅広い教養と経済・経営の専門知識を身につけ、
グローバルに活躍する人材を育成します。

- 経済学コース ・経済理論モデル / ・グローバル経済モデル
- 経営学コース ・地域経営モデル / ・会計ファイナンスモデル

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 経済学と経営学の専門知識
- エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- グローバルに思考し実践に進む力
- キャリアを見据え自立し協働する力

取得できる資格

高等学校教諭一種免許状(商業)

卒業後の進路

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など ● 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防 ● その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など) ● 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陸銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村證券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫)など | <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど) ● 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど) ● 製造業(クボタ、小松製作所、福島キヤノン、キーエンスなど) ● 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど) ● メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など) ● 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など) ● コンサルタント、マーケティングリサーチ(アクセンチュア、マクロミルなど) ● 専門職
(商業高等学校教諭、公認会計士、税理士、社会保険労務士など) ● 大学院進学
東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、
福島大学など |
|--|--|



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1セメスターから第3セメスターまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4セメスターから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7セメスターから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。



学類長メッセージ

先行きが不透明な時代を「しなやか」に渡る術を修得

経済経営学類は、1922年に創立された福島高等商業学校の伝統を引き継いでおり、令和4年に100周年を迎えます。この間に卒業した同窓生は2万5千を超え、経済界のみならず、各界で活躍しています。カリキュラムは経済学コース、経営学コース、コース横断的なグローバルエキスパートプログラムを中核としています。また、入学時から所属するスタートアップセミナーや語学系科目など、少人数で学ぶ科目が豊富に準備されているのが特徴です。現在の経済・経営の動向は、情報技術の急速な進展を伴うグローバル化によって、これまで以上に不透明になってきています。学生の皆さんには、このような世の中を「しなやか」に渡ってゆく術を身につけた人材に育っていただきたいと思ひます。

経済経営学類長 末吉 健治 教授

教員紹介 ※2022年4月1日現在

経済学コース	経営学コース
荒知宏 (国際経済学)	稲村 健太郎 (租税法)
石川 大輔 (マクロ経済学)	岩井 秀樹 (人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザイン)
井上 健 (統計学、計量経済学)	遠藤 明子 (マーケティング)
岩本 吉弘 (社会思想史)	奥本 英樹 (ファイナンス)
大川 裕嗣 (日本経済史)	奥山 修司 (マネジメント会計、取引デザイン)
菊池 智裕 (西洋経済史、ドイツ農業史・社会経済史)	貴田 剛信 (管理会計、原価計算)
熊澤 透 (労働経済、社会政策、社会保障)	金 善照 (組織行動論)
佐藤 英司 (産業組織論)	下山 誠 (会計学(財務諸表論、原価計算論)、監査論)
佐藤 寿博 (経済学(近代経済学))	根建 晶貴 (財務会計、企業評価分析)
佐野 孝治 (開発経済学、アジア経済)	野際 大介 (マーケティングサイエンス、経営統計学、消費者行動論)
朱 永浩 (アジア経済論、中国経済論)	野口 寛樹 (組織論、非営利組織論)
末吉 健治 (経済地理学)	平野 智久 (会計学(財務会計論))
十河 利明 (アメリカ経済論)	村上 早紀子 (地域づくり、住居学、都市計画)
沼田 大輔 (環境経済学)	伊 卿烈 (経営戦略、国際経営論、ビジネスイノベーション論)
藤原 一哉 (財政学)	
藤原 運 (地域経済学、地方財政論、環境経済学)	
三家本 里実 (労働過程論、労働社会学)	
吉田 樹 (都市・地域計画、地域交通政策、観光政策)	

グローバル・エキスパート・プログラム
伊藤 俊介 (朝鮮近代史)
井本 亮 (日本語学、現代日本語文法、日本語教育)
吉高 神明 (国際公共政策論、国際関係論)
クズネツォフ・マリナ (社会学)
グンスケフオンケルン・マルティナ (外国語教育法)
佐々木 俊彦 (英文学、カルチュラル・スタディーズ)
手代木 有兒 (中国近代思想史)
福富 靖之 (理論言語学、比較統語論)
松浦 浩子 (応用言語学、英語教育)
マッカーズランド・フィリップ (英語教育法(異文化コミュニケーション))
吉川 宏人 (19世紀ロシア文学)

詳しい経歴はこちら



※優秀な卒業研究に対して飯塚賞を授与している
飯塚賞とは、飯塚毅氏の同意会への寄付金及び氏の栄誉を永く記念するために「飯塚基金」として運用益金をもって毎年度の優秀卒業生を表彰するものである。

経済学コース

経済理論モデル / グローバル経済モデル

経済学コースでは、経済社会の課題はもちろん、歴史と現在、そして未来を考えるために、各教員が連携、協力し合い、研究と教育を進めます。学生の皆さんにとっても、科目が選びやすくなり、経済社会をより多角的に理解できる環境が整っています。

主な科目

- | | | |
|---------------|-----------|----------|
| ● ミクロ経済学 | ● マクロ経済学 | ● 入門金融論 |
| ● 政治経済学 | ● 財政学 | ● 経済政策 |
| ● 公共経済学 | ● 労働経済 | ● 環境経済学 |
| ● 産業組織と規制の経済学 | ● 計量経済学 | ● 日本経済論 |
| ● 国際経済学 | ● 国際関係論 | ● 開発経済学 |
| ● 世界経済論 | ● アメリカ経済論 | ● アジア経済論 |
| ● 経済学史 | ● 日本経済史 | ● 比較経済学 |

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適応することができる人材の育成を目指します。

活動PICK UP!

ERE (経済学検定試験)

学生有志が、ゼミの枠を超え学習組織を立ち上げ、ERE (経済学検定試験) の勉強会を開いています。EREとは、経済学の基礎知識と初歩的な応用能力のレベルを判定する全国規模の検定試験で、多くの大学が大学院試験で取り入れています。勉強会では、学生同士が議論を重ねて問題の理解を深め、ERE大学対抗戦でも成果を上げています。学生が主体なので、知識のみならず、自主性を身につけるよい機会となっています。また、公的機関や金融機関の方々からお話を伺う企画を立てるなど、活動の範囲を広げています。経済学にむきあうことを通して、知識を深め、社会経験を積む、絶好のチャンスです。



グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

活動PICK UP!

海外インターンシップと「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります (WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学 (University of St. Thomas) で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます (WEA II)。



Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



現場に赴き、多角的な思考を深めています

経済経営学類は、長い歴史と実績があり、幅広く多角的な学びを得られるところが魅力だと思います。現在、東アジア経済や物流分野について学んでいます。私が所属している朱永浩ゼミでは、コロナ禍においても工夫をしながら学外研修や他大学との交流を行っています。実際に現場に赴き、現場のリアルな情報に触れることで、より理解を深めることができている。この現場主義の考えは、現在行っている就職活動にも非常に役立っています。

経済経営学類 経済学コース4年
[宮城県立白石高等学校出身]

佐藤 直也 さん



グローバル時代に対応する力を磨く

グローバル時代に対応できる能力や知識を身につけるために、「グローバル・エキスパート・プログラム」に参加して、さまざまなことに取り組んでいます。例えば Work Experience Abroad という授業では、米国テキサス州で行われるインターンシップに向けて、政治や文化の違いなどの学習を進めています。今年も新型コロナウイルスの影響で実現は難しいものとなっていますが、海外のことはもちろん、日本に関することも深く学ぶことができ大変充実しています。

経済経営学類 経営学コース3年
[茨城県立水戸第一高等学校出身]

浅野 桃可 さん

Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

成長のための努力を惜しまず、幅広い知見を身につけたい

現在、経理部に所属し、売上や仕入伝票管理など会社の資金管理のほか四半期ごとの決算業務に従事しています。プレッシャーもありますが、会社経営を支える業務に携わることは、良い経験になると考えています。大学では地域経済について学び、地域課題を改善するための企画提案を行ってきました。その時に常に周囲の状況を把握することを心がけており、それによって観察力が磨かれたと思っています。これからも大学時代のように成長のための努力を惜しまず、多くの業務に携わり、幅広い知見を身につけていきたいと思っています。

東北電力株式会社
ビジネスサポート本部経理部経理センター
経済経営学類 国際地域経済専攻 2021年卒業

國分 菜々子 さん

経営学コース

地域経営モデル / 会計ファイナンスモデル

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)も対象としながら、より幅広い視点で経営現象をとらえます。特に地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を超えて学ぶことができるのが特徴です。

主な科目

- 経営戦略論
- 人的資源管理論
- 地域企業経営論
- 国際経営論
- 経営情報分析
- 中級簿記
- 原価計算
- 経営組織論
- マーケティング論
- 地域経済論
- 調査法
- 財務管理論
- 上級簿記
- 管理会計
- 組織行動論
- 消費者行動論
- 地域政策論
- 租税法
- 現代ファイナンス
- 財務諸表論
- コスト・マネジメント

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

活動 PICK UP!

まちづくりのためのフィールドワーク

地域経営モデルでは、机上の学習に留まらず、実際にフィールドに出向くことで地域課題に取り組む点が特徴です。村上ゼミでは、空間の再編集および利活用、コミュニティビジネスなど地方都市が抱える課題をキーワードにしながら、地域の住民の皆さんや、まちづくり会社をはじめとした地域組織との議論および連携により研究活動に励んでいます。



会計ファイナンスモデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

活動 PICK UP!

“会計人”を目指したプログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」では、会計専門職や経理財務担当者、高校教諭や研究者など、多様な“会計人”を目指した主体的な学修を支援する体制を整えました。体系的な学修、所定の検定試験への合格、一部の大学院授業の履修などの基準を満たした学生に「会計エキスパート・プログラム修了証」を授与しています。学類棟1階には専用の自習室を設けているので、意識の高い仲間とともに緊張感を持って学修に取り組んでください!



Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



具体的な学びに興味がかきたてられます

現在所属しているゼミで、データサイエンスを学んでいます。データサイエンスとは、統計学や情報科学の手法を用いてデータから知見を引き出す学問です。インターネットが普及したことで、ビッグデータが蓄積されやすくなったことから、集まったデータを分析して課題を見つけ出し、それに対してどのような施策を打つのかを考えます。高校までは、今やっている勉強がどう役立つのかピンときませんでした。しかし大学での学びは具体的で興味深いので、とても楽しいです。

経済経営学類 経営学コース3年 | 吉田 かおる さん
[宮城県仙台三枝高等学校出身]



アイデアを形にすることに興味があります

今、一番興味があるのは、自分のアイデアを形にすることです。ゼミで、ビジネスプランコンテストやアカウントティングコンペティションという大会に参加し、世の中にあつたらいいなと思うものや、企業の経営活動に対して興味をもったことなどをパワーポイントを使ってまとめ、プレゼンテーションしました。この経験から、企業活動に常に意見や疑問をもつことの大切さを学びました。また、ゼミの仲間と、1つの目標に向かって協力する大切さも実感することができました。

経済経営学類 経営学コース4年 | 佐藤 壮太 さん
[宮城県泉館山高等学校出身]

Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

地方の製造業における生産性を お客様と一緒に高めたい

製造企業に対する業務システム導入に関わるプロジェクトに携わり、地方の中小企業における生産性の向上に取り組んでいます。日々、実感するのは大学時代に学んだ会計の知識が役立っていること。そして、ゼミなどで学んだ「問いを立てて構造的に考える」というアプローチは、仕事でも大変重要なことで、学生時代からこのような考え方を鍛える機会に恵まれたことはとても良かったと思っています。今後は、システムと会計の専門知識を武器に、中小製造企業の実産性の向上を、お客様と一緒に実現できるよう成長したいです。

アクセンチュア株式会社
経済経営学類 企業経営専攻 2021年卒業

大木 信二 さん



コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム (グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学び、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積み重ねることができます。

Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な空間から飛び出さない」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはず。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪れたり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深めるFukushima Workshop (Fukushima Ambassadors Program) を開講しています。

ドイツ語実践演習／ロシア語実践演習

ドイツやロシアに渡航し、語学研修を受けます。同時に現地の小学校を訪問、幼児教育の現場を視察、少数民族の村を訪れるなど、さまざまな社会的・文化的なエクスカッション(小旅行)に参加します。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2ヶ月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用するのはもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上する、と評判です。

海外調査

中国、タイ、ベトナム、ミャンマーなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験に基づく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データに基づく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類の調査の実施後、集まったデータを

適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけしていきます。このようなデータに基づく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



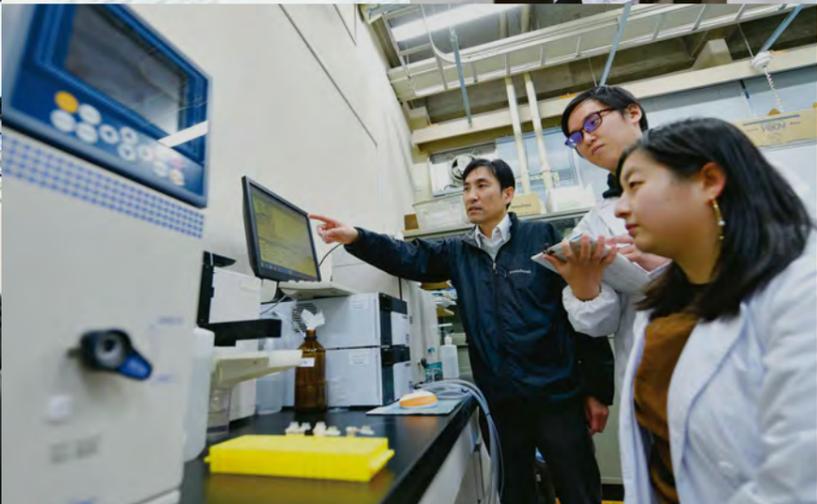
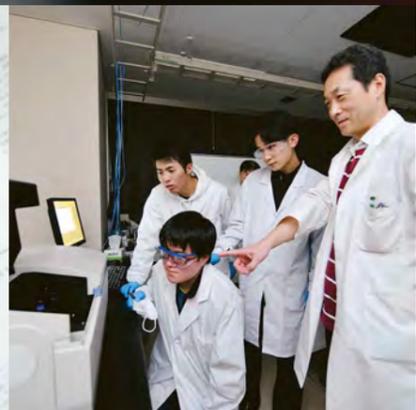
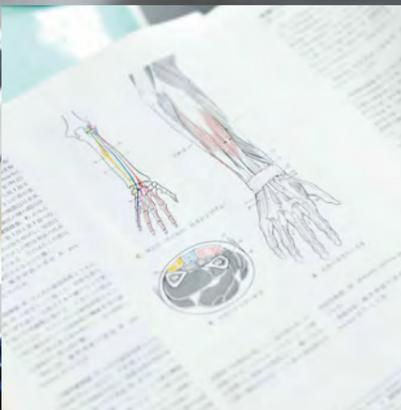
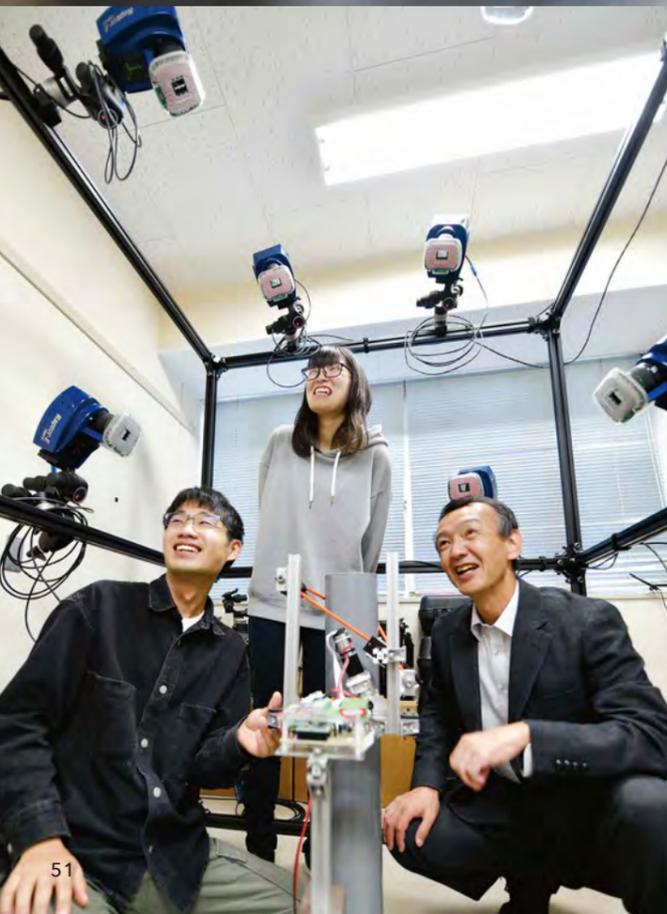
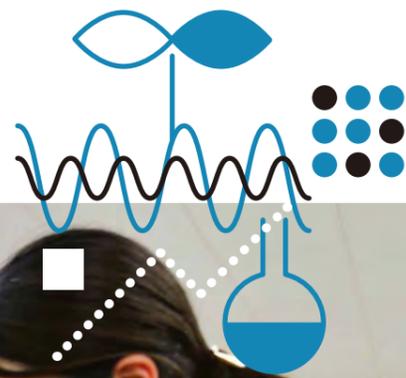
コーオプ演習／連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオプ演習」と講義形式の「連携講義」があります。コーオプとは「cooperative(協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。

連携先には、アクセンチュア(コンサルティング会社)、自治体、NPOなどがあります。一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論(東北税理士会)、証券市場論(野村證券)、財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会)などがあります。



共生システム理工学類



理学・工学・人文社会科学を融合した学びにより、
現代社会や地域の問題を「システム」的に解決できる
実践的経験を持つ「理工」系人材を育成します。

- 数理・情報科学コース
- 経営システムコース
- 物理・システム工学コース
- 物質科学コース
- エネルギーコース
- 生物環境コース
- 地球環境コース
- 社会計画コース
- 心理・生理コース

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

共生を科学する新しい教育・研究システムのもとで、
卒業までに次の4点を身につけたい学生を受け入れます。

- 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- 学際的・国際的に実践する力
- 論理的で的確な立案力と決定力
- 積極的かつ持続的な貢献意識

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(理科/技術/数学※)
- 高等学校教諭一種免許状(理科/工業/情報/数学※)
- 学芸員資格

※数学については他学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状。

その他の資格

- 公認心理師
- 心理・生理コースに所属し、必要な科目の単位を修得したのち、大学卒業後に公認心理師受験資格取得のカリキュラムを有する大学院への進学または認定施設での実務経験に従事することにより、公認心理師の受験資格が得られます。実習先の受け入れ可能数を超える場合には選考することがあります。

資格試験受験の補助制度

- 福島大学共生システム理工学類後援会が、1~4年生を対象に行っている補助制度があります。
- 資格試験1種類につき3,000円を補助(3,000円以下の場合は半額補助)
 - 年度が変われば、同じ試験を再受験可能
 - 種類が異なれば年間何回でも補助可能

卒業後の進路

- 大学院進学(福島大学大学院、東北大学大学院他)
- 中学・高校教員(理科/数学/情報/技術/工業)・科学館/博物館学芸員
- 家電・自動車・住宅関連企業や医療・福祉関連企業及び制御機器メーカーの技術者・研究者
- 製造業・エネルギー関連企業の技術者・研究者・技術経営管理者
- 商社・流通関連企業
- 水・環境・防災・建設関連企業の技術者・環境管理者・環境計量士
- 国家・地方公務員(一般職)
- 国家・地方公務員(技術系 水・環境・土木等)



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

異分野の専門家と協働できる人材を育成するために

1年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミングなどを幅広く学び、2年次からは9つの専門コースに分かれて深く学びます。3年次後期からは研究室に配属され、各コースで学んだ知識を基に新しい知識を生み出す研究のプロセスを、教員や大学院生による指導・助言のもとで体験します。ここでは、自分と異なる分野の専門家と適切な討論を行えるようになることも重視されます。

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
学びの目標	理工系の基礎科目を学ぶとともに、諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養う		コースを1つ選択して専門領域を深く学ぶ		より踏み込んだ学びを得。知識・技能を深化		4年間の学びの集大成として「卒業研究」に取り組む	
専門教育	学類基礎科目 ■ 共生の科学 ■ 生物学 ■ 数学 ■ 地球科学 ■ 物理学 ■ プログラミング基礎 ■ 化学		2年次の前期（第3セメスター）から専門領域名を冠した9つのコースの中から1つを選択して専門領域を深く学びます。		3年次の後期（第6セメスター）からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。			
基礎教育	1年次で数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング基礎などの理工系の基礎科目を学ぶとともに、「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養います。		2年次よりコース所属		3年次後期に研究室配属			
	数理・情報科学コース 経営システムコース 物理・システム工学コース 物質科学コース エネルギーコース 生物環境コース 地球環境コース 社会計画コース 心理・生理コース		■ 基礎解析学I ■ 情報科学概論 ■ データベースシステム ■ 離散数学 ■ 計算機システム論 ■ プログラミングI など ■ 経営工学 ■ 生産管理概論 ■ 経営システム演習I ■ 製品開発概論 ■ 循環型産業論 ■ 経営データの科学 など ■ 材料力学 ■ 電気回路 ■ 物理学実験 ■ 機構学 ■ 計測工学 ■ 機械・電気工学実験 など ■ 物理化学 ■ 無機化学 ■ 分析化学 ■ 機器分析 ■ 有機化学 ■ 生化学 ■ 化学実験I など ■ 熱力学 ■ 化学工学 ■ 環境衛生科学 ■ 基礎物性物理 ■ 資源・エネルギー工学 ■ 機械・電気工学実験 など ■ 生物多様性概論 ■ 環境微生物学 ■ 保全生物学実験 ■ 生態学基礎 ■ 環境保全論 ■ 生物・地球環境システム概論 など ■ 地質学概論 ■ 流域水文学 ■ 地球環境科学実験 ■ 気象学 ■ 水循環システム学 ■ 水循環システム概論 など ■ 社会計画概論 ■ 環境計画論 ■ 社会情報分析 ■ サウンドスケープ ■ 都市計画概論 ■ 社会計画演習I など ■ 心理学概論 ■ 脳神経科学 ■ 基礎心理学I (学習・言語心理学) ■ 心理学研究法 ■ 生体システム実験(心理学実験) ■ 基礎心理学II (神経・生理心理学) など		《ゼミナール》演習・卒業研究			
接続領域	■ スタートアップ科目 ■ ライフマネジメント科目 ■ 外国語コミュニケーション科目							
教養領域	■ 学術基礎科目 ■ 健康・運動科目 ■ 情報科目 ■ 外国語科目						指導体制 1年次～3年次前期までは、グループアドバイザー（教員）が生活と修学の指導を行います。3年次後期から研究室に配属され、研究室の指導教員が演習や卒業研究を指導します。	
問題探究領域	■ 問題探究セミナー ■ 問題探究科目 ■ 自主学修プログラム							
自由選択領域	■ 他学類の科目		■ 海外演習					



学類長メッセージ

システム科学を志向しよう

カーボンニュートラル、グリーンリカバリー、グリーンウォッシュ、グレートアクセラレーション、プラネタリーバウンダリーズ、これらは地球環境に係わって見聞する用語で、地球温暖化の問題に行き着きます。複雑で、単純には解決にたどり着かない21世紀の社会が抱える課題はこの他にもありますし、我々人類の様々な活動と関わりがあります。

共生システム理工学類では、このような21世紀的課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を育成することを教育目標としています。理工系人材に期待されているのは、データや論理に基づく丁寧な説明力と判断力であったり、卓越する技能や実践力です。皆さんは、21世紀的課題あるいは学問的興味にどのような専門性を備えて取り組みますか。専門性を磨くと共に、広い視野をもちシステムとして物事を捉える思考が諸課題の解決に欠かせません。

大学入学はゴールではなく、スタートです。皆さんと知的な創造活動を楽しみ、時には熱く、時には苦しくとも、最後までお付き合いします。

共生システム理工学類長 長橋 良隆 教授

教員紹介 ※2022年4月1日現在

数理・情報科学コース

- 内海 哲史 (情報ネットワーク)
- 立井 博則 (非線形偏微分方程式論、応用数学)
- 神長 裕明 (ソフトウェア工学)
- 篠田 伸夫 (情報科学、情報教育)
- 中川 和重 (非線形解析)
- 中村 勝一 (データ工学、教育工学、HCI)
- 中山 明 (オペレーションズ・リサーチ、応用数学)
- 藤本 勝成 (非加法的集合関数、知能情報学)
- 三浦 一之 (アルゴリズム論、グラフ理論)

経営システムコース

- 石岡 賢 (技術経営、製品開発戦略、マーケティング戦略)
- 石川 友保 (ロジスティクス、オペレーションズ・リサーチ)
- 寛 宗徳 (経営工学、教育工学)
- 董 彦文 (経営情報システム)
- 西嶋 大輔 (環境システム分析、環境経済学)
- 樋口 良之 (経営工学、資源・廃棄物に関わる計画、管理、評価)

物理・システム工学コース

- 岡沼 信一 (電気工学)
- 衣川 潤 (ロボット工学)
- 島田 邦雄 (流体工学、エネルギー工学)
- 高橋 隆行 (ロボット工学、制御工学)
- 田中 明 (医用工学)
- 馬場 一晴 (素粒子宇宙論)
- 二見 亮弘 (生体工学)
- 山口 克彦 (物性物理学、放射線科学)

物質科学コース

- 猪俣 慎二 (無機化学、有機金属化学)
- 大橋 弘範 (物理化学、X線γ線分光学)
- 大山 大 (合成化学、金属錯体化学)
- 杉森 大助 (生物工学)
- 高具 慶隆 (分析化学、分離化学、分子機能学)
- 高安 徹 (有機化学、構造有機化学)
- 中村 和正 (材料工学、材料物性、材料分析)

エネルギーコース

- 浅田 隆志 (環境衛生科学、バイオマス資源学)
- 生田 博将 (無機固体化学、固体電気化学)
- 佐藤 理夫 (化学工学、製造・エネルギープロセス)

生物環境コース

- 兼子 伸吾 (保全生態学、分子生態学)
- 木村 勝彦 (植物生態学、年輪年代学)
- 黒沢 高秀 (植物分類学、生態学、地域の植物相)
- 塘 忠顕 (昆虫の比較形態学、地域の昆虫相・カニムシ相)
- 難波 謙二 (環境微生物学)

地球環境コース

- 川越 清樹 (河川工学、水文学、自然災害科学)
- 柴崎 直明 (地下水盆管理学、水文地質学、応用地質学)
- 長橋 良隆 (地質学、火山地質学、第四紀地質学)
- 横尾 善之 (流域水文学)
- 吉田 龍平 (気象学、応用気象学)

社会計画コース

- 川崎 興太 (都市計画、まちづくり)
- 後藤 忍 (環境計画、環境システム工学)
- 永嶋 幸司 (サウンドスケープ)

心理・生理コース

- 小山 純正 (神経生理学、睡眠生理学)
- 高原 円 (精神生理学、睡眠科学)
- 簡井 雄二 (実験心理学、神経科学、災害心理学)

専門知識・技術と実践的な応用力を身につける 9つのコース



1年次 基礎となる教育に力を入れ、将来も考える

共生システム理工学類は、「共生」をテーマに現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、解決できる理工系人材の育成を目指しています。そのため1年次では、基礎教育に加え、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング、共生の科学といった専門教育の基礎となる科目に力を入れます。幅広いジャンルの学問にふれ、実践的・体験的な学びを通して、自分の将来を見つめる視点も養います。

共生システム理工学類 履修基準表

領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件 必修	卒業要件 選必
接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	/
	ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	/
	外国語コミュニケーション科目	健康運動科学実習	1	1	1	1	/
教養領域	学術基礎科目	英語AⅠ・AⅡ	1~	1~	1	4	/
		人文科学分野の科目	1~	1~	2	2	
		社会科学分野の科目	1~	1~	2	2	
	キャリア設計科目	自然科学分野の科目	1~	1~	2	2	
		キャリアモデル学習	2~	3~	2	2	
		インターンシップ	2~	3~	1又は2	/	
	健康・運動科目	ワーキングスキル	2~	3~	1又は2	/	
		スポーツ実習	1~	2~	1	/	
		英語BⅠ・BⅡ	2~	3~	1		9
		英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ	1~	1~	1	4	
外国語科目	英語以外の外国語基礎(特設)Ⅰ・Ⅱ	1~	1~	1			
	英語以外の外国語応用Ⅰ・Ⅱ	2~	3~	1			
	情報科目	情報リテラシー	1~	1~	2	/	
	問題探究科目	問題探究科目	1~	1~	2	2	
問題探究領域	自主学修プログラム		1~	1~	1又は2	/	
	問題探究セミナー	問題探究セミナーⅠ	1	2	2	2	/
	小計						34
学類共通領域	学類共通科目	学類基礎科目A	1	1,2	2	4	/
		学類基礎科目B	1	1,2	2	8	/
		学類基礎科目C	1	1	2	/	4
	学類専門科目	共生の科学Ⅲ	1	2	2	/	4
		学類専門科目	3	5	2	2	/
		共生の科学Ⅲ	3	5	2	2	/
	コース領域	コース基礎科目(必修)	2~	3~	2	16	/
		コース専門科目(選択必修)	2~	3~	2	/	24
		コース実践科目	2~	3~	1又は2	6	4
	演習	問題探究セミナーⅡを含む	2~	3~	1又は2	6	4
演習Ⅰ・演習Ⅱ		3,4	6,7	2	4	/	
卒業研究	卒業研究	卒業研究Ⅰ・卒業研究Ⅱ	4	7,8	2	4	/
自由選択全体	自由選択領域						10
小計							80
総計							124

Pick Up!

自分の能力を伸ばしたいという意欲のある学生のために、共生システム理工学類では放射線科学専修プログラムを準備しました。これを修得するのは決して容易ではありませんが、ぜひチャレンジしてみてください。

放射線科学専修プログラム(共生システム理工学類専用)



本プログラムは、原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位取得を課しています。プログラム修得に必要な単位を修得することにより、「放射線科学専修プログラム修了」の認定を受ける

ことができます。「第2種放射線取扱主任者」資格レベルの基礎を養うことを目的としており、3年次以降に同資格試験を受験することを推奨しています。そのため、プログラム参加者には正規の授業科目以外にも実力を養成するための研修会などへの参加を機会に応じて呼びかけます。また、より高度な「第1種放射線取扱主任者」資格に挑戦したい場合には別途に演習指導を行います。

数理・情報科学コース

数理学・数学、情報科学領域の知識を体系的に学び、高度情報化社会におけるデータ分析やシステム構築に貢献できる人材を育成します。

- 1- さまざまな分野で利用される基礎的な数学の知識と運用能力の修得。
- 2- 多様な現象を、モデル化・抽象化・記号化・構造化・手続き化し、データの分析・活用を行う能力の修得。
- 3- 計算機やコンピューターネットワークの仕組みを理解し、ソフトウェアシステムを設計・実装・運用する能力の修得。

主な専門科目	● 基礎解析Ⅰ～Ⅲ	● 計算機システム論
	● 線形写像と幾何Ⅰ,Ⅱ	● プログラミングⅠ～Ⅲ
	● 離散数学	● データベースシステム
	● 情報科学概論	● ソフトウェア設計開発論 など



現代の複雑な社会・自然現象を解明するためには、数学的モデル化、シミュレーション、分析が必要です。また、発展・変化の著しい高度情報化社会に対応するためには、情報システムの設計・開発・運用を行える実践的能力も求められています。本コースは、数学・数理学と情報科学を見渡したカリキュラムを備え、いずれかを専門とする学生も隣接領域への視野と実践・応用力を養うための学習・研究を行います。

経営システムコース

経営の諸問題を体系的に整理し、個々の課題をシステムとして捉え、工学的手法を活用して解決策を提示できる人材を育成します。

- 1- 企業経営の効率化に向けた経営工学(IE)と技術経営(MOT)に関連する幅広い基礎知識。
- 2- 経営システムの問題を発見する能力と、問題を論理的に解決する能力。
- 3- 企業が属する産業・社会の諸問題に対して工学的手法で解決策を導く実践力。

主な専門科目	● 経営工学	● 循環型産業論
	● 製品開発概論	● 流通管理概論
	● 生産管理概論	● オペレーションズ・リサーチ
	● 経営のデータ科学	● 産業・社会調査法 など



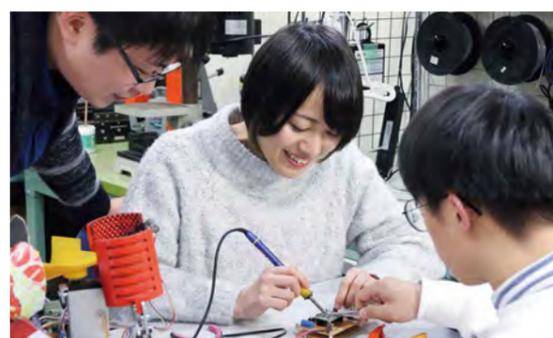
企業等の経営効率化のために、工学的手法(IE)とマネジメント手法(MOT)を学びます。例えば、企業経営では、製品開発、生産、流通、サービス等の活動を、計画、実施、評価、改善、マネジメントします。現在直面していたり、将来起こる可能性のあるさまざまな経営諸問題に対して、俯瞰的的確な解決策を提示できるように学習・研究します。

物理・システム工学コース

物理や機械・電気工学に関する基礎知識の修得を基に、さまざまな分野で役立つ“技術”や“システム”の創出を担うエンジニアを育てます。

- 1- 物理を基本とする工学的知識の理解。
- 2- 物事・人・現象などをシステムとみなしてモデル化する方法の理解と応用。
- 3- 人の生活に役立つものづくりのための設計と製作技術の修得。

主な専門科目	● 材料力学	● 物理学実験
	● 機構学	● 機械・電気工学実験
	● 電気回路	● 数理モデリング
	● 計測工学	● 量子力学 など



このコースでは物理や機械・電気・情報工学に関係する基本的な知識の修得をベースとして、社会に役立つ新たな“技術”、“システム”の創出を担う研究者・開発者を育てます。学修・研究分野として、物理、機械、電気といった基本分野のほか、モデリングや数値シミュレーションを駆使して、サイバネティクス、福祉・医工学、知能ロボットなどの人と工学とが融合した分野も対象としています。

物質科学コース

化学を基盤とする物質・材料関連分野について、さまざまな講義や実験を通して体系的に学び、先進的「ものづくり」に貢献する人を育てます。

- 1- 化学技術そして化学工業を支える基盤的学問である化学の基礎知識の体系的な修得。
- 2- 化学の基礎とともに物質科学や材料工学の基礎も学び、社会における諸課題を多角的に理解・分析する能力の修得。
- 3- 社会における諸課題を解決・解明するための基本から応用までの化学実験技術の修得。

主な専門科目	● 物理化学	● 有機化学
	● 無機化学	● 生化学
	● 分析化学	● 化学実験Ⅰ～Ⅲ
	● 機器分析	● 機器分析 など



現代社会の高度な技術には、さまざまな先端材料が使用され、それらは化学技術によって支えられています。物質科学コースでは、化学を基盤とした物質科学や分子設計、バイオ等に関する学びができます。多くの化学実験を通じた実践的な教育や先端的な研究に取り組みます。また、産官学による連携研究も多く、先進的な化学系人材を育成します。

エネルギーコース

持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、エネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・蓄エネの技術を幅広く学びます。

- 1- エネルギー関連技術の基礎知識。
- 2- 地球環境や地域産業を視野に入れて将来のエネルギーのあり方を考える力。
- 3- 解決策を提案し、自ら行動できる力。

主な専門科目	● 熱力学	● 環境衛生科学
	● 基礎物性物理	● 機械・電気工学実験
	● 化学工学	● エネルギー資源調査Ⅰ・Ⅱ
	● 資源・エネルギー工学	● 環境衛生科学 など



原子力発電所事故は福島に大きな被害を与えました。地球温暖化を招く化石エネルギー資源に、過度に依存することも許されません。持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、本コースではエネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・蓄エネの技術とを幅広く学び、エネルギーを切り口に科学技術・社会構造・経済構造の在り方を考えます。

生物環境コース

生物学の基礎学習と、多様な実験・野外実習科目による実践で、生物保全や自然史について理解を深め、企業、自治体、教育現場で総合的に活躍できる人材を育成します。

- 1- さまざまな分野で利用される生物学・環境学の基礎的な知識。
- 2- 多様な生物やそれを取りまく自然環境を調査する実践力を、多彩で豊富な実験や野外実習で修得。
- 3- 環境保全・生物保全など社会への貢献を意識した調査・分析の経験。

主な専門科目	● 生物・地球環境システム概論	● 環境保全論
	● 生態学基礎	● 保全生物学実験
	● 生物多様性概論	● 環境保全論 など
	● 環境微生物学	



生態学、形態学、発生学、分類学、遺伝学、微生物学など生物学の基礎を学び、多様な実験・野外実習科目で実践力をつけます。研究室では環境保全・生物保全などの応用にも取り組みます。環境や生物多様性の調査や保全、遺跡出土物の分析など、地域や社会への貢献を意識した教育・研究に力を入れるのもこのコースの特色です。

地球環境コース

地球科学とその応用分野を基礎から学び、複雑な自然現象を多面的に思考する素養を養います。

自然災害や各種の環境問題へ実践的かつ技術的に対応できる人材を育成します。

- 1- 地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環の理解。
- 2- 日本や世界で発生する自然災害の予測や防災対策への活用。
- 3- 人間活動と地球温暖化が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明。

- 主な専門科目
- 地質学概論
 - 水循環システム学概論
 - 気象学
 - 流域水文学
 - 地下水盆管理学
 - 地球環境科学実験 など



地球誕生以来の長い時間を経てつくられてきた地球環境は、ここ数百年間の人間活動により急激に変化しています。このコースでは、地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環などを基礎から学び、日本や世界で発生する自然災害の予測や防災、人間活動が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明につながる研究へと発展させます。

社会計画コース

環境を構成する自然、社会、文化を総合的に学び、持続可能な社会の構築に向けた計画を立案・実行できる人材を育成します。

- 1- 環境問題や地域問題等の現代社会が抱える問題に関する基礎知識の修得。
- 2- 現代社会が抱える問題を総合的に捉えるための視点の獲得。
- 3- 持続可能な社会の構築に向けた問題解決能力の涵養。

- 主な専門科目
- 社会計画概論
 - 社会情報分析
 - 環境計画論
 - 都市計画論
 - 環境文化論
 - サウンドスケープ
 - 社会計画演習Ⅰ・Ⅱ など



持続可能な社会の構築を目指して、文理の垣根を超えた総合的な視点から、計画的にアプローチする方法を学ぶコースです。環境を構成する自然、社会、文化の各側面から問題点を総合的に捉え、都市や農村の空間を効果的にデザイン・計画するとともに、行政・事業者・市民による協働の取り組みを進めていくための専門分野を探究します。

心理・生理コース

心理学や生理学を基礎から学び人間や動物の心や行動の理解とそのメカニズム解明を目指した専門的研究のエキスパートを育成します。

- 1- 人間の心の働きや脳・神経系の働きに関わる基礎知識の修得。
- 2- 心や脳・神経系の働きを知るための研究法の理解。
- 3- 現実社会や科学技術におけるヒューマンファクタに関する諸問題について考えることができ、それらの問題を解決していくために必要な基礎能力の獲得。

- 主な専門科目
- 心理学概論
 - 心理学研究法
 - 基礎心理学Ⅰ(学習・言語心理学)
 - 基礎心理学Ⅱ(神経・生理心理学)
 - 脳神経科学
 - 生体システム実験(心理学実験) など



科学技術がいかに発展したとしても、それを支え、利用しているのは人間です。さまざまな視点から人間を理解し、それらの知見を科学技術に応用できる能力の修得をこのコースでは目指します。心理学、生理学、関連する学問分野を学習し、人間の心理・生理的仕組みを解明する研究や、それらを医療、介護、福祉、教育など専門性の高い領域で応用するための研究へと発展させます。

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



震災復興に関して深く学んでいます

私は福島県の東日本大震災からの復興に対して興味があります。福島大学には復興について深く、自分ごととして考えながら学ぶことができる科目も多く、専門の先生方から多くのことを学べる環境があり、講義のたびに興味が深まっています。2年生からは物質科学コースで、環境中の放射性物質について学ぶことを楽しみにしています。福島大学には文理の垣根を超えて、さまざまな分野が学べるようになってきているので、多角的な視野を身につけることができていると思います。

共生システム理工学類 物質科学コース2年 | 奥山 泰冴さん
[福島県立須賀川桐陽高等学校出身]



他分野も研究ができることに満足

私は今、地域間による新型コロナウイルスの余剰ワクチンについて学んでいます。ワクチン接種開始から、さまざまな問題が生じましたが、その1つが余剰問題です。先進国では多くのワクチンが使用期限切れになる恐れがあるとされていますが、途上国では不足しており、ワクチン格差が拡大。格差解消のためにワクチンを融通できる方法を研究しているのです。入学当時から興味のある再生可能エネルギーについてだけでなく、他分野の研究もできることにとても満足しています。

共生システム理工学類 エネルギーコース4年 | 小峯 怜奈さん
[茨城県立水戸桜ノ牧高等学校出身]

Interview

卒業生に
聞いてみました!

Q. 10年後の目標は何ですか?

原子力災害等の緊急時における放射線モニタリング技術を開発

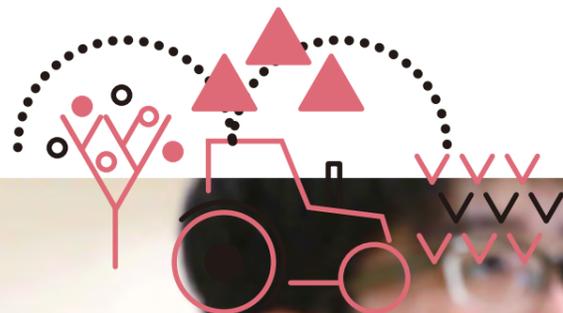
放射線モニタリング業務をはじめ、無人機を用いた放射線測定技術の開発などに従事しています。在学中に学んだ研究、数学や英語の基礎に加え、プレゼン発表の経験が今に生かされていると感じます。また将来に向けて取り組んでいるのが、原子力災害等の緊急時における放射線モニタリング技術の開発です。緊急時の放射線モニタリングは、避難区域の決定等に用いられる基礎データとなるため、広範囲を迅速に測定する必要があります。そこで、上空からの無人航空機を用いた遠隔放射線測定技術の開発を進めています。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
廃炉環境国際共同研究センター 勤務
大学院 共生システム理工学研究科
物質・エネルギー科学分野 2015年卒業

佐々木 美雪さん



食農学類



「農学専門教育」と「農学実践型教育」からなる
新たな農学教育により、食と農の課題に
主体的・創造的に取り組めるリーダーを育成します。

- 食品科学コース
- 農業経営学コース
- 農業生産学コース
- 生産環境学コース

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

本学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- 異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- 温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

取得できる資格

- 高等学校教諭一種免許状(農業、理科※)
- 食品衛生管理者(任用資格)
- 食品衛生監視員(任用資格)
- 食の6次産業化プロデューサー
- 測量士補
- 危険物取扱者(受験資格)
- フードスペシャリスト(受験資格)
- 自然再生士補
- 環境再生医初級
- ビオトップ管理士(受験科目一部免除)

※理科については他学類で開講されている授業の単位を取得する必要があります。

想定される主な進路

- 食品関連企業
- 農業生産法人
- 農林技術系公務員
- 高校教員(農業、理科)
- 農業・農村起業家
- バイオマス関連企業
- 医薬品メーカー
- 試験研究機関
- IT・エレクトロニクス産業
- 復興支援員
- 観光・宿泊企業
- 土木建設企業
- 流通企業 など



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

「農学専門教育」と「農学実践型教育」

「農学専門教育」では、有機的に結びついた「4つの専門コース」で教員と学生が密接に連携しながら共に学び、専門性と学際的な思考力を養います。「農学実践型教育」では福島県全域を教育のフィールドとして、地方自治体・農業関係組織と密接に連携しながら、地域が抱えている課題の解決を目指します。学生・教員全員が地域に通いながら、課題の発見から解決策の提案までを経験し、現場ニーズへの対応力や専門知識を応用する実践力を身につけます。

農学実践型プログラムの
サイトを開設!
ウェブサイトはこちら▶



学類長メッセージ

学際的な連携のパワーを醸成し、 食と農の課題克服につなげよう

本学類は「社会の具体的な課題に向き合う農学の原点」を大切にしており、それを象徴するのが1年次からスタートする農場などでの実習です。食の流れに沿ったコース編成も特徴で、川上の生産環境学、川中の農業生産学、川下の食品科学、そして流れをつなぐ農業経営学の4コースがあります。2年次の後期から所属する専門コースでは、国際的にも最先端の知識と手法を学びますが、その内容を専門外の人々に分かりやすく伝えることも大切です。それが食と農をめぐる学際的な連携のパワーを生み、課題の克服につながるからです。在学中に、広がり柔軟性のある視野を獲得しましょう。なお、3年後には大学院の開設も目指しています。

食農学類長 生源寺 眞一 教授

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester
学びの目標	基礎教育と農業関連産業の基礎を身につける		グローバルな視点から専門をとらえる教養と農学の専門基礎を身につける		食料・農業の実践に関与得と社会基盤の理解		する専門知識・技術のディプロマポリシーの達成	
課程	教養・農学基礎課程		農学専門教育課程 - 専門を基礎とした実践的		農学-			
専門教育	学類共通専門基礎科目		学類共通専門演習		農学-			
	数理リテラシー ■基礎数学 ■統計学 ■生物学 ■化学 ■物理学 農学リテラシー ■食品科学概論 ■生産環境科学概論 ■世界の食料と農業 ■農業生産学概論 ■農業経営概論 ほか ■農場基礎実習Ⅰ(1年次前期) ■食農情報処理演習(2年次前期) ■農場基礎実習Ⅱ(1年次後期) 1年次実習の成果を踏まえ、農産物加工、生産環境整備、農学内及び周辺に設けた農場で、米・果樹・野菜などの栽培実習や収穫・貯蔵などの実習を実施		■食農科学英語演習 ■食農実践演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 4コース横断でチームを編成し、地域課題解決型プロジェクトに取り組んで実践力を養成		卒業研究科目 ■卒業研究基礎演習 ■卒業論文 ■卒業研究演習(4年次通年) 各研究室で関連領域の研究を行い、より高度な専門知識と実践力を修得			
	1年次から4年次まで切れ目なく演習・実習科目に取り組みます		2年次後期よりコースの選択		食品科学コース 農業生産学コース 生産環境学コース 農業経営学コース		講義 + 実験 + 実習	
	英語 ■キャリア形成論 ほか							
接続領域								
教養領域	■農業と人間 ■情報リテラシー ほか							
問題探究領域								
自由選択	自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する							

アドバイザー教員
 クラス担任、学生担任が定期的に面談し、履修や学修、生活、進路等について助言します。
 1年次前期～2年次前期：クラス担任
 2年次後期～3年次前期：各コース教員
 3年次後期～4年次：卒業研究指導教員

教員紹介 ※2022年4月1日現在

食品科学コース

- 松田 幹 (食品機能学Ⅰ)
- 平 修 (食品機能学Ⅱ)
- 石川 大太郎 (食品分析学)
- 尾形 慎 (食品素材科学)
- 吉永 和明 (食品加工学Ⅰ)
- 熊谷 武久 (食品加工学Ⅱ)
- 升本 早枝子 (食品保蔵学)
- 渡部 潤 (発酵・醸造学Ⅰ)
- 藤井 力 (発酵・醸造学Ⅱ)
- 西村 順子 (食品安全学)

農業生産学コース

- 新田 洋司 (稲作学)
- 高橋 秀和 (作物育種学)
- 渡邊 芳倫 (環境保全型農業論)
- 深山 陽子 (蔬菜・花き園芸学)
- 高田 大輔 (果樹園芸学)
- 篠田 徹郎 (応用昆虫学)
- 岡野 夕香里 (植物病理学)
- 大瀬 健嗣 (土壌科学)
- 二瓶 直登 (植物栄養学)
- 石川 尚人 (飼料作物学)

農業経営学コース

- 荒井 聡 (農業経営学)
- 原田 英美 (農産物流通論)
- 河野 恵伸 (食品マーケティング論)
- 則藤 孝志 (フードシステム論)
- 高山 太輔 (農業経済学)
- 小山 良太 (協同組合学)
- 生源寺 眞一 (農業政策学)
- 林 薫平 (農林資源経済論)

生産環境学コース

- 金子 信博 (森林科学)
- 望月 翔太 (森林保護学)
- 藤野 正也 (森林利用学)
- 石井 秀樹 (里山管理論)
- 神宮 学寛 (農村計画学)
- 申 文浩 (水資源利用学)
- 原田 茂樹 (土壌物理学)
- 福島 慶太郎 (森林育成学)
- 牧 雅康 (農業リモートセンシング)
- 窪田 陽介 (スマート農業論)

詳しい経歴はこちら



食と農のリーダーに求められる 知識と技術、考え方を学ぶ4年間

食農学類は、よりよい社会の創造に向けて農学の専門性を活用し、新たなフードシステムの創出に貢献できる人材を養成します。日本やモンsoonアジア等の農林業と食生活を深く理解するために、設けた学びは「農学専門教育」と「農学実践型教育」の2つの柱からなる新たな農学教育。1年次から基盤科目、専門基礎科目を学び、2年次後期から4つのコースに所属して専門科目を学びます。特色のひとつは「実践的な農学の重視」であり、入学の直後か

ら農場実習がスタートします。また、学際的な連携力を育みながら、専門性を深めていきます。それによって身につけた分野に固有の概念や思考法を、他分野の人々にわかりやすく伝える力も養います。2年次後期から3年次にかけては、県内各地で農学実践型教育を実施し、学生・教員の混成チームで取り組みます。これは、学際性の向上を意図して行われています。



1年次入学後すぐに始まる「農場基礎実習」 基礎教育と農業関連産業の基礎を学ぶ

福島のブランド農業

福島のモモ(あかつき)、岩瀬キュウリ、南郷トマト、伊達のあんぼ柿、奥会津金山赤カボチャ。福島県には、長い年月をかけてブランドを築いてきた農産物や食品が数多く存在します。震災と原子力災害に立ち向かい、乗り越えようとするなかで、新たにブランディングを図る挑戦も各地で始まっています。福島県が誇る主要品目や各地の実践事例を学びながら、これからの「福島のブランド農業」の課題と方向と一緒に考えてみましょう。



震災農村復興論

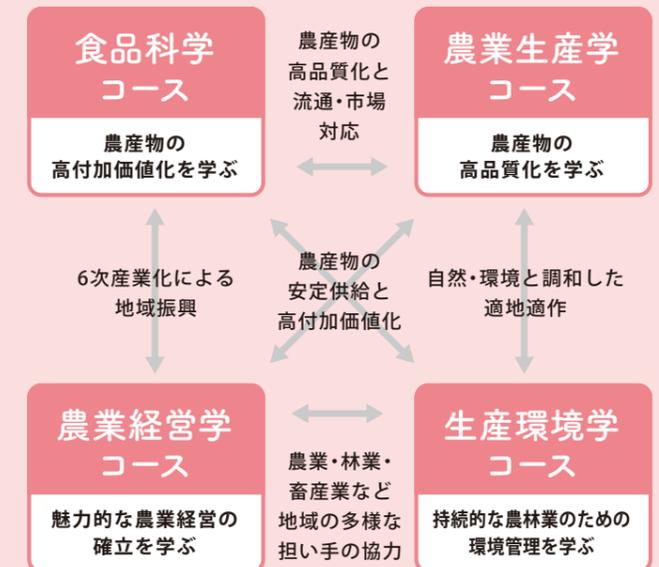
東日本大震災と原子力災害の発災から10年目を迎えるなかで、復興をめぐる行政、政策、制度が大きな転換点を迎えています。この授業では、放射能の基礎的な知識を修得した上で、福島の原子力災害を自然・社会・経済など多角的観点から学びます。また、残された課題を検討するとともに、被災地域並びに我が国や国際社会に対して、食農科学が果たすべき役割について考えます。



2年次後期からはじまる「農学専門教育」 4領域を学び食と農のプロになる

多角的に学べる

フードチェーンの上流にあたる「生産環境学」、中流の「農業生産学」、下流の「食品科学」、そして全体を見通す「農業経営学」という、4つの履修コースから専門的に学びます。専門知識を身につけるだけでなく、各コースが有機的に結びついた教育を実施。近年重要視されている「消費者視点で考える農産物生産」など、専門分野を超えた学際的な思考力を養います。



食品科学コース

食品の栄養素や機能を分析するための専門的な知識と技能を身につけるコースです。併せて安全性やおいしさなどに優れた食品の製造を理解し、新商品開発に挑戦できる人材や、発酵や醸造学の学びを通して地域の食の伝統的な強みを活かせる人材の育成を目指します。

主な科目

- 食品機能学Ⅰ・Ⅱ
- 食品分析学
- 食品素材科学
- 食品加工学Ⅰ・Ⅱ
- 食品保蔵学
- 発酵・醸造学Ⅰ・Ⅱ
- 食品安全学



特徴的な科目 食品加工学Ⅱ

食品加工により、安全性、保存性、栄養性、健康機能性、嗜好性、利便性などが向上し、付加価値が生まれます。本講義では食品の加工工程による変化を科学的に学びます。



特徴的な科目 食品分析学

食品分析学では、一般成分分析法、機器分析法について最新の食品研究の動向や福島県内外での事例などを交えて解説を行うことで、多成分不均一素材としての食品の適切な評価、最適な制御法を学び、将来各人がそれぞれの現場で活用できる基礎知識の修得を目指します。

農業生産学コース

作物栽培に関する最新技術や知見を駆使し、作物生産、食料生産、栽培資源利用などの農業生産に関わる諸問題を解決する専門知識と技術を身につけます。その上で新品種の開発と既存品種の見直し、栽培技術の革新、病害虫の農業被害管理といった技能の修得を目指します。

主な科目

- 稲作学
- 作物育種学
- 環境保全型農業論
- 野菜・花き園芸学
- 果樹園芸学
- 応用昆虫学
- 植物病理学
- 土壌科学
- 植物栄養学
- 飼料作物学



特徴的な科目 応用昆虫学

昆虫は、地上で最も繁栄した動物群で、農業を始め人間生活と深く関わっています。本講座では、昆虫の生理・生態の基礎、主要作物害虫の生態・被害、様々な防除法、環境保全型の害虫管理法等について学びます。



特徴的な科目 果樹園芸学

福島を代表する果樹に関して、「福島の飛躍」を目指し、樹体生理に基づいた栽培方法の解析、ICT/AI技術の導入、海外輸出に関連した流通技術、「復興」をキーワードに放射性Csの果樹園における動態に関して学びます。

農業経営学コース

フィールドワークを重視した農業経営学を軸に、生産から加工・流通を経て消費に至るフードシステムに関わる問題を解決する知識と技能を身につけます。また他コースの科目を履修することで得られる多角的な視点で、今後の地域農村社会の現場を担える人材の育成を目指します。

主な科目

- 農業経営学
- 農産物流通論
- 食品マーケティング論
- フードシステム論
- 農業経済学
- 協同組合学
- 農業政策学
- 農林資源経済論



特徴的な科目 農業経営学

市場ニーズに対応した農業経営のあり方・経営戦略を、地域の事例も踏まえ考えていきます。農産物の市場・販売戦略、農場の規模と集約度、作物選択の理論と財務諸表に習熟し、農業経営者に必要な能力を涵養します。



特徴的な科目 農林資源経済論

森林や里山の資源を循環利用することにより集落や地域経済の活性化をどう実現するか理論面・実践面から学びます。「森は農の恋人」の考え方や、震災・原発事故の影響からの「里山の経済」立直しの課題を考えます。

生産環境学コース

生産環境の保全と活用に対する専門知識や技術を身につけるために、森林・農地・水環境等の生産資源と生産活動を管理・運用するシステムを学びます。また本学類以外のコース科目の学びを通して、多角的視野から生産環境を探求し、保全と活用を実践できる人材の育成を目指します。

主な科目

- 森林科学
- 森林育成学
- 森林保護学
- 森林利用学
- 里山管理論
- 農村計画学
- 水資源利用学
- 土壌物理学
- 農業リモートセンシング
- スマート農業論



特徴的な科目 森林科学

森林は生態系の一部であるとともに、歴史的に人が大きく関わって現在の姿があります。木材資源、生物多様性の保全、地球環境問題、放射性物質による汚染、及び地域の農業との関係について実例に基づき学びます。



特徴的な科目 農業リモートセンシング

リモートセンシングは、宇宙や空から非破壊・非接触で地表面の状態を測ることができます。農業リモートセンシングでは、この技術の原理と実例を基に農業分野での活用方法、特にドローンを用いた方法について学びます。

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



心惹かれる学びがたくさんあります

食農学類1年生で「エウレカ」という科学サークルを立ち上げたり、C1プロジェクトという、留学や大学院進学に向けて英語力向上を目的としたレッスンを受けたり、充実した日々を送っています。そんな私が今、興味を抱いているのが「生産環境」という分野です。農業に限らず、地球の水資源や森林資源がどのように循環しているのか、また水汚染や森林破壊の対処法など、各分野での課題があることを知り、大学院進学も視野に入れつつ、詳しく学びたいと思っています。

食農学類2年
[宮城県仙台第一高等学校出身] | 近藤 遥海さん

技術と知識の同時修得を目指しています

福島県の畜産業、主に飼料分野に興味があり、食農学類を選びました。そして今、トップレベルの先生方の手厚いサポートのもと、「福島の農業」を知ることに全力を注いでいます。例えば、講義だけに留まらず、フィールドワークにも参加するとか、積極的に農家さんとの交流を図るなどといった活動を実践、生きた情報を収集しています。地域の方々への支援も、とても温かいです。このようにして得た情報をもとに、畜産や栽培といった自分の興味がある分野に当てはめながら、技術と知識の同時修得を目指しています。

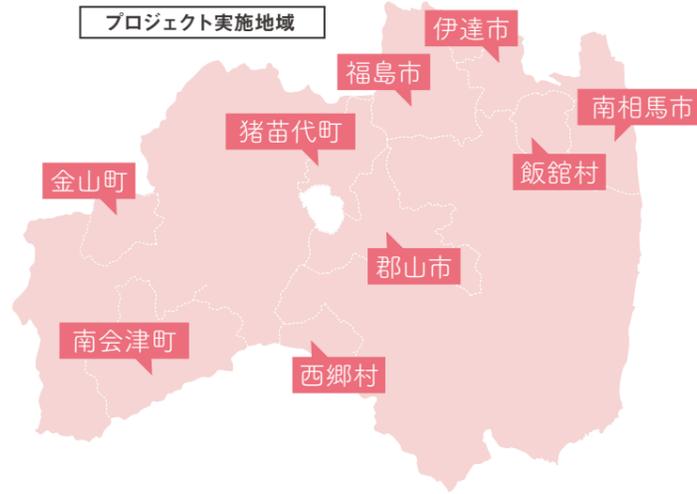
食農学類4年
[埼玉県筑波大学附属坂戸高等学校出身] | 廣瀬 辰馬さん



2年次後期～3年次通年 「農学実践型教育」

福島県全体がキャンパス

学生・教員・地域の人々がタッグを組んで、9つのプロジェクトに挑戦する科目「食農実践演習」。足繁く現地を訪れて、課題の解決に向けて学びを深めるカリキュラムです。この演習のもっとも肝心な部分は、食品科学・農業生産学・生産環境学・農業経営学という4つの履修コースから学生・教員が集まり、専門コースの混成部隊としてチームが編成されます。コースの異なるチームメイトと協力しながら、月に何度か地域に通い、課題を分析し、解決策を提案します。実践性・貢献性を重んじるとともに、学際的な交流を大切にプログラムで、これが農学実践型教育にほかなりません。また、本学類の専任教員が総員で取り組むのも、実践型教育にかける熱意の表れ。地域社会に貢献しながら、将来に広く役立つ学際性・実践力を育みます。



01 現場に向き合って、課題を分析&解決策を提案

「農学栄えて農業滅ぶ」という言葉にも表現されているように、日本の農は、学問と現場がかけ離れてしまいがちでした。本学類では、現場が抱えている課題を解決する「農学・食品科学の原点」に立ち返り、学生自身が地域に通い、課題の発見から解決策の提案までを経験。学んだ専門知識を応用する実践力を身につけます。

02 4コースの学生・教員と地域の人々が連携

4つの履修コースの学生・教員を組み合わせた混成チームが、地域の人々と連携して各プロジェクトに挑戦。それぞれの専門知識を発揮し合うことで、地域が直面する課題に複合的に対応します。大切なのは、相手に分かるように専門知識を伝えられるコミュニケーション能力。専門の枠を超えて協力し合える学際性を養います。

03 すべては課題解決のためあらゆる知・技・人を結集

福島県内の地域課題に取り組むなかで、時には「他県の技術を取り入れるべき」というケースもあるでしょう。課題解決のために必要であれば、先進的な国・地域を視察したり、他県から先端技術の開発者を招いたり、関連分野の学会に参加したりすることも。県境・国境を越えた活動が、グローバルな視野・能力を育みます。

04 日本の将来的な課題を先取りしているのが福島

農林業の担い手不足の解消から、食品の安全性の確保まで、今後の日本が直面する課題を先取りしているのが、震災後の福島県です。「農学実践型教育」では被災地の復興に貢献できるだけでなく、その成果を全国や世界に発信したり、卒業後に出身県などで経験を活かしたりすれば、広く社会に貢献することができます。

地域課題・キーワードの例

6次産業化	ワイン・日本酒、発酵食品（納豆・味噌など）、機能性食品、医福食農連携
先端農業の推進	スマート農業とICT（情報通信技術）活用、GAP認証、魅力的な農業の事業モデル構築
福島ブランドの復興	県特産品のブランディング（米・畜産・園芸）、風評払拭、地産地消マルシェ
地域再生	里山再生、循環型農業、菜の花で地域づくり、バイオマス活用と地方創生

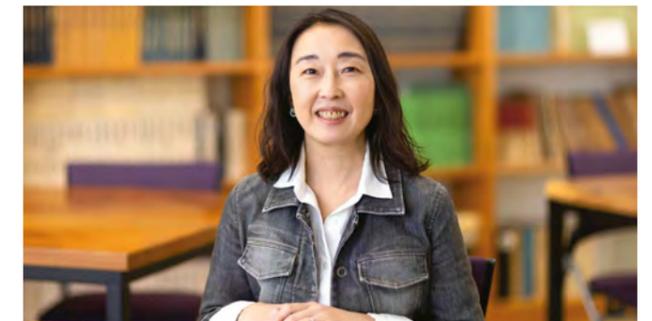
Interview 先生に聞いてみました！



食を通してあらゆる「学」を学べる場所

本学類は「科学」を知る場所です。「科」は「物事」、「学」は「より良くするための考え方」という意味です。ここでは、物理・化学・生物・社会学などあらゆる「学」で世の中を素敵にする術を知ることができます。自分が社会に還元したい仕事を見つけられるよう、多くのことを知ってください。大学は色々な意見を持つ人たちの集まりです。食べながらど何故か異論・反論も楽しく聞くことができます。「食べる」だけでも未知のことがたくさんあります。美味しく食べながら健康とは何かを一緒に考えていけたら嬉しいです。

食農学類 | 平修 教授
[研究テーマ/食と健康]



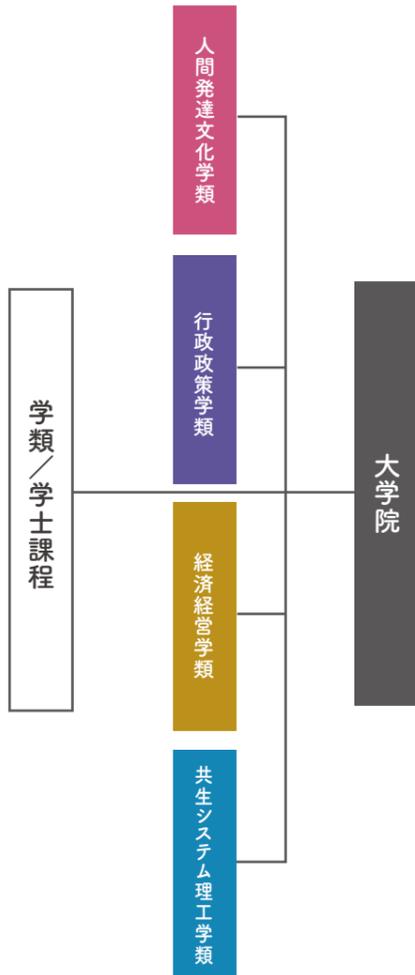
多様な価値観を理解し、主体的に行動できる人に

食農学類には食の流れに沿った4つの専門コースがありますが、このコースの垣根を低くしているのが特徴です。コース配属後も食農実践演習では、4コース混成チームで各地域の課題に取り組みます。これは、分業が進み加工品や飲食サービスの利用が増えた現代で、食と農の様々な問題の解決に向けて各分野が連携して取り組む実践性を重視しているからです。食料、地域、環境など、食農学類で取り扱う分野には持続可能な社会を築くために取り組むべきテーマがたくさんあります。実現したい未来のための一歩を、食農学類から始めましょう。

食農学類 | 原田 英美 准教授
[研究テーマ/農業経営の発展プロセス、食農連携]

大学院

大学院には人間発達文化研究科、地域政策科学研究科、経済学研究科、共生システム理工学研究科の4つの研究科をおき、高度な教育研究活動を展開。各研究科の専門性を活かした高度専門職業人・研究者を育成しています。また、社会人にも門戸を開き、社会人特別入試、昼夜開講制、長期履修制度、土日集中開講などを導入することで、スキルアップ、修士号、博士号取得などに意欲的な社会人のニーズにも対応します。東日本大震災以降、「福島」の使命として、災害復興、食と農の問題、再生可能エネルギーなどに対応したプログラムを設けることで、地域社会にとどまることなく、グローバルな視点で、世界に起こり得る諸課題に先進的に取り組みます。



人間発達文化研究科

[専門職学位課程・修士課程]

人間発達文化研究科は、地域の抱える課題を克服し、次世代を切り開いていくために、学類の教育理念をさらに発展させ、今日必要とされる高度な知識・技術を持って人材育成を図る「人材育成のエキスパート」を養成します。



[専門職学位課程] 教職実践専攻 (教職大学院)

- ミドル・リーダー養成コース
- 教育実践高度化コース
- 特別支援教育高度化コース

学校現場にあるさまざまな教育的課題に取り組みながら、学校改革、授業改革に結びつける実践研究を行い、福島の未来を創造する独自の教育を創出できる高度な専門性を持つ(ミドル・リーダー)の養成を目指します。

[修士課程] 地域文化創造専攻

- 人間発達支援領域
- 数理科学領域
- 日英語文化領域
- スポーツ健康科学領域
- 地域生活文化領域
- 芸術文化領域

専門的学問分野における研究・実践力を形成するとともに、地域支援に必要なコーディネート力及び人材育成力を合わせ持つ(地域支援エキスパート)の養成を目指します。

学校臨床心理専攻

- 臨床心理領域
- 学校福祉臨床領域

教育、医療、福祉、司法・犯罪などさまざまな分野で心理支援を行う臨床心理士・公認心理師の養成を目指します。

地域政策科学研究科

[修士課程]

専門領域は5つの履修分野によって構成されています。分野横断的で学際的な研究環境を活かし、地域社会の諸問題に政策的に対応し、地域社会の発展に寄与できる高度な知識を持った人材を養成します。



地方行政

政治学・行政学の基礎理論及び地方自治体の行政を具体的な制度や実態に即しながら法的・政治的側面から研究します。

行政基礎法

地域の行政の基礎となっている法制度を理論的かつ具体的に研究します。

地域文化

地域生活の基礎となる地域社会の諸側面を、地域文化として総括する方法について研究するとともに、社会情報について理論的かつ実証的に研究します。

社会経済法

地域社会における社会的・経済的諸問題を法的側面から具体的に研究します。

社会計画

社会の基本構造の把握やそれに基づく地域社会の構造的課題の把握を踏まえ、地域社会の再建、活性化に不可欠な社会計画について、特にそれを政策化する視点から研究します。

経済学研究科

[修士課程]

経済学研究科は経済学専攻と経営学専攻から構成されています。きめ細やかな指導と教育により、地域に密着しつつも世界的視野に立つ高度な職業人の養成を目的としています。



経済学専攻

本専攻では、経済学のさまざまな理論や手法をしっかりと身につけながら、自分のテーマに沿った研究を行います。制度や政策を深く理解したり、物事を

歴史的に考察したり、国際社会や地域、市場や産業の諸問題を掘り下げたりして理論的・実証的な分析に取り組み、論理的思考力を磨きます。

経営学専攻

本専攻は、経営学(狭義の経営学)と会計学に二分されます。経営学と会計学について、さまざまな受講生のニーズにこたえるため、研究者による理論的

な講義だけでなく、実務家による実践的な講義も提供しています。

共生システム理工学研究科

[博士前期課程・後期課程]

「共生」の観点からさらに専門性を深化させ、新しいシステム科学を構築、発展、継承できる人材と、これらの課題解決に実践的に貢献できる高度専門職業人・研究者を養成します。



共生システム理工学専攻

共生システム理工学専攻では、人-産業-環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し、課題解決に向けて積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人材を養成します。

環境放射能学専攻

環境放射能学専攻では、人工及び天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組みます。積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人材を養成します。

博士前期課程

■ 数理・情報システム分野

数学、情報科学、経営システム工学、及びそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究を行っています。

■ 物理・メカトロニクス分野

物理学、機械工学、電気電子工学、制御工学、及びそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究を行っています。

■ 物質・エネルギー科学分野

化学、材料工学、化学工学、エネルギー工学、及びそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究を行っています。

■ 生命・環境分野

生物学、心理学、地学、気象学、水文学、及びそれらを基礎とする生命・環境分野の研究を行っています。

博士前期課程

■ 生態学分野

生態学、生物学、またはそれらを基礎とする放射生態学分野の研究を行っています。

■ 計測分野

化学、物理学、機械工学、電気工学、またはそれらを基礎とする放射能計測分野の研究を行っています。

■ モデリング分野

地球科学、現象数理学、またはそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究を行っています。

博士後期課程

■ 共生数理システム領域

さまざまな産業分野において地域社会のニーズに応え、人と共生可能な工学系システムの創出を支える能力を養成することに取り組みます。

■ 共生環境システム領域

持続循環型産業システムの創生、自然環境システムの解析・予測・保全、人間環境システムの管理・計画、人間の心理・生理を解明する能力の養成に取り組みます。

博士後期課程

■ 環境放射能領域

放射性核種の環境中の動態を解明し、予測評価、環境修復、放射線防護、廃炉、中間貯蔵、浄化など複数の課題解決に活用できる実践的かつ総合的な研究に取り組みます。

福島大学大学院改組

2023(令和5)年度設置申請中

地域・社会の課題を解決し“新しい社会づくり”を提案できる大学院へ
 ～ 地域および世界の「21世紀的課題」に取り組むイノベーション人材の育成 ～

福島大学大学院は、震災・原発事故からの復興・再生や新しい社会づくりを担う、高度専門職業人(イノベーション人材)を養成するため、2023(令和5)年度の大学院再編を計画しています。

- 新しい大学院の特徴
- 大学院に、プロジェクト型カリキュラムを導入し、実践的な力を身につける(地域未来デザインセンターとの連携)
 - 専門性と学際性・俯瞰性のバランスをとり、「総合知」の修得をめざす(研究科の新設、再編、融合)
 - 「イノベーション系科目」により、変革を起こす力を身につける(イノベーション・リテラシー、イノベーション・コアなどの共通科目)

福島大学大学院の基本理念

福島大学は、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故という未曾有の災害を経験した福島に立地する唯一の国立大学として、避難者・被災者に対する多方面にわたる支援、放射能の動態把握、復興計画の策定、福島農業の再生などに取り組むとともに、その経験や教訓を教育研究に活かしてきました。

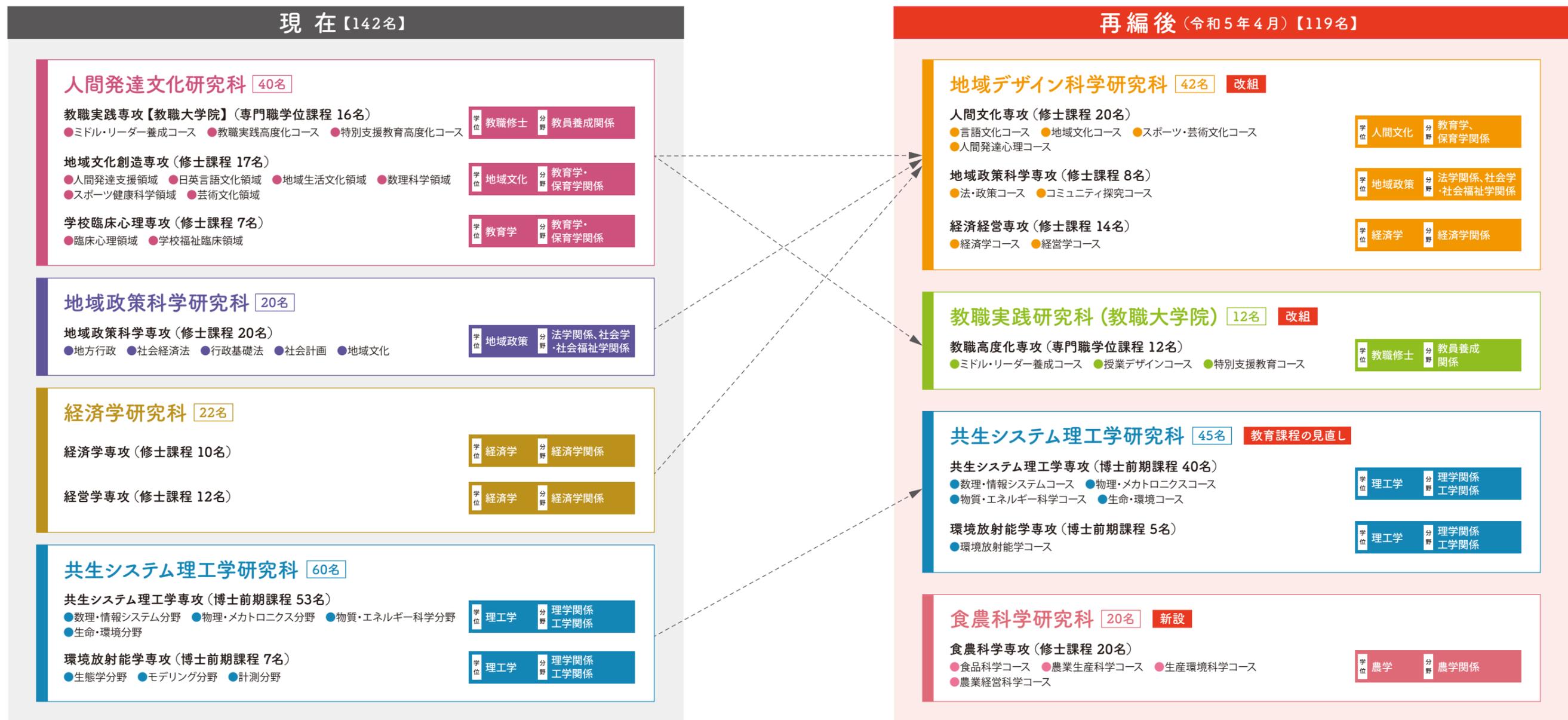
震災・原発事故から10年以上が経過しましたが、福島県はいまだに復興・再生の途上にあり、さらには、人口急減・超高齢化の中での地方創生、新型コロナウイルス感染症、気候変動などへの対応など、21世紀的課題に直面しています。福島大学大学院は、「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」として、コミュニティの再構築、地域文化の継承、再生可能エネルギーへの転換、農林水産業の再生と新産業の創出、新しい時代を主導する人材の育成などによって、福島を復興・再生させ、震災・原発事故をもたらした旧来の社会の構造的転換を図ることを目指しています。また、都市型の文化や経済発展を前提とした一元的な価値観から脱し、経済の低成

長時代を人間的かつ創造的に生きていくために、少子高齢化時代の地方の「新しい社会づくり」、すなわち「地域分散型の循環共生社会」を理論化・モデル化し、それを日本中へ、世界中へと発信します。そして、人文・社会・自然の知識・技能を融合しながら専門分野における研究を深め、自然との共生のなかで、一人ひとりが豊かに、希望に満ちて生きていけるライフスタイルを創造し、個人のWell-being、社会のWell-beingの実現に貢献していきます。

福島大学大学院は、2023年4月、地域デザイン科学研究科、教職実践研究科、共生システム理工学研究科及び食農科学研究科の4研究科に再編する予定です。各研究科は、福島大学大学院としての共通理念のもと、それぞれの専門分野に立脚して、これまでの常識や慣例にとらわれることなく、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力をもって、地域及び世界の21世紀的課題に果敢に挑み社会に変革をもたらす、「イノベーション人材(高度専門職業人)」の養成に取り組んでいきます。

福島大学大学院の再編について

修士課程・博士前期課程・専門職学位課程



※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス

5学類・4研究科が1つのキャンパスで
学んでいます！



11 食農学類
附属農場
(4,564 m²)



1 講義棟
大きさをS・M・Lに分かれています。S棟には学生・留学生課、教務課、キャリア支援課もあります。



12 食農学類
附属農場(畑・水田)
(14,623 m²)



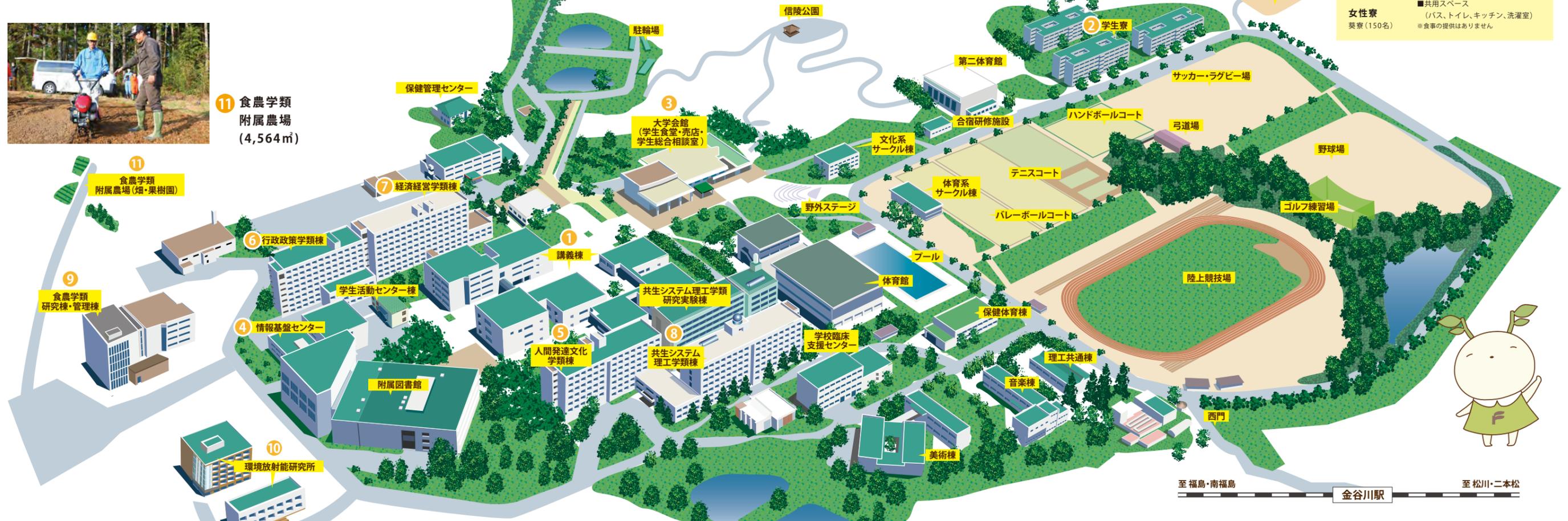
2 学生寮

キャンパス内にあり、通学に便利！家賃も格安です。部屋は個室ですが、異なる学類、先輩・後輩など多様な人との交流が魅力です。

男性寮
如月寮(200名)
信夫寮(150名)

■寄宿料 7,800円/月
居室は個室(約5.5畳、エアコン完備)
■共用スペース
(バス、トイレ、キッチン、洗濯室)
※食事の提供はありません

女性寮
葵寮(150名)



3 学生総合
相談室
大学生活で出会う様々な悩みや相談に対して、専門のコウンセラー(臨床心理士)及び本学職員が対応しています。どんなことでもお気軽にご相談ください。



4 情報基盤
センター
学内のネットワークに関することや、パソコン等の情報システムに関する技術的なサポートを行っています。



5 人間発達文化
学類棟



6 行政政策
学類棟



7 経済経営
学類棟



8 共生システム
理工学類棟



9 食農学類
研究棟・
管理棟



10 環境放射能
研究所

福島大学 附属図書館

自分流の使い方ができる図書館

2015年に新館が完成した附属図書館。広くて明るい、大きな図書館に生まれ変わりました。従来からの静かに本を読み、勉強する場所をはじめ、さまざまなスタイルで学習ができる「ラーニングコモンズ」が設置されています。会話をしながら、グループ学習などでもできるようになりました。イスや机を動かすことができるスペースもあり、自分好みの学習スタイルを見つけたり、目的や気分で場所を使い分けることもできる図書館です。約100万冊の図書館資料や、電子資源などを活用しながら、大学での学びを深めることができます。



3つのラーニングコモンズ

1~3階の各フロアにある会話が可能な学習スペース。3つそれぞれに特徴があり、一人でもグループでも、自分にあったスタイルで学習できます。



個人・グループで使える学習室

4名まで利用できる個室「スタディールーム」と5名以上で予約できるプロジェクタ・大型スクリーンがある「セミナールーム」が利用可能。



教育研究資料室

小中高の教科書、教員採用試験の過去問題などが揃っています。教員を目指すなら利用は必須。



震災関連資料コーナー

東日本大震災に関連した災害・復興・原発・ボランティアなどの資料があり、研究や学習での利用の他、個人の防災等にも役立てることができます。

学生食堂

セルフスタイルで好きなものをチョイス。
授業のある期間は9:30~19:00まで営業しているので、朝・昼・夜とも食べられます。

食堂 Dining ReaF(リーフ) おすすめ! 食堂メニュー



Lunch

数量限定の定食です。
すぐに食べたい、
お腹いっぱい食べたい人におすすめです!



カフェテリアメニュー

好きなメインディッシュ、惣菜、
サラダを組み合わせるコーナーです。
丼や麺もありますよ。

1階 食堂 Dining ReaF(リーフ)

授業がある期間 平日 9:30~19:00 / 土曜 11:00~14:00 日祝閉店
※大学の長期休暇期間 平日・土曜 11:00~14:00

Quick Lunch グリーン 人気メニュー



1年を通してほかほかのお弁当が食べられ、夏には冷たい麺も登場!
テイクアウトもイートインもどちらもOK!

〈Menu Ranking〉



1位 牛肉のうま塩 2位 チキン塩ダレ 3位 台湾まぜうどん



サラダ・デザートも
ご一緒にどうぞ!

2階 Quick Lunch グリーン

授業がある期間 平日 11:00~14:00 土日祝日閉店

福島大学生協

福島大学生協は、新生入生の入学準備や住まいの斡旋から、就職活動や卒業まで大学生活のサポートを行っています。

福島大学生協購買店

学生会館1階にある購買店では飲料、お菓子から日用品、文具など大学生活に必要なものを取り揃えています。店内にあるサービスカウンターは、自動車学校の斡旋や資格取得、オリジナル講座の相談もできる複合窓口です。

【営業時間】平日:9:30-19:00 土曜:11:00-14:00 ※日曜・祝日閉店
(変更になる場合があります)



年間スケジュール



福大生 めばえる

福島の学生は実に多彩です。学業はもちろん、地域に出て躍動する人、全国、そして海外で輝く人。大学は、たくさんの人やモノ、コトに出会い、夢がめばえるチャンスにあふれた場でもあります。そんな福島大学で、夢中になれるモノやコトを見つけた福大生を紹介します。



食農学類3年
菅原 帆乃香さん (秋田県立金足農業高等学校出身)

農業と食の面白さを、「食農教育」として伝えられる人材を目指します。

生産から消費までの一連の流れを学ぶ「食農教育」に関心があり、実践的に農作業や販売活動が経験できる農林サークル「福桃」に入り、援農活動などを行っています。県内の農家さんと交流をしながら自分たちも作物を育て、イベントへの出店や農産物の販売などを経験。どの場面においても、サークルのメンバーや地域の方々など、たくさんの人たちと関わることができ、コミュニケーションの大切さを実感しています。また、大学の講義の中で知識として身につけるだけでなく、そこに経験を重ねることで、新たな学びがあることにも気がつきました。いつかは「食農教育」として、農業の面白さ、食の面白さを伝える取り組みや場所づくりをしたいと思っています。



人間発達文化学類3年
鎌田 花華さん (岩手県立盛岡第一高等学校出身)

気概をもって活躍する福大生に元気をもらいながら、ラジオ番組のコーナーを制作。

放送部員として、福大生の活躍を公共の電波に乗せて届けたいと思い、初回放送に参加したのを機に、月1回ほどNHK福島放送局内のラジオ『こでらんに5NEXT』の制作に携わっています。企画から取材、録音、出演までをメンバーでこなし、15分ほどのコーナーを制作。自主学修プログラムの取り組みや事業をはじめた福大生を取り上げ、紹介しています。学生を取材するたびに、福大生の熱意やコロナ禍に負けないという気概を感じて、私たちが元気をもらっています。私も皆さんに負けない熱量で、視聴者にお伝えしようと毎回奮闘しています。将来はこうした経験を活かして、メディア業界で地域の魅力を発信していくのが夢です。



共生システム理工学類4年
川端 歩さん (福島県立勿来工業高等学校出身)

福大祭の委員長を務め、自分たちで考えた大学祭を成功させました。

福島大学で、最も大きい200人規模の団体である福大祭実行委員会の委員長を務めました。秋に「第57回福大祭」を開催し、自分たちで考えた内容で成功を収めることができました。委員会のメンバーをはじめ、企業や目上の方々の打ち合わせを多く行ったことで、私自身、人と話す力や人間力が向上したと感じています。この成長が、今後の就職活動においても役立つのではないかと考えています。高校生の皆さんに伝えたいのは、高校と比較して大学は自由であり、時間にも余裕があります。学業以外でも躍動したいという強い思いがあれば、何でもできると思います。大学進学希望の方は、今を頑張って目標を達成し、最高のキャンパスライフを送ってください。



人間発達文化学類4年
堀本 菜那さん (いわき秀英高等学校出身)

相手の話をよく聞くことで、ニーズを汲み取る力が身につきました。

「大学生協新入生アドバイザー」として、新入生にアパートの紹介やパソコン、講座の提案など、安心して大学生活をはじめられるようにサポートする活動を行っています。その中でも、コアという中心メンバーとして研修会づくりや全体説明も担当しています。アドバイザーとして心がけているのは、新入生や保護者の方々に向けていろいろな提案をする場面では、わかりやすく、印象深く伝えようということです。また相手の話をよく聞き、何を求めているのかを考えることでニーズを汲み取る力が身についたと思います。私は教師を目指しているので、この力をわかりやすい授業を組み立てること、子どもの気持ちを理解することなどに繋げたいと考えています。



人間発達文化学類4年
佐々木 夢奈さん (福島県立福島南高等学校出身)

チームで取り組むことで、実力以上のものが発揮できる、この経験を大切にしていきたいです。

陸上競技部で跳躍種目の三段跳びを中心に活動し、全日本インカレをはじめとした全国大会で入賞することを目標に練習しています。歴史あるチームの女子主将でもあることから、競技者としても人としても強いチームにできるよう、責任をもって取り組んでいます。そんな日々の中で学んだのは、所属意識をもつことの大切さです。陸上競技は個人競技といわれますが、練習はチームで行い、大会も全員でサポートし合います。一人では大変なこともチームで戦うことで力が発揮できますし、私自身、チームのためになることをしたいと考えるようになりました。この経験を活かして、組織のために何ができるかを考えられる社会人になりたいと思っています。



経済経営学類3年
高橋 美圭さん (茨城県立太田第一高等学校出身)

大切なのは現地に赴くこと。ボランティア活動での経験が、社会貢献の大きなヒントに。

福島大学の学生団体災害ボランティアセンターに所属し、災害が発生した際のボランティアはもちろん、主に東日本大震災関連の活動をしています。復興公営住宅などでお茶会を開いたり、学習支援を行ったり、長期休みには子どもたちとの交流を目的としたキャンプなどを行っています。これらの活動を通して学んだのは、現地に赴かなければ、わからないことがたくさんあるということです。例えば、福島県に来なければ、被災地で協力しながら懸命に努力するたくさんの人たちの存在を知ることはなかったと思うのです。このような経験が、今後、私自身が社会貢献をしていく中で、自分に何ができるかを考える時の大きなヒントになると思います。



人間発達文化学類4年
山石 真央さん (秋田県立横手高等学校出身)

「よさこい」の仲間たちと現状を打破した経験が、自ら道を切り開く原動力に。

よさこいサークル「源種」の一員として、人生最大ともいえる青春を楽しんでいます。「源種」は、他大学の学生も一緒に、よさこいを通して福島魅力を広める活動を行っています。2021年度は「霧限」というタイトルの演舞を創作しましたが、新型コロナウイルスの影響で、披露の場であるお祭りなどが全て中止に。しかし、自分たちの手で何とか発表の場を作り出そうと全力で取り組みました。仲間たちと考え、行動を起こし、たくさんの方々の力を借りて演舞を披露することができたのです。最高の仲間と感動的な経験を得ることができました。「志のあるところに道は拓ける」を実感できたことは、社会に出てからも、自ら道を切り開く際の原動力になると思います。



国語科の教員になることを目指して、日々、学びを深めながら、学生ジャーナリストとしても活動しています。



人間発達文化学類3年 [福島県立安積黎明高等学校出身] 西村 奈恵さん

実 家からの通学は、片道約1時間。遠距離ではありませんが、家族と一緒に過ごす時間をとても大切にしています。将来は国語科の教員になりたいと考えており、そのために指導論や文学演習などの科目を履修しています。指導論では、実際に指導案を作成したり、模擬授業を行ったりしています。文学演習では、『銀河鉄道の夜』や『万葉集』などの作品を読み、自分なりの問いを立てて探究しています。私は人文科学コースの国語科に所属しているのですが、授業以外にも研究班の活動があります。研究班では、自分の探究したい分野について、先生方や先輩方とともにとことん学びを深めることができます。また「学生ジャーナリスト」という学生団体に所属しており、福島大学の魅力を広報するために、さまざまな活動を行っています。福島大学公式マスコットキャラクターである「めばえちゃん」と一緒に活動できるので、毎日がとても楽しく充実しています。

月々の生活費

■家賃 0円 ■食費 5,000円

1Day Schedule -私の1日-

[実家暮らし]

- 6:15 起床 朝が弱いのでなかなか起きられません。
- 8:40 講義 眠気と戦いながら全集中!
- 10:20 講義 グループワークで学びを深めます。
- 12:00 昼食 ミールプランで学食へ。
- 12:15 GJ(学生ジャーナリスト)定例会議に参加。
- 13:00 講義 模擬授業を行います。
- 14:40 講義 演習で自分の論を発表します。
- 16:20 講義 授業づくりについて学びます。
- 19:45 帰宅 帰宅後、すぐに入浴。
- 20:00 夕食
- 20:30 研究班Zoom会議 各自で調べたことを共有します。
- 21:00 勉強 予習・復習、課題など。
- 23:00 フリータイム YouTubeや音楽鑑賞など。
- 25:00 就寝

My Favorite! -お気に入り-

「私を支える百人一首とゲーム」



高校時代、部活動で競技かるたをやっていたので、「百人一首」には思い出がたくさんつまっています。ゲームは「ポケモン」と「あつまれ どうぶつの森」が好きです。

福大の魅力

自然豊かなキャンパスで、実践的に学びながら新たな分野にも挑戦することができる点。私は自分の専攻以外にも、地球科学や倫理学などの科目を履修し、視野が広がりました。また震災復興など、実際に現地に足を運んで地域の方々や子どもたちと関わり、その中でしか得られない学びもあります。学食のお料理がおいしいのも魅力です!

2st Grade Timetable

[2年生後期の時間割]

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1限	英語B1	中国語応用II(C)	カリキュラム・教育方法論	ことばの仕組み	-
2限	国語科教育法I	家庭科学習指導論(B)	英語BII	子どもの造形活動(B)	言語・文学II
3限	理科学習指導論(B)	日本語学演習IV	-	音楽科学習指導論(B)	日本語の変異
4限	比較文学演習II	子どもと道徳	-	比較文学演習I	-
5限	社会科学習指導論(A)	-	-	-	-

大学院進学を視野に、植物栄養学研究室での学びを仕事に活かそうと頑張っています。



食農学類4年 [国立大学法人筑波大学附属坂戸高等学校出身] 塩村 直高さん

ひ とり暮らしをするにあたり、学生寮と比較検討しました。その結果、ひとり暮らしの方が生活における自己管理能力を養うことができるのではないかと考え、ひとり暮らしを選びました。日常生活の面で、食事や洗濯などの予定を好きなように組み立てられるので、「ひとりだから大変」と感じることもなく、過ごすことができます。私が在籍する食農学類は、2年後期にコース配属が決定します。私は農業生産学コースで、作物や園芸、土壌肥料、育種、病害虫などを専門的に学修してきました。現在は、植物栄養学研究室に所属して、土壌条件とダイズ収量や生育の関係を安定同位体の観点から研究しています。今後は大学院に進学して修士の学位を取得したのち、民間企業あるいは公務員として、専門性を活かせるような職業選択をしたいと考えています。

月々の生活費

■家賃 49,000円 ■食費 20,000円

1Day Schedule -私の1日-

[ひとり暮らし]

- 5:45 起床 早い時間に起床し、家事などを終わらせます。
- 6:00 散歩 体を目覚めさせるために歩きます。
- 7:30 勉強 主に研究に関する文献を読みます。
- 9:00 実験 試料の前準備や調整などをします。
- 10:20 講義 土壌や作物などを専門的に学修しています。
- 12:00 昼食 3年になってからは自分でつくることが多いです。
- 13:00 研究室 文献の内容理解と説明などをしています。
- 15:00 勉強 実験ノートの記入や文献の整理をしています。
- 17:00 アルバイト ジムで受付事務をしています。
- 21:00 帰宅 夕食を食べ、家事を終わらせます。
- 22:00 入浴
- 23:30 就寝

My Favorite! -お気に入り-

「登山が好きです」



PCは学修の必須アイテム。また「登山」が好きで、大学から1時間で行ける吾妻小富士は、快晴の日に登ると市内を一望できるのでおすすめです。

福大の魅力

福島大学では、1年次から現場での実習がカリキュラムに組み込まれているので、研究室配属に至るまで専門科目と現場での学び、両方を体験できるのが魅力です。3年次の食農実践演習では、福島県内の自治体での演習に参加。農業農村での課題について学ぶことができました。

2st Grade Timetable

[2年生後期の時間割]

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1限	植物病理学	-	-	植物栄養学	-
2限	応用昆虫学	環境保全型農業論	-	飼料資源学	食農科学英語演習
3限	農業生産学実験実習I	農業簿記論	-	-	食農実践演習II
4限	農業生産学実験実習I	-	-	-	食農実践演習II
5限	-	-	-	-	-

#春から福島大学

STUDENT CLUBS AND SOCIETIES

福島大学には、文化系公認サークル・体育系公認サークル、非公認サークル、
その他自治会などがあります。

4月中旬には、新入生歓迎運動実行委員会主催のサークルオリエンテーション(通称:サオリ)が
開催され各サークルが学内で説明会を行います。

学類を超えて友人をつくり、先輩からいろいろ教えてもらえる絶好のチャンスです。

自分にあったサークルを探してみてください。



福島大学女子ラクロス部

私たち福島大学女子ラクロス部は月・水・木・土の週4回をサッカー・ラグビー場及びハンドボールコートで練習をしています。練習は、他の部活とは異なる朝の時間帯に行っており、時間を有効に使えるという利点があります。また、福島大学女子ラクロス部は全員が大学からラクロスを始めました。運動部や文化部、中学・高校時代所属していた部活はさまざまですが、それぞれの経験やよさを生かしてみんなが活躍しています。大学で何かを始めたい、素敵な仲間と充実した大学生活を送りたい、そんな方にぴったりです。

Instagram



福島大学災害ボランティアセンター

私たちは2011年の東日本大震災をきっかけに設立し、孤立死・自死を防ぐ目的で活動しています。福島県内東北地域を中心に約10ヶ所の復興公営住宅で足湯やお茶会といった傾聴活動や、県内外の子どもたちの交流や自然体験のキャンプ活動、また津波被災地での家屋の片付け、子ども学習支援、福島の情報発信等、幅広く活動を行っています。一昨年度からは新型コロナウイルスの影響で活動数は減りましたが、活動の形を変え、距離をとりながらのサロン活動、全国の子どもたちと交流するプログラムなど、創意工夫を凝らしながら活動を行ってきました。このように、どのような状況であれ「寄り添う支援」を忘れずに、これまでもこれからも被災者の笑顔、活動の先を目指して活動していきます。

Twitter



国際交流サークル COLORs

私たちの活動は主に国際交流、国際支援、海外研修の3つに分かれています。また、2021年度からは福島市内で開催されている各種国際交流イベントの情報をサークル内で共有し、参加を促すプラットフォーム型の活動を行なっています。コロナウイルスの影響もあり、海外研修は思うようにできませんが、募金や古着の寄付、オンライン交流会、留学生歓迎会に参加するなど積極的な国際交流、支援を続けています。



福島大学農林サークル ～福桃（フータオ）～

令和元年9月に設立した食農学類公認の農業系サークルで、主な活動として大学に面する田んぼや畑での作物栽培や竹林の整備などの活動をしています。その他にも福島市やその他市町村の農家との活動も行っています。地元の農家の手伝いをしながら、農業を楽しみながら学ぶことができ、また、それらを自分たちの畑に活かすことでより一層、実践的な力が身につきます。



福島大学学生ボランティアグループ Key's

大学内外でボランティア情報を収集し、福大生に向けて発信するボランティアセンター業務を中心に、自分たちもさまざまなボランティアの参加・企画を行っている団体です。ボランティアのジャンルは、環境、子ども、各種イベントの運営補助などさまざまです。学校をとり出そうプロジェクトや、ユナイテッドプロジェクトなどのプロジェクトごとでも活動しています。個別のボランティア活動に参加するのもよし、自分たちで企画するのもよし。関わり方はさまざまです。ボランティアに興味がある人、プロジェクトが気になった人、どんな人でも大歓迎です！



福島大学放送部

放送部は、「ラジオ番組制作」を中心に幅広く活動しています。市内のラジオ局FM-POCOの番組「CAMPUS CLAP!」の制作をはじめ、2020年からは、学内ラジオ「めばえのたね」の配信、NHK福島放送局のラジオ番組へのレギュラー出演など、まだまだ事業拡大中。NHKのラジオ番組への出演といった、普通では関われないような体験も出来るのが魅力です！また、イベントMC、アナウンスなどの依頼も受けています。ラジオに興味がある方、放送部経験者、メディア業界への就職を考えている方など、どんな方でも大歓迎ですので、是非ご連絡ください！



吹奏楽団



アカペラサークル Rainbow Pumpkin



馬術部

統一サークル連合公認サークル

福島大学では、学生の自主的な学問探究及び文化・スポーツ活動の振興と発展を期することを目的に、学生の自治組織として統一サークル連合を組織しています。その公認サークルには、学生自治会などから財政上の助成などが行われています。統一サークル連合に公認されているサークルは以下の通りです。

文化系公認サークル

- アカペラサークル Rainbow Pumpkin
- ESS (英会話研究会)
- 裏千家茶道部
- 映画制作サークル
- SF研究会
- エンカレッジ福島
- 演劇研究会
- 音楽プロデュース研究会
- 化学研究会
- 管弦楽団
- ギタークラブ
- 競技麻雀部
- 考古学研究会
- 混声合唱団
- 児童文化研究会
- 写真部
- しゅわ手話研究会 Drops
- 書道研究会
- 吹奏楽団
- 福島大学ねこサークル
- HEARTS (学生ボランティア)
- ハートフル☆スタジオ
- はらい川セツルメント
- ピア☆カン
- 美術研究会
- Folk&Rock研究会
- 文芸部
- 漫画研究会
- お笑い同好会
- 放送部
- 旅行同好会
- COLORS
- 福島大学農林サークル

体育系公認サークル

- 合気道部
- 居合道部
- オリエンテーリング部
- 弓道部
- 競技ダンス部
- 行政政策学類陸上競技部
- 経済バスケットボール部
- 剣道部
- 硬式テニス部
- 硬式野球部
- サッカー部
- 山岳部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 女子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- 女子ハンドボール部
- 女子ラクロス部
- 福島学生“源種”～seed～
- 水泳部
- スキー部
- ストリートダンス同好会 (D.FOOL)
- ソフトテニス部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 男子バレーボール部
- 男子ソフトボール部 (SPARKS)
- 男子ハンドボール部
- 男子ラクロス部
- バドミントン部
- 夜間主剣道部
- ラグビー部
- 陸上競技部
- ワンダーフォーゲル部
- チアダンスサークル～Peach Graffiti～
- 馬術部



はらい川セツルメント

私たちのサークルでは、毎週土曜日福島市内の公園で子どもたちと遊ぶという活動をしています。他にも、キャンパスやクリスマス会など季節に合わせたイベントを年に4回実施しています。遊びに来る子どもたちは小学生がほとんどで、1年生から6年生まで幅広く参加してくれています。



就職・進路支援

福島大学では、1年次から将来の進路を考える時間を設けています。例えば、1・2年次にキャリア形成論、キャリアモデル学習、インターンシップ、ワーキングスキルを開講。基本的な職業観とモラルを身につけ、自らの進路選択と大学での学びとを関連づけて考えることができる教育を行っています。キャリアセンターは、その学び、考えたことが進路決定につながるように、学生のサポートとして、さまざまな事業を実施しています。



Support 1 就職・進路相談

自分の将来を真剣に考えれば考えるほど、答えがわからなくなったり、迷いが生じたり。就職するまでには、誰もが不安を感じるものです。そんな時は、キャリア相談員に話してください。どんなに小さな悩みでも、相談に応じます。



[相談日] 月曜～金曜 10:00～17:00

Support 2 各種就職ガイダンス

開催される就職ガイダンスは、年間24種類以上。講演会や説明会などを通して、就職活動に必要な知識や情報の提供を行うなど、がんばる学生に対して、多彩なサポートを行っています。



[1・2年生] 主に3年生向けに行われるガイダンスに、見学者として参加することができます。
 [3・4年生] 就活スタートアップ講座、業界研究講座、教員関係、公務員関係、インターンシップ対策講座、SPI説明会・webテスト、エントリーシート作成講座、面接対策講座、グループディスカッション対策座、マナー講座ほか
 ○キャリア相談員による実践型就職ミニセミナーの開催やゼミなどへの出張就職セミナーの実施

Support 3 キャリアセンターの利用

キャリアセンターには、会社案内が揃っており、先輩方が残してくれた就職試験報告書などと合わせて、さまざまな資料の閲覧ができます。このほか、公務員・教員採用試験関係資料、就職に関するガイドブックの貸し出しも行って。また、パソコンが設置されていますので、インターネットによる就職情報の閲覧・収集も可能。各種就職情報サイトへの接続はもちろん、就職システムを利用して、本学に届いている求人情報が検索できます。



Support 4 業界研究セミナー

主に就職活動が本格化する3年次を対象に、複数の企業を招いて業界研究セミナーを開催しています。参加社数は限られますが、合同企業説明会よりも早いタイミングで業界や企業を知ることができる機会となっています。



Support 5 合同企業説明会

民間企業への就職を目指す学類3年次及び大学院1年次生を対象に、本学主催の合同企業説明会を開催しています。福島県内外から200社以上の企業が出展。絶好の情報収集の機会となっています。



Support 6 保護者の皆様へのサポート

毎年開催されている大学祭の時期に、「保護者のための就職セミナー」を実施して、就職活動の環境や、親の関わり方などについて、理解を深める機会にいただいています。また、保護者宛てに各種情報提供も行っています。

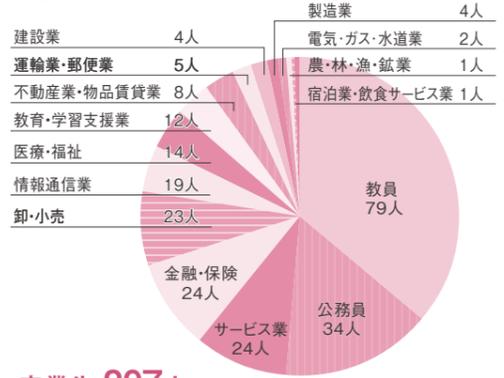


進路状況

※進路データは2020(令和2)年度卒業生実績

人間発達文化学類

就職者内訳



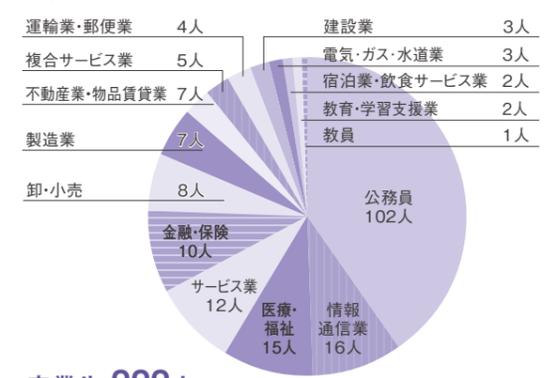
卒業生 297人
 [就職者:254人 進学者等:21人 その他:22人]

就職先一例

【教員(公立)】福島県、会津美里町、磐梯町、岩手県、宮城県、仙台市、松島町、山形県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県など
 【教員(私立)】福島めばえ幼稚園、福島愛隣幼稚園、福島成徳学園など
 【保育士】福島市、郡山市、いわき市、さくら市、寒河江市、尾花沢市、米沢市など
 【公務員】厚生労働省労働局、文部科学省、法務省福島地方家庭裁判所、法務省(法務教官)、財務省(国税専門官)、福島県、福島市、いわき市、鏡石町、二本松市、会津若松市、宮城県、山形県(警察)、日上市、栃木県、茨城県(心理職)、太田市、文京区、東京都(心理職)など
 【企業】(株)石井工務店、(株)ユアテック、会津オリバス(株)、福島キヤノン(株)、白河オリバス(株)、東北エスピー(株)、(株)東日本計算センター、(株)ヨークベニマル、(株)USEN-NEXT HOLDINGS、東日本旅客鉄道(株)、リコージャパン(株)、資生堂ジャパン(株)、(株)モンテローザ、福島銀行、山形銀行、東京海上日動火災保険(株)、グランディアハウス(株)、アクセンチュア(株)など

行政政策学類

就職者内訳



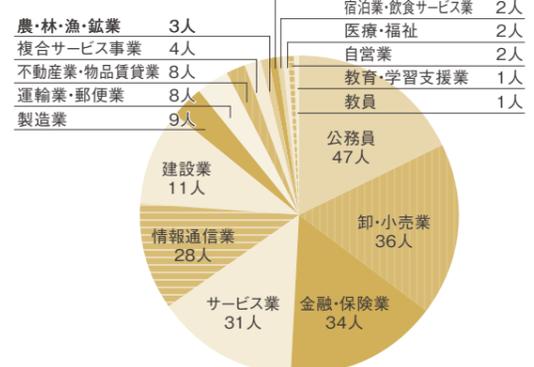
卒業生 222人
 [就職者:197人 進学者等:6人 その他:19人]

就職先一例

【公務員】福島労働局、法務省法務局、福島地方法務局、法務省保護局、福島地方裁判所、青森地方検察庁、法務省(法務教官)、仙台地方裁判所、東北地方整備局、東北運輸局、仙台国税局、東北経済産業局、東北農政局、山形労働局、総務省、山形地方検察庁、陸上自衛隊、福島県、福島県(警察)、福島市、二本松市、会津若松市、喜多方市、大熊町、桑折町、白河市、須賀川市、八戸市、北上市、大船渡市、奥州市、宮城県、宮城県(警察)など
 【企業】ヤマニ建設(株)、東日本高速道路(株)、大和川酒造店、仁井田本家、ムネカタ(株)、酒田天然瓦斯(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)NTT東日本一東北、福島民報社、(株)システムネットワーク、TSR(株)、(株)テブシステムズ、茨城水産(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)イトヨーカ堂、(株)イワキ、JAライフクリエイト福島、みやぎ生活協同組合、(株)ニトリ、東邦銀行、福島銀行、大東銀行、群馬銀行、山形銀行、内藤証券(株)、第一生命保険(株)、ベストファーム(株)、エステート住宅産業(株)、(株)ウェディングエルティ、日本年金機構など

経済経営学類

就職者内訳



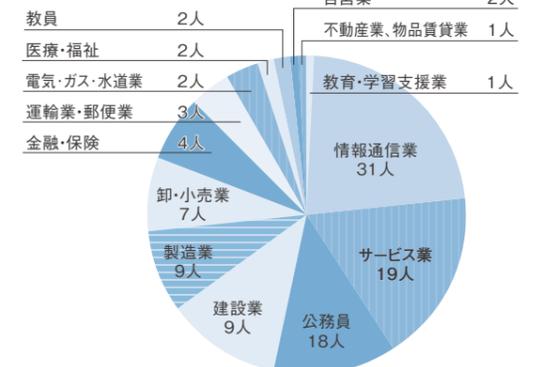
卒業生 253人
 [就職者:230人 進学者等:5人 その他:18人]

就職先一例

【公務員】福島労働局、福島地方裁判所、人事院東北事務局、東北運輸局、東北財務局(財務専門官)、宇都宮地方検察庁、横浜税関、福島県、福島市、郡山市、いわき市、会津若松市、大玉村、川内村、西郷村、須賀川市、岩手県(警察)、宮城県、岩沼市、秋田県、茨城県、宇都宮市など
 【企業】伊藤建設(株)、秋山精鋼(株)、キョクシア岩手(株)、東北電力(株)、(株)エフコム、(株)福島中央テレビ、(株)NTT東日本一東北、(株)NTTデータ東北、(株)大塚商会、アイベックスエアラインズ(株)、日本通運(株)、リコージャパン(株)、(株)デンソーソリューション、(株)ギフトプラザ、(株)ダイユーエイト、(株)ヤナセ、(株)良品計画、二本松信用金庫、東邦銀行、福島信用金庫、福島県信用保証協会、農林中央金庫、北日本銀行、岩手銀行、宮城県信用保証協会、七十七銀行、日本政策金融公庫、とちぎんTT証券(株)、足利銀行、岡三証券(株)、リソな銀行、(株)アプラス、SMBCC日興証券(株)、協栄信用組合、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、三井住友海上火災保険(株)、東京海上日動火災保険(株)など

共生システム理工学類

就職者内訳



卒業生 175人
 [就職者:110人 進学者等:56人 その他:9人]

就職先一例

【公務員】仙台国税局(国税専門官)、東北地方整備局(土木)、東北運輸局(機械)、原子力規制庁、福島県、福島県(土木)、福島県(警察)、福島市、福島市(土木)、郡山市、いわき市(機械)、伊達市、青森県(土木)、名取市、酒田市、筑西市、茨城県、真岡市、文京区(土木)、日野市など
 【企業】小林土木(株)、(株)オノヤ、セコムエンジニアリング(株)、ムネカタ(株)、小林化工(株)、西田精機(株)、(株)山本製作所、(株)日立ハイテクファインシステムズ、キョクシア岩手(株)、太陽誘電モバイルテクノロジー(株)、デンソーテクノ(株)、福島キヤノン(株)、日本精機(株)、(株)ホンダテクノフォート、(株)SHOEI、(株)シーズ、常盤共同火力(株)、アルパイン情報システム(株)、朝日システム(株)、(株)エフコム、(株)福島情報処理センター、(株)福島県中央計算センター、(株)ドコモ東北、(株)NTT東日本一東北、(株)NTTデータ、ハイテクシステム(株)、日本システムウェア(株)、(株)USEN-NEXT HOLDINGS、NECフィールドイング(株)、東日本旅客鉄道(株)、鉄道建設・運輸施設整備支援機構など

入試データ

2022年度 入学試験統計

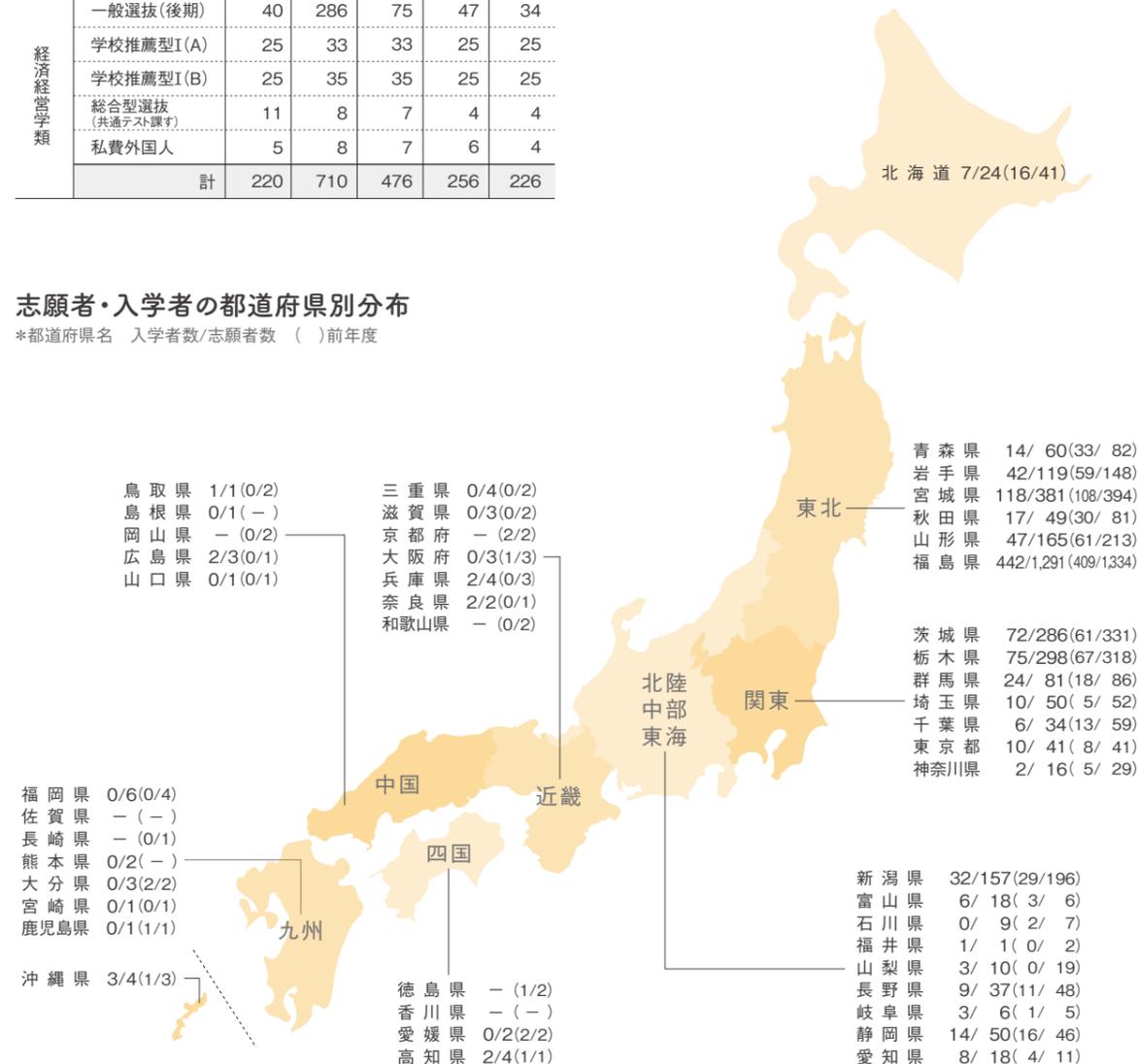
学類	入試種別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
人間発達文化学類	一般選抜(前期)	154	558	462	177	159
	一般選抜(後期)	12	290	88	23	15
	学校推薦型II (共通テスト課外)	74	115	115	68	68
	総合型選抜	20	44	43	21	21
	私費外国人	若干名	3	0	0	0
計	260	1,010	708	289	263	
行政政策学類	一般選抜(前期)	108	158	154	114	111
	一般選抜(後期)	35	338	105	43	33
	学校推薦型I	42	67	67	43	43
	総合型(夜間主)	20	31	30	22	22
	私費外国人	若干名	3	3	2	1
計	205	597	359	224	210	
経済経営学類	一般選抜(前期)	114	340	319	149	134
	一般選抜(後期)	40	286	75	47	34
	学校推薦型I(A)	25	33	33	25	25
	学校推薦型I(B)	25	35	35	25	25
	総合型選抜 (共通テスト課外)	11	8	7	4	4
	私費外国人	5	8	7	6	4
計	220	710	476	256	226	

学類	入試種別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
共生システム理工学類	一般選抜(前期)	70	135	132	92	81
	一般選抜(後期)	42	316	81	56	47
	学校推薦型I	23	52	52	23	23
	総合型選抜	25	52	51	26	26
	私費外国人	若干名	5	5	2	1
計	160	560	321	199	178	
食農学類	一般選抜(前期)	60	156	146	67	62
	一般選抜(後期)	20	207	61	26	23
	総合型選抜	20	34	34	21	21
	私費外国人	若干名	0	0	0	0
	計	100	397	241	114	106
合計	945	3,274	2,105	1,082	983	

※政府派遣留学生3名は含まない

志願者・入学者の都道府県別分布

*都道府県名 入学者数/志願者数 ()前年度



学費・奨学金

入学料

282,000円 夜間主 / 141,000円

納入方法 入学手続前に所定払込用紙により金融機関で振り込み、入学手続時に納入書(大学提出用)を提出。

※入学時及び在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。
※入学時には、入学料のほかに別途修学関係経費、各種会費が必要になります(学類によって金額は異なります)。

授業料

年額 535,800円 夜間主 / 年額 267,900円

納入方法 入学後、前期分と後期分に分けて、年額の2分の1相当額をそれぞれ4月、10月に学生本人指定口座から引き落とし。

学費免除について

[学類生]

国の修学支援新制度により、日本学生支援機構の給付奨学生となった方(非課税世帯またはそれに準ずる世帯の方)は支援区分により入学料及び授業料が免除となります。(第I区分:全額免除、第II区分:2/3免除、第III区分:1/3免除)※日本学生支援機構給付奨学金は、入学の前年度に高校に申込を行ってください。または入学後、すぐに学生・留学生課へ申込を行ってください。また、修学支援新制度の対象とならない方については、入学料及び授業料の徴収を一定の期日まで猶予する制度があります。

[大学院生]

経済的理由により入学料及び授業料の納入が困難な方に対し、家計基準に応じ学費を減免します。また学類生同様、学費の徴収を猶予する制度があります。博士後期課程の学業優秀者に対しては、選考のうえ授業料を免除する制度があります。

奨学制度

<日本学生支援機構奨学金>

[給付奨学金]

高等教育の修学支援新制度により、日本学生支援機構が、対象となる学生へ奨学金を給付します。支援区分と通学区分により給付月額が決まります。

[貸与奨学金]

無利子の第一種奨学金と利息のつく第二種奨学金があります。第一種奨学金の貸与条件である学業成績と家計の困窮度は、第二種奨学金よりも厳しく設定されています。

[日本学生支援機構給付奨学金]の場合

奨学金の種類	金額/月(国立大学の場合)	
自宅外通学	第I区分	66,700円
	第II区分	44,500円
	第III区分	22,300円
自宅通学	第I区分	29,200円
	第II区分	19,500円
	第III区分	9,800円

<しのぶ育英奨学金 福島大学独自の給付型奨学金>

● 本学に1年以上在学の学類生が対象です。● 4~5名程度を選抜し、毎月1人5万円(年間総額60万円)支給します。● 返還する必要はありません。

<その他の奨学金>

都道府県市町村、各種団体の制度もあります。

入学者選抜要項・各募集要項等の請求方法

入学者選抜要項発表は7月中旬予定です。各種詳細はウェブサイトをご確認ください▶
<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/seikyuu.html>



受験生応援サイトにてWebオープンキャンパス開催

Webオープンキャンパス

各種詳細はウェブサイトをご確認ください▶
<https://www.fukushima-u.ac.jp/examination/>

- 動画で見る福島大学
- 福島大学のイトコロ
- 福大生から高校生へのメッセージ
- サークル活動紹介
- フォトギャラリー
- 360°パノラマビュー
- 学生生活(年間スケジュール)
- オンライン個別相談会(随時受付中) など